

ガーデンルームGF 本体編

このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためにも、各種表示
記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容および指示にしたがってください。



■本書の見かた

この取付説明書では、以下のような記号、記載、アイコンを使用しています。

安全に関する記号と説明

-  **警告** ・取扱いを誤った場合に使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示します。
-  **注意** ・取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示します。

情報に関する記号と説明

-  **お願い** ・取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。
・守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。
-  **補足** ・説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

ネジ等の締結部品の記号

ネジやナット等の締結部品を記号で示してます。(例：1a、1b、2c等)
締結部品の種類は「ガーデンルームGF 梱包明細表編(E476)」を参照してください。

□ 施工の前に

⚠ 注意

- 製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。
- 梁の重量がありますので、必要人数の確保、またはユニック車を使用してください。
- 本製品は、1階設置用です。2階以上には設置しないでください。
- 本製品は躯体に設置してください。ただし躯体に設置せず独立して設置する場合は「施工補助部材」を使用してください。
- 屋根材へ接触する部品へシリコンシーリング材を使用する場合は、ポリカーボネート板のひび割れ等のおそれがありますので、当社指定の脱アルコール系シーリング材を現場で手配してください。

シーリングメーカー	品名および品番
信越化学工業(株)	シーラント72
モメンティブ・パフォーマンス・マテリアルズ・ジャパン(合)	トスシール380
東レ・ダウコーニング・シリコン(株)	SE960

- 母屋の屋根から雪が直接落ちない場所に設置してください。落雪により、製品が破損するおそれがあります。
- 屋根材は、弊社指定品を使用してください。指定品以外を使用した場合、強風による屋根材の飛散や強度低下の原因になります。
- 寒冷地では凍結破損を防ぐため、壁樋に排水路ヒーター等を取付けるか、排水位置を高い位置に変更してください。
- それぞれの地域に対応した本体フレームをお使いください。
 600タイプ→耐えられる積雪量の目安20cm相当[600N / m²(61.2kgf / m²)]
 1500タイプ→耐えられる積雪量の目安50cm相当[1500N / m²(153kgf / m²)]
 3000タイプ→耐えられる積雪量の目安100cm相当[3000N / m²(306kgf / m²)]
- 他社商品(テラス・バルコニーなど)と合わせて設置しないでください。
- 崖っぶちなどの高低差のある場所には設置しないでください。

💡 お願い

- 正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- 製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
- 梱包明細表で必要な部材、部品が揃っているか確認してください。
- スプレー式シリコン系潤滑剤、アルコール系シーリング材は、現場で手配してください。
- 施工終了後、取扱説明書は施主様にお渡しください。

□ 施工上のご注意

⚠ 注意

- 垂木掛け、躯体方立は柱・間柱・胴差しなどの構造材に必ず止めてください。
 躯体位置がわからない場合、および躯体が強度保持できない場合は取付けないでください。
- タッピンねじの下穴には指定より太いドリルを使用しないでください。
- 躯体が経年劣化などで損傷が著しい場合は、施主様と打合せをし、新しい柱・胴差しを入れるなどの補強をしてから取付けてください。
- プラグ類を使用して、モルタル部分だけで固定することは非常に危険ですから絶対に行わないでください。
- ボルト、ネジは弊社純正品の規定本数を使い、下記の推奨締付けトルクで固定した後にゆるみがないか確認してください。製品の強度低下、またはケガの原因になります。
 ・φ4ネジ : 2.5N・m±0.5N・m(25±5kgf・cm)
 ・φ5ネジ : 3.0N・m±0.5N・m(30±5kgf・cm)
 ・M6ボルト: 5.2N・m±0.5N・m(52±5kgf・cm)
- アルミ製品が異種金属と接触する場合は、絶縁処理をしてください。
- 製品の改造は絶対にしないでください。
- 施工終了後は、ボルト、ネジなどにゆるみがないか確認してください。

□ 施工上のご注意

💡 お願い

- 施工工事にあたっては、安全に施工を行なってください。
 - ・ 作業服および保護具（保護帽、安全帯、眼、耳、手、足の保護具）を正しく使用してください。
 - ・ 作業場所の整理整頓を行なうとともに、安全確保を行なってください。
特に高所作業での安全確保、倒壊防止、照明による照度の確保など。
 - ・ 器具、工具、保護具などの機能を確認し、使用してください。
 - ・ 作業は、相互の作業と各作業工程を考慮して進めてください。
免許、技能講習、特別教育が必要な作業は、有資格者が行なってください。
 - ・ 作業者が相互に安全確認を行なってください。健康状態を十分確認し、健康管理を実施してください。
 - ・ 万が一、事故が発生した際には、直ちに手当を行ない、救助を第一に心がけてください。
- 取付説明書の指示通りに組付けてください。製品の強度など、性能が低下する場合があります。
- 施工中についた汚れは取除き、誤ってキズをつけた場合は補修塗料で補修してください。
- 施工終了後は、各アイテムの開閉、作動確認をおこない、異常、不具合のないことを確認してください。

□ 基礎工事についてのご注意

⚠ 注意

- 基礎は弊社指定の寸法以上にしてください。強度低下の原因になります。
- 寒冷地で凍上するおそれのある地域で使用する場合は、凍上線の下まで基礎を設けてください。強度低下の原因になります。
- 養生期間は十分にとり、その間に重い物をのせたり、振動を与えないでください。
- コンクリート（またはモルタル）には、塩分を含む砂（海砂）および塩素系や強アルカリ系のコンクリート用混和剤（凍結防止剤、凝固促進剤、急結剤など）は使用しないでください。使用するとアルミなどの金属が腐食する原因になります。必要な場合は非塩素系や非アルカリ系の混和剤をご使用ください。

💡 お願い

- モルタルやコンクリートの抽出液が、施工中に製品に付着しないように注意してください。抽出液は強アルカリ性で、シミやムラなどの外観不良の原因になります。
- 製品の表面に付着したモルタルやコンクリートなどは、速やかに拭き取ってください。

□ 電気配線工事について

⚠ 注意

- AC100Vの電線の埋設工事、配線工事に関しては、電気工事店の有資格者に依頼してください。
- AC100Vの照明器具は、D種接地工事を行なってください。
- 施工作業中は通電させないでください。故障・感電の原因になります。
- 垂木LED照明には、トランス電源ユニットと電源ケーブルが必要です。垂木LED照明は、AC100Vと直接接続しないでください。

💡 お願い

- 垂木LED照明を取付ける場合は、必要に応じて「防水コンセント」「連結コネクタ」「PF管」を現場で手配してください。
- 垂木LEDを取付ける際に電源スイッチが必要な場合は現場で手配してください。
- 照明用配線にはVVFφ1.6 またはφ2.0の3芯単線を準備してください。
- 照明には「入切スイッチ」を別途設けてください。「入切スイッチ」を設けないとランプ交換やお手入れの際に電源をOFFに出来ません。「入切スイッチ」は現場で別途手配してください。
- 家側からの配管はパナソニック製PF管呼び16または壁から絶縁処理を行ない配線を行なってください。

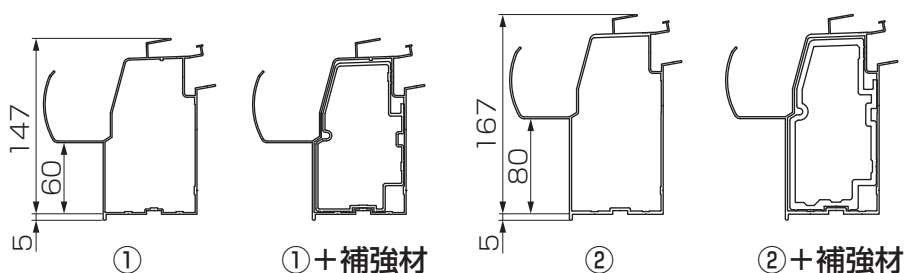
目次

使い分け表	5	6 本体の施工	37
各部名称	6	6-1 束柱と床ベース材の取付け	37
施工手順	8	6-2 床ベース材の設置	38
1 施工前の重要確認事項	9	6-3 主柱とベース材の取付け	39
1-1 柱の垂直、屋根の直角、屋根勾配	9	6-4 土間見切り材の取付け	46
1-2 床面仕上げ	9	6-5 戸袋逃げ枠の取付け	47
1-3 躯体方立の取付け	10	6-6 躯体方立の取付け	54
1-4 シーリング	11	6-7 垂木掛けの取付け	58
2 配線工事	15	6-8 桁の取付け	66
2-1 配線のとりまわし	15	6-9 妻梁の取付け	68
3 基礎寸法	17	6-10 垂木の取付け	70
4 施工前準備	17	6-11 中骨の取付け	77
4-1 水盛遣方・水糸張り	17	6-12 シーリング	78
4-2 束石の埋設	18	6-13 屋根材の取付け	79
5 加工・組立て	20	6-14 垂木カバーの取付け	80
5-1 床ベース材、束柱の加工	20	6-15 ビード材の取付け	81
5-2 主柱・中間柱の加工・組立て	22	6-16 垂木掛け端部キャップの取付け	82
5-3 柱化粧材の加工	24	6-17 桁キャップ(ランマブロック付)の取付け	83
5-4 躯体方立の加工、組立て	25	6-18 ランマの取付け	84
5-5 垂木掛けの加工	26	6-19 基礎の敷設	90
5-6 桁の加工	28	6-20 化粧材の取付け	91
5-7 連棟の加工	30	7 床幕板の施工	98
5-8 桁の組立て	32	7-1 床ベース材にのみ取付ける場合	98
5-9 特殊納まり対応用の加工(片入隅・部分入隅・躯体側出幅違い)	34	7-2 床板を多段に取付ける場合	99
5-10 端部垂木の取付け	35		
5-11 ガーデンルームプラスの加工	36		

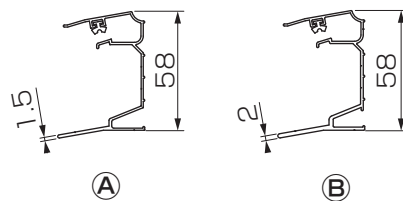
使い分け表

間口	出幅	積雪強度	桁	垂木掛け	妻梁	垂木	サブ垂木	垂木ピッチ	屋根材幅	中骨本数		
1.0間 1.5間	4尺	600	①	Ⓐ	Ⓐ	❶	設定なし	910	895	1		
		1500	②	Ⓑ			1500用	910				
		3000					3000用	(455 サブ垂木)				
	6尺	600	①	Ⓐ			Ⓑ	❷		設定なし	910	2
		1500	②	Ⓑ						1500用	910	
		3000								3000用	(455 サブ垂木)	
	9尺	600	①	Ⓑ	Ⓑ	❸			設定なし	455	440	
		1500	②									
		3000	設定なし									
2.0間	4尺	600	①	Ⓐ	Ⓐ	❶	設定なし	910	895	1		
		1500	②	Ⓑ			1500用	910				
		3000	②＋補強材				3000用	(455 サブ垂木)				
	6尺	600	①	Ⓐ			Ⓑ	❷		設定なし	910	2
		1500	②	Ⓑ						1500用	910	
		3000	②＋補強材							3000用	(455 サブ垂木)	
	9尺	600	①＋補強材	Ⓑ	Ⓑ	❸			設定なし	455	440	
		1500	②＋補強材									
		3000	設定なし									

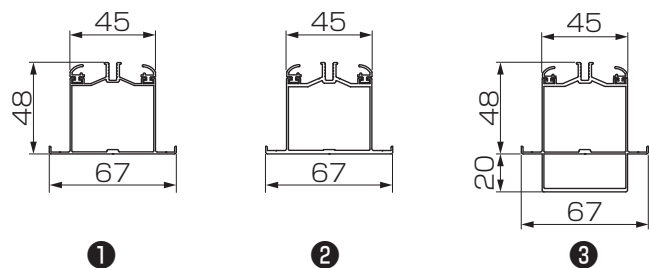
▼ 桁 ▼



▼ 垂木掛け ▼

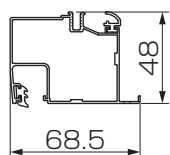


▼ 垂木 ▼



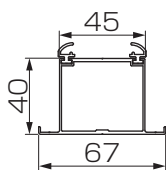
【ガーデンルームプラス用】

▼ 妻垂木 ▼

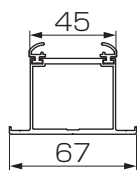


【共通】

▼ サブ垂木 ▼

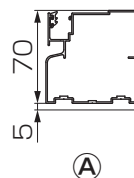


【1500用】

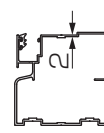


【3000用】

▼ 妻梁 ▼



(A)



(B)

各部名称

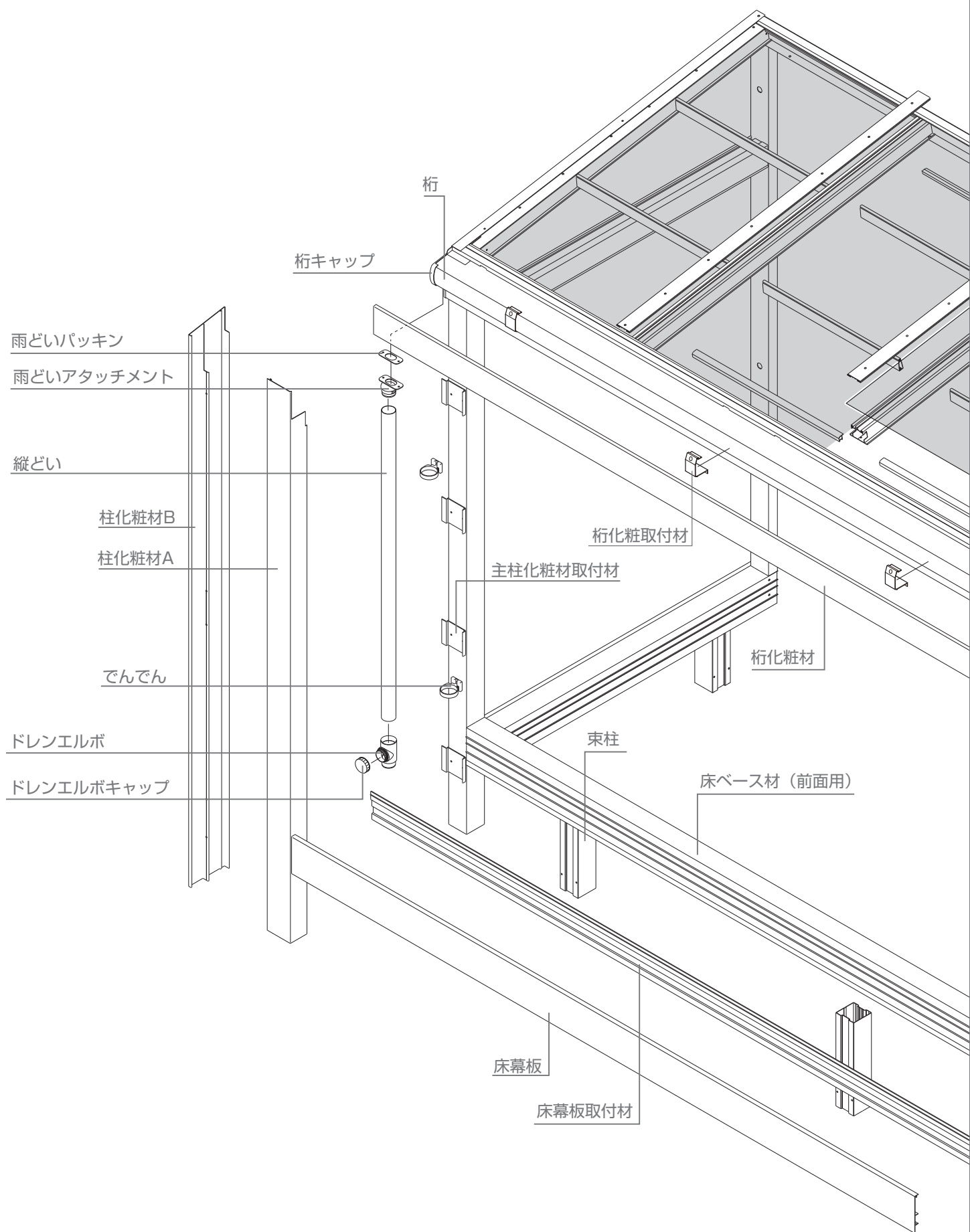
基本

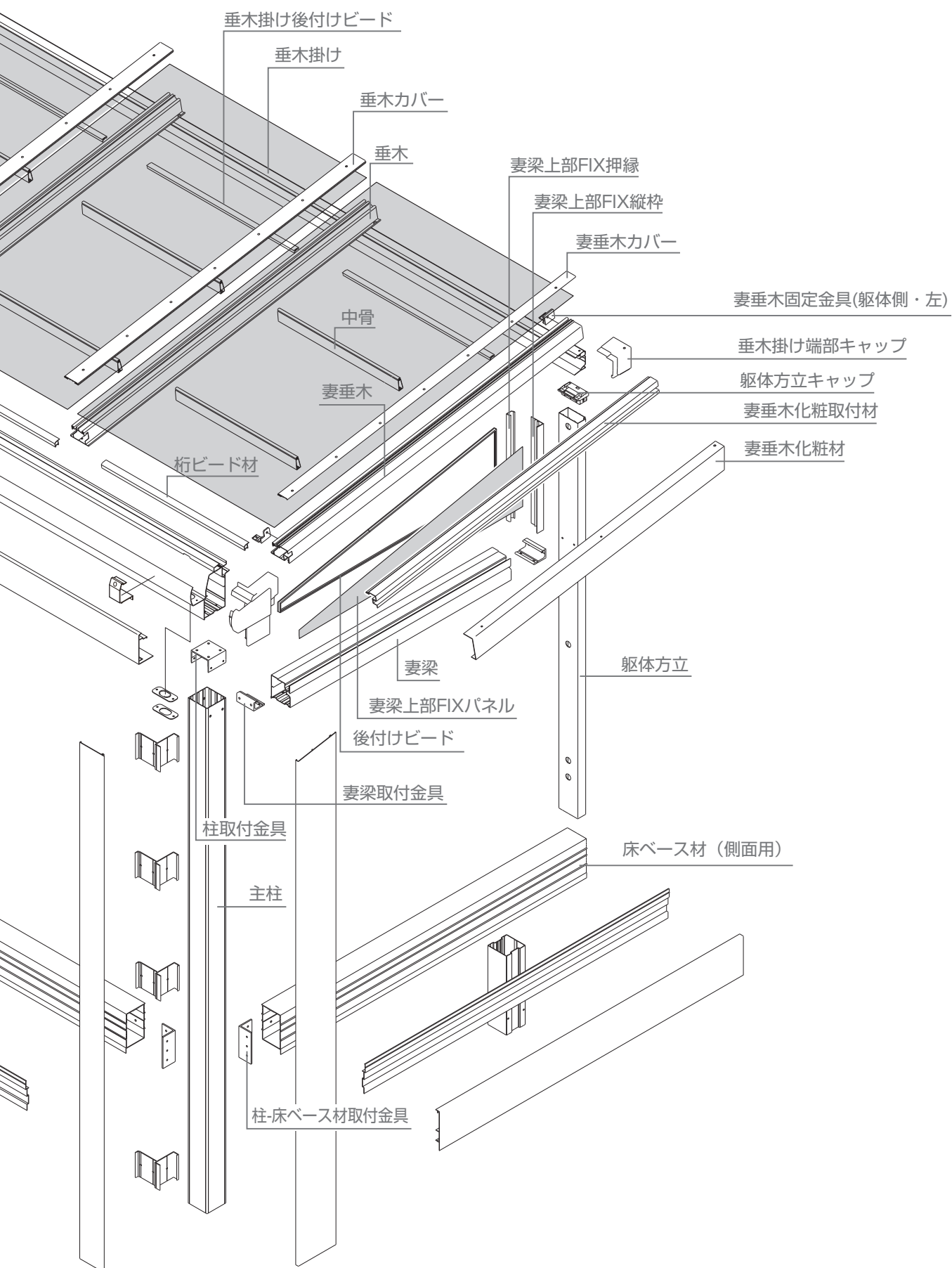
連棟

入隅

部分入隅

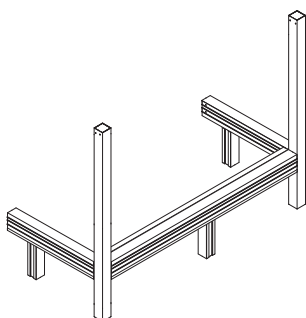
躯体側出幅違



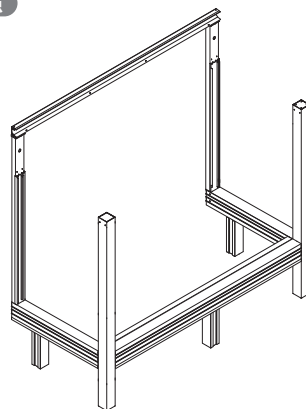


施工手順

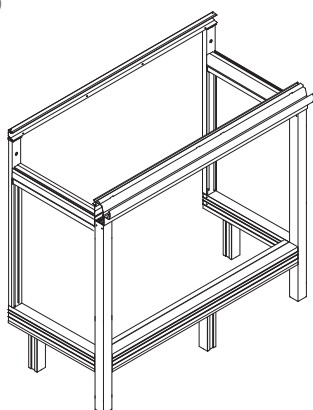
1 床ベース材・支柱 P.37参照



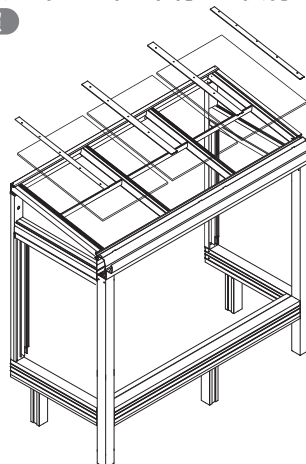
2 躯体方立・垂木掛け P.54参照



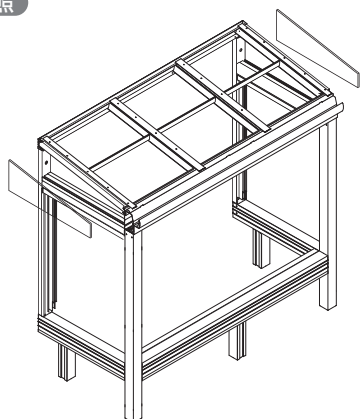
3 桁・妻梁 P.66参照



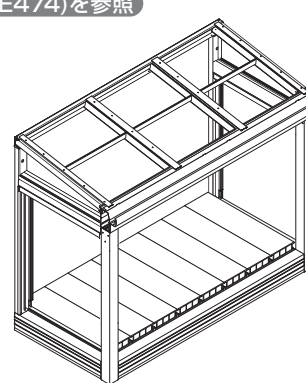
4 屋根材(妻垂木、垂木、中骨、屋根材、垂木カバー) P.71参照



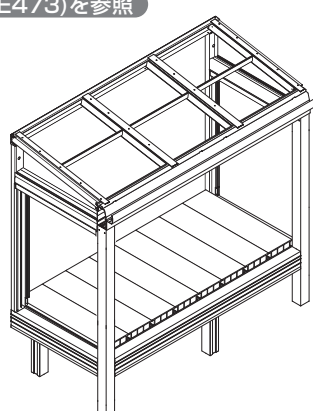
5 ランマパネル P.84参照



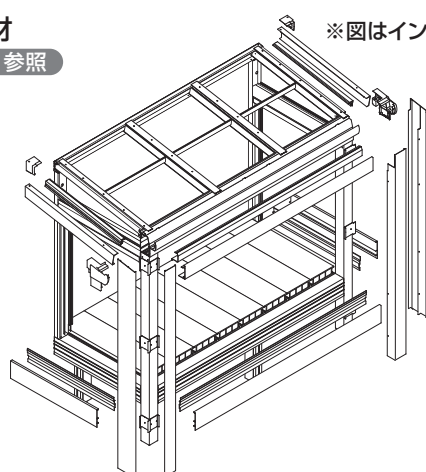
6 床部 デッキ編(E474)を参照 ※図はインナーデッキ仕様



7 開口部 開口部編(E473)を参照 ※図はインナーデッキ仕様



8 化粧材 P.91参照 ※図はインナーデッキ仕様

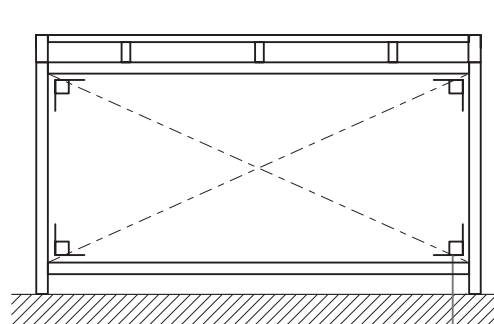


1 施工前の重要確認事項

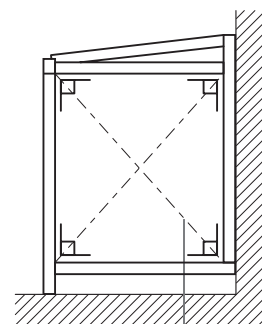
1-1 柱の垂直、屋根の直角、屋根勾配

お願い

- 水平、垂直を確認してください。



垂直確認

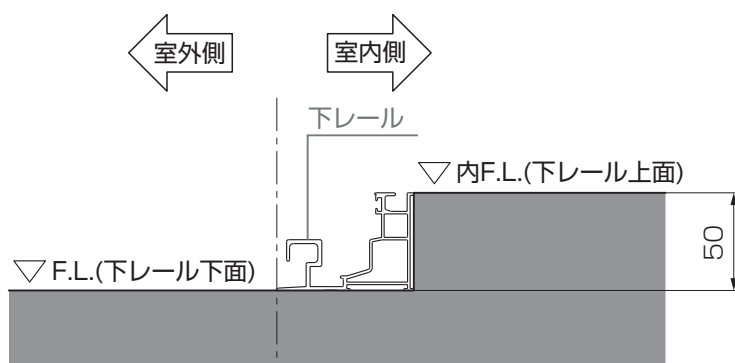


対角確認

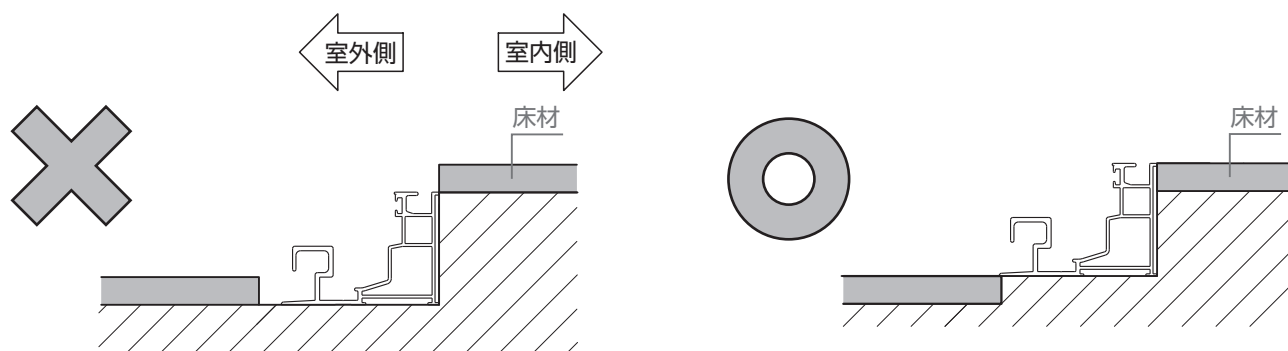
1-2 床面仕上げ

お願い

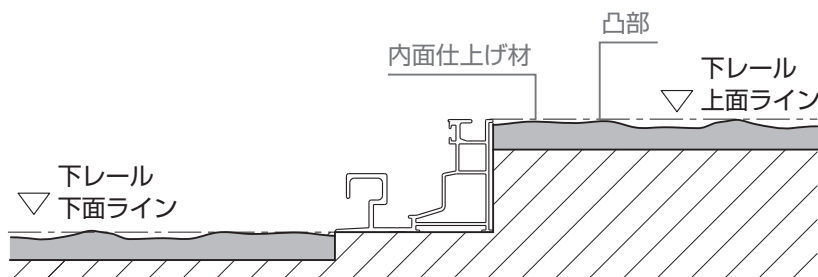
- 床面は  の範囲に必ず納めてください。
- 室外側の仕上げをF.L.より高くしないでください。下レールにたまった水やゴミを水抜き穴から排出できなくなります。
- 床材の凸ラインがF.L.より高くないように仕上げてください。
- 内面の床仕上げ面は下レール上面より高くしないでください。収納網戸などの作動に支障をきたす場合があります。



 : 土間(タイル等含む)、デッキの仕上げ範囲



▼ 凸凹の大きい床材の場合 ▼



1 施工前の重要確認事項

1-3 躯体方立の取付け

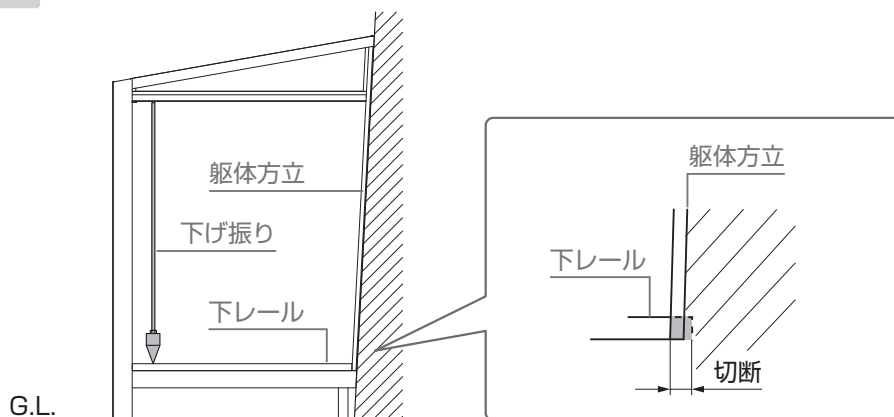
💡 お願い

- 躯体の状態によって、躯体方立を固定できない場合があります。躯体方立を固定できるよう調整をして、位置出しを行なってください。

▼ ガーデンルーム GFを調整する場合 ▼

💡 お願い

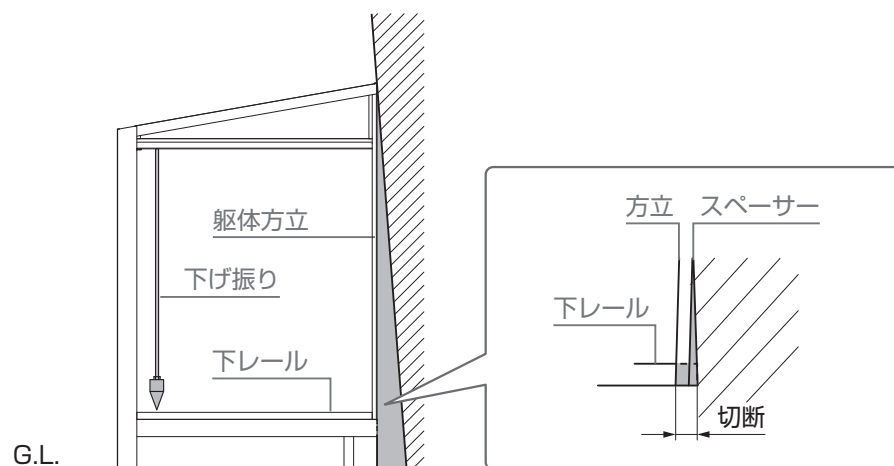
- 床ベース材、下レールを切詰め加工して、位置出しをしてください。



▼ 躯体を調整する場合 ▼

💡 お願い

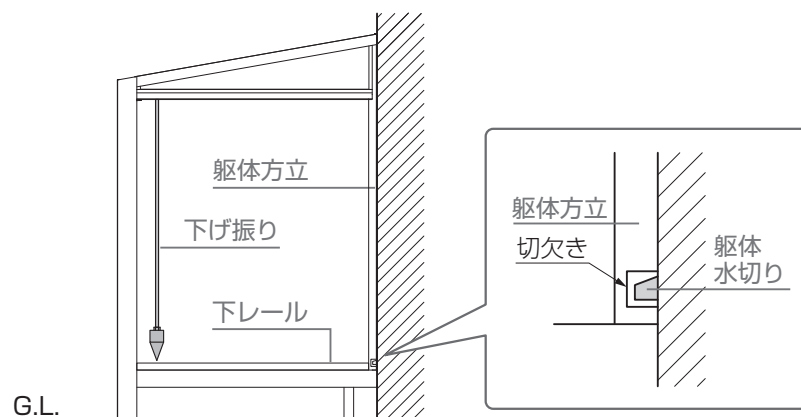
- 躯体と躯体方立の間にスペーサーを入れ、位置出しをしてください。



▼ 躯体側の水切りと干渉する場合 ▼

💡 お願い

- 躯体方立を切欠いてください。
- 躯体の水切りの出幅が躯体方立の見込みより大きい場合は別途現場対応が必要です。



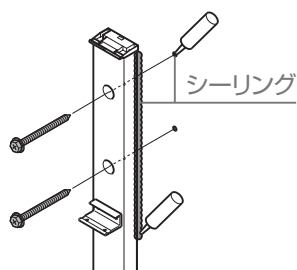
1 施工前の重要確認事項

1-4 シーリング

1-4-1 基本の場合

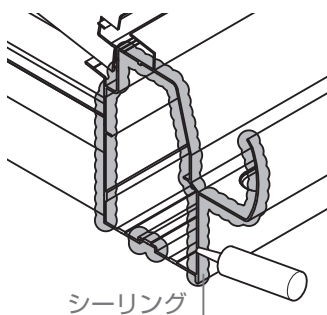
① 躯体方立

P.54参照

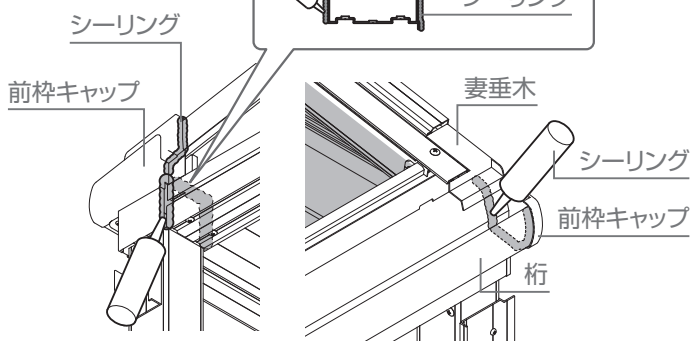


④ 桁

P.83参照



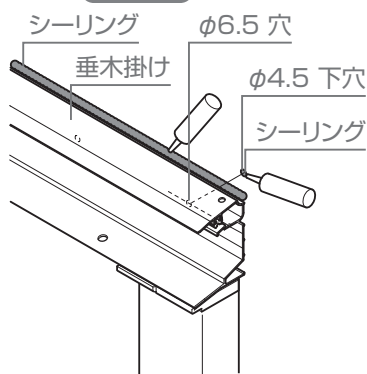
P.89参照



② 垂木掛け

(単体) P.58参照

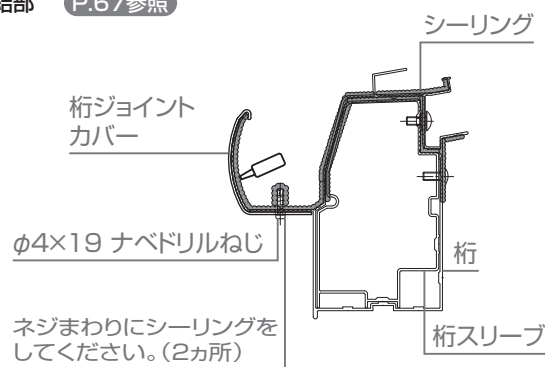
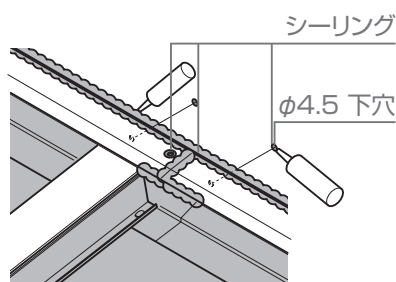
(連棟) P.60参照



⑤ 連棟部

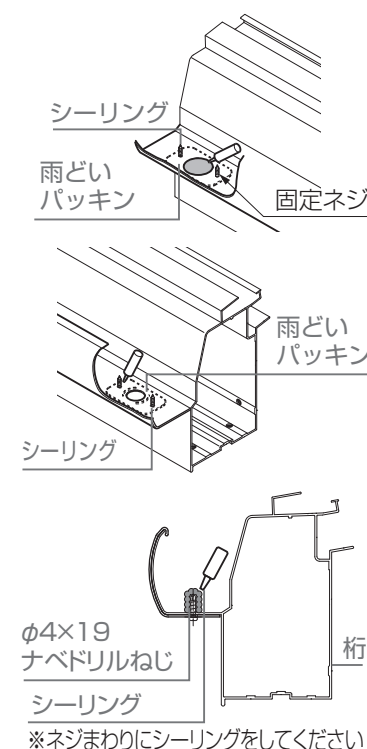
垂木掛け連結部 P.60参照

桁連結部 P.67参照



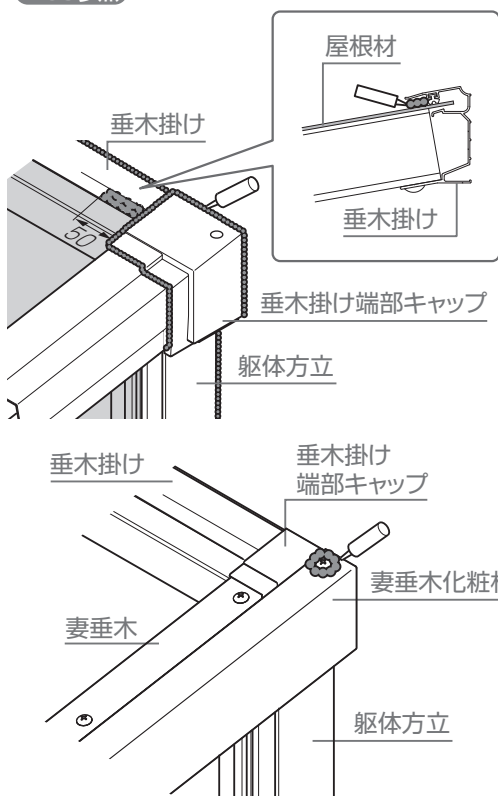
③ 雨どい

(単体) P.33参照



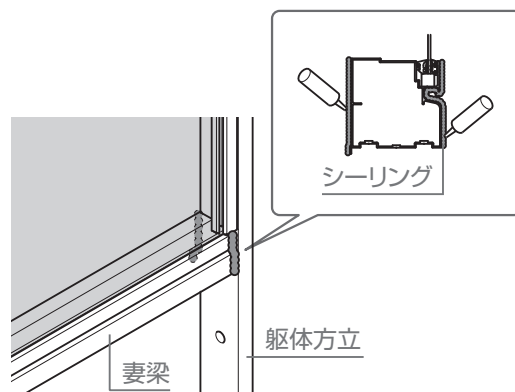
⑥ 垂木掛け端部キャップ

P.89参照



⑦ 妻梁

P.89参照

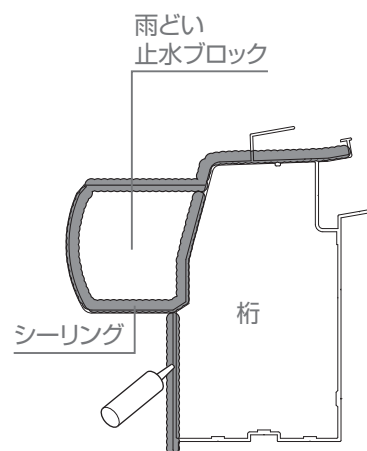
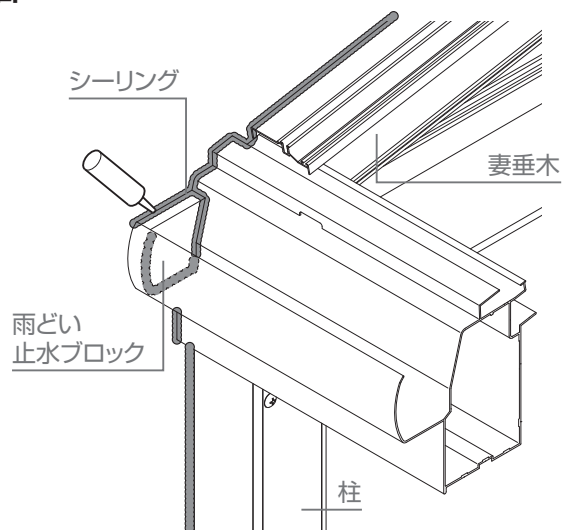


1-4 シーリング

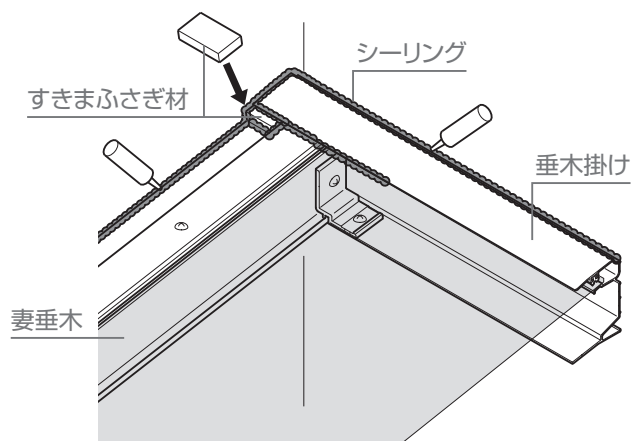
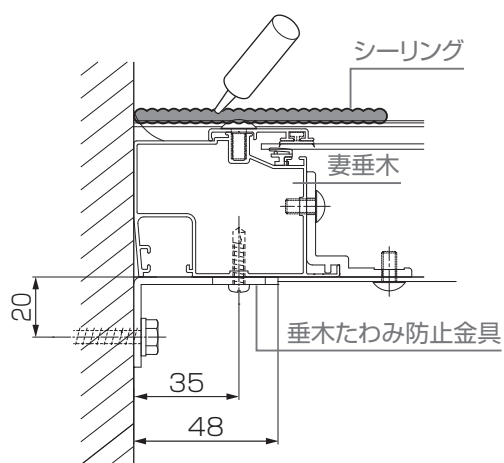
つづき

1-4-2 片入隅の場合

●桁端部



●妻垂木・垂木掛け



1-4 シーリング

つづき

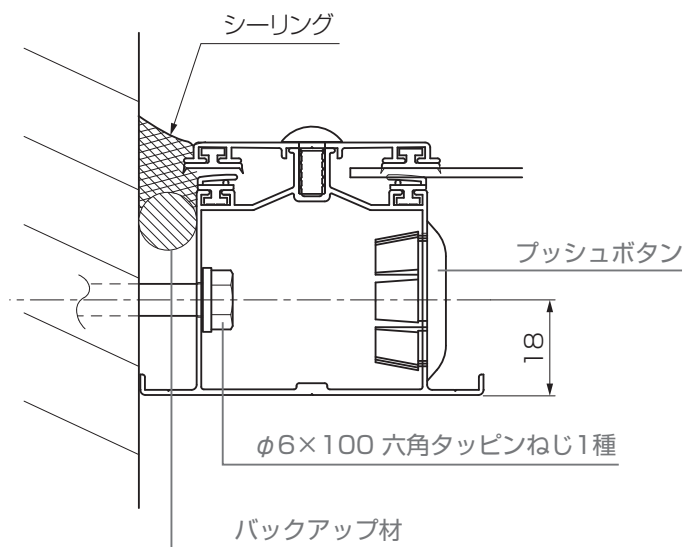
1-4-3 躯体出幅違いの場合

▼ 躯体側出幅違いの場合 ▼

●垂木・垂木掛け

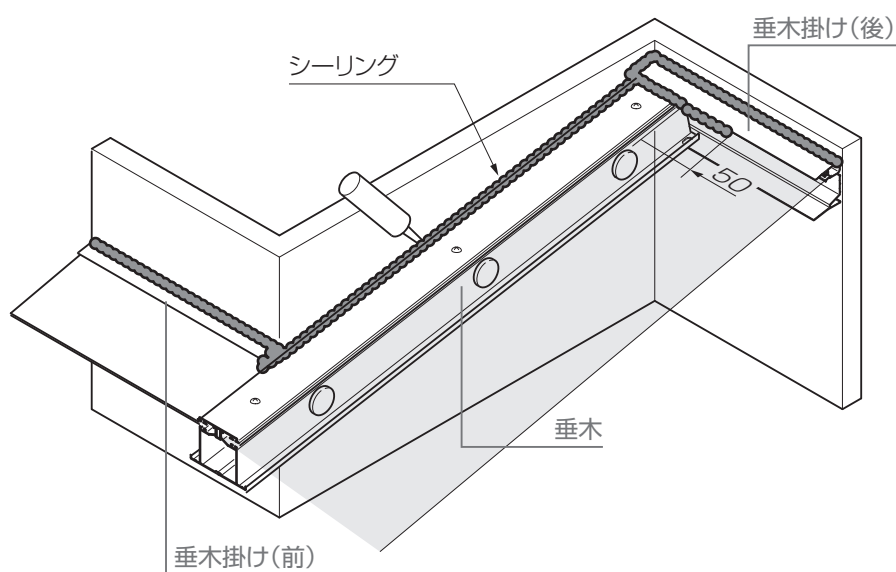
📌 お願い

- 垂木と外壁接合部にはバックアップ材を挿入し、シーリングを行ってください。



📌 お願い

- シーリング仕上げ上面は垂木カバー上面と合せてください。



基本

連棟

入隅

部分入隅

躯体側出幅違

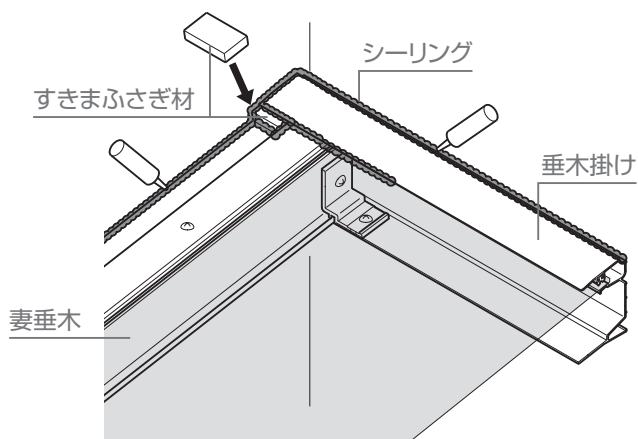
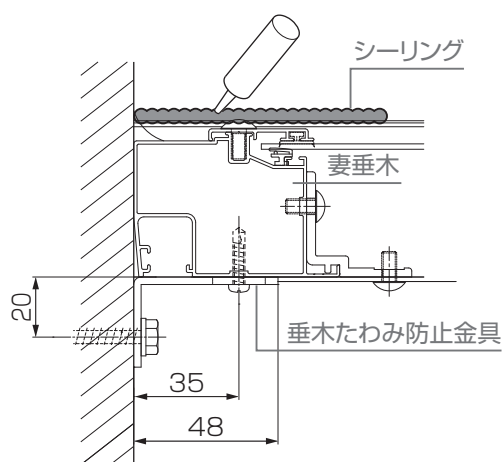
1 施工前の重要確認事項

1-4 シーリング

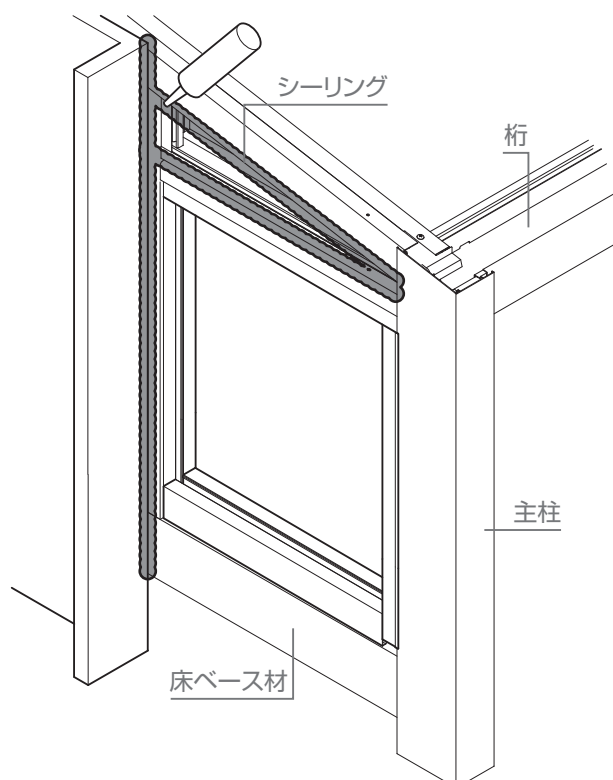
つづき

1-4-4 部分入隅の場合

●妻垂木・垂木掛け



●柱・外壁接合部(部分入隅部)



2 配線工事

2-1 配線のとりまわし ※LED照明オプションを取り付ける場合の作業です。

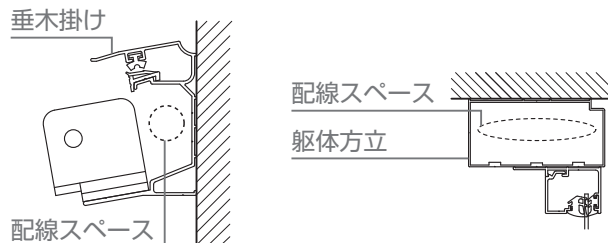
⚠ 注意

●AC100Vの電線の接続、施工には電気工事士の資格が必要です(コネクタ配線を除く)。必ず、販売店、工事店に依頼してください。

💡 お願い

▼ 垂木掛けの溝や躯体方立を配線に利用する場合 ▼

- 部材、部品にあけた穴は、配線保護のためグロメットなどで小口の保護をしてください。
- 外側にあけた穴は、止水のためのシーリングを必ず塗布してください。



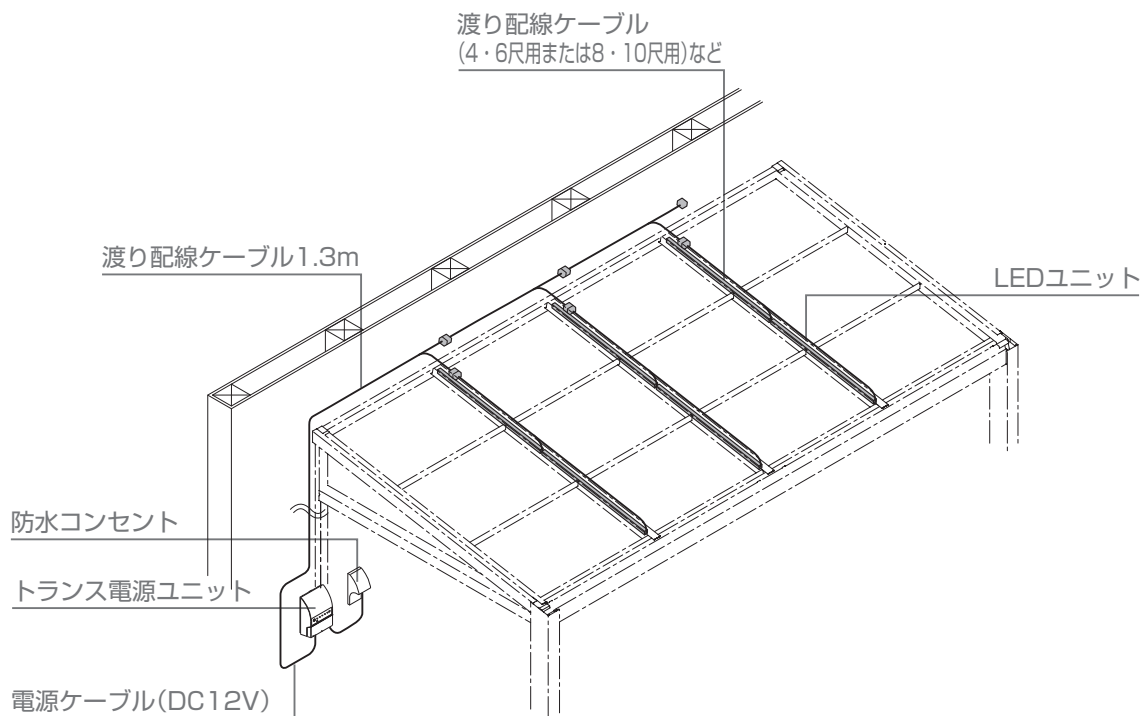
2-2-1 | トランス電源ユニット35Wまたは60Wを使用する場合

💡 お願い

●下図は配線の一例です。現場の照明プランにしたがって配線計画を行なってください。

✍ 補足

●LEDユニットは、渡り配線ケーブルを介して10セットまで連続接続が可能です。



2 配線工事

2-1 配線のとりまわし

つづき

2-1-2 配線工事

💡 お願い

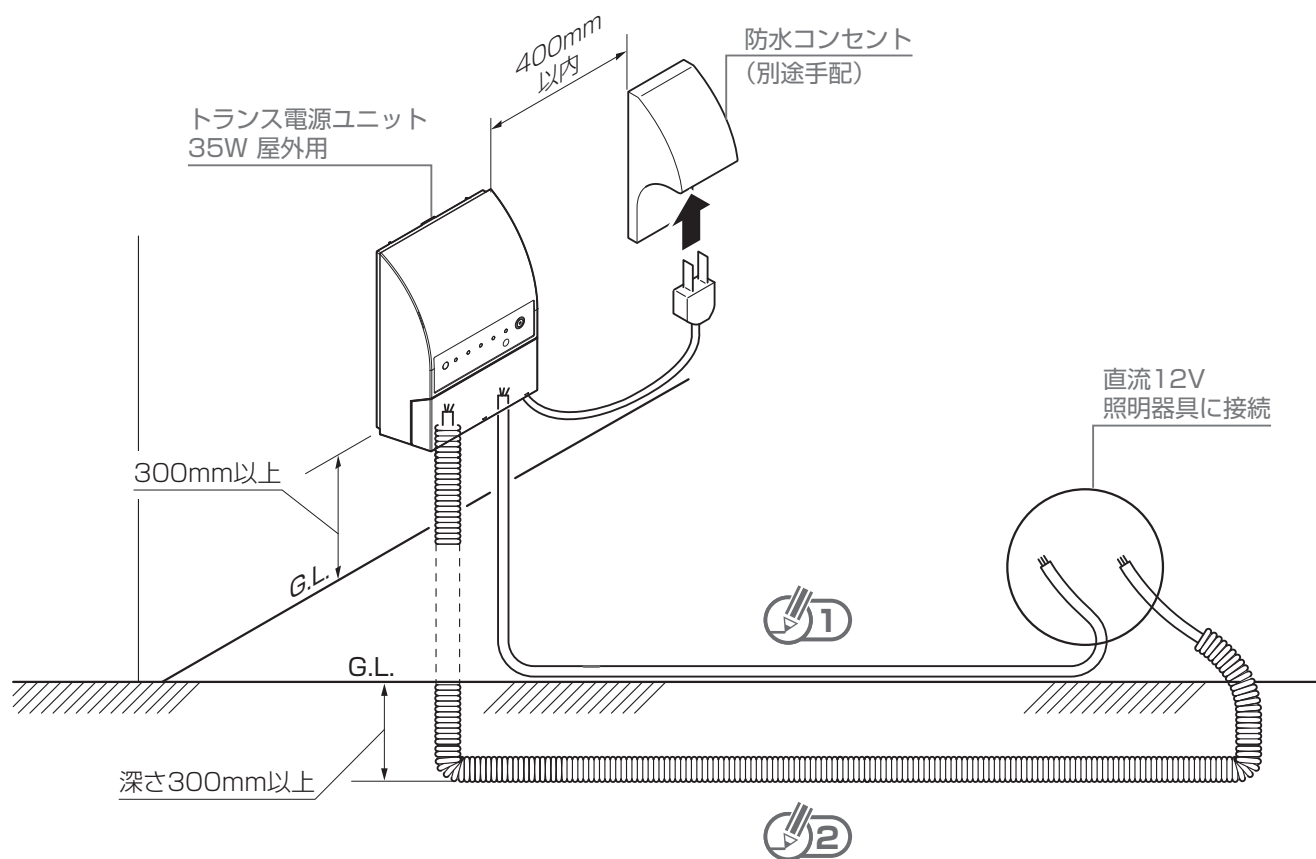
- 埋込み配線の場合で車両その他の重量物の圧力を受けるおそれのある場所においては深さ600mm以上にしてください。
- トランス電源側の配管は、G.L.より300mm以上必ず立ち上げてください。
- トランス電源ユニットの取付けは「トランス電源ユニット35W / 60W 屋外用 取付説明書(Z546)」を併せて参照してください。
- 防水コンセントは別途手配してください。
- 躯体側から配線配管をする場合は、躯体側に配線を出してください。
- 地下埋設する場合のPF管は、現場で手配してください。
- 電源ケーブルの長さを調整する場合は、トランス電源ユニット側を切詰めてください。

🔧 補足 ①

- 露出配線の場合は、ケーブルを地表に露出して配線します。

🔧 補足 ②

- 埋込み配線の場合、埋設管により地中に埋設して配線します。(φ16PF管またはパナソニック DM316相当品)

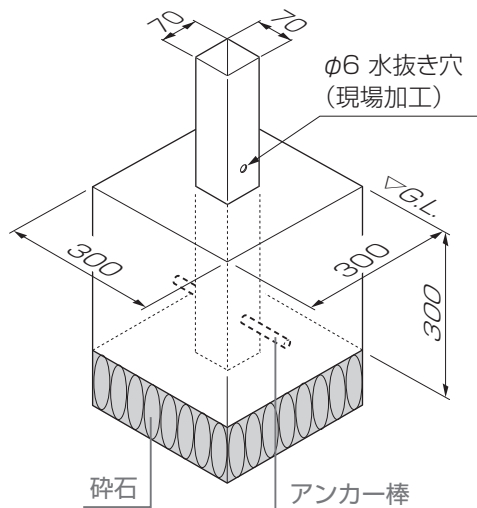


3 基礎寸法

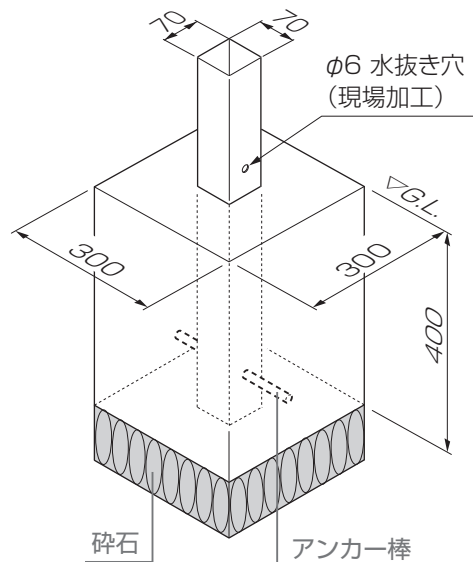
お願い

- 柱には必ずアンカー棒を取付けてください。
- 各地域の凍土深度に合わせて基礎深さを調整してください。

▼ デッキ仕様 ▼



▼ 土間納仕様 ▼

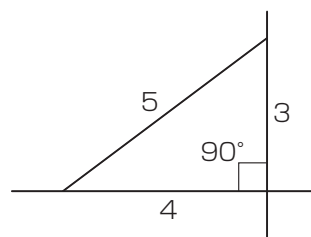
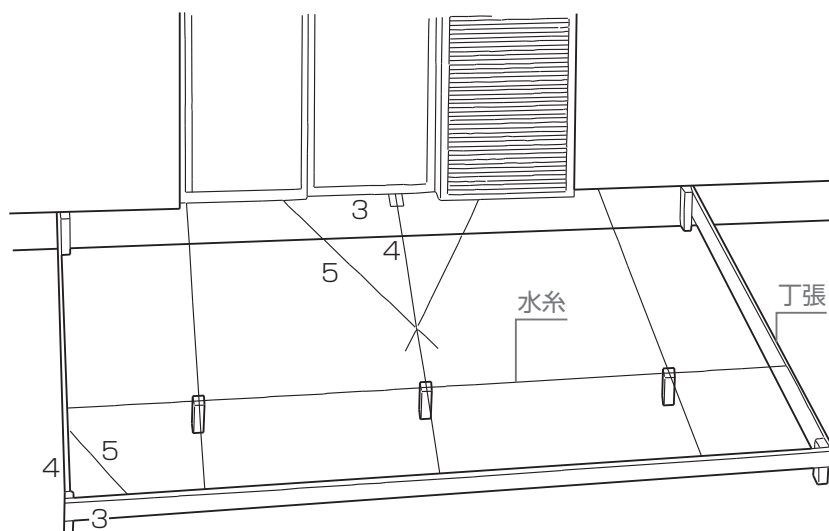


4 施工前準備

4-1 水盛遣方・水糸張り

お願い

- 躯体の構造材(柱、間柱、胴差しなど)に躯体方立、垂木掛けが固定できる場所に設置してください。
- 「ガーデンルームGF 図面編 (E475)」を参照して本体の取付位置およびフロアの高さを決めてください。
- 前面・両側面に丁張を組んでください。
- 丁張の位置は本体外寸より前面・両側面ともにやや大きめに決めてください。
- 丁張は水準器等で水平を取ってください。
- 各コーナーの直角を定規、直角出し寸法で割り出してください。
- 躯体に床ベース材位置の印をつけ、直角を出してください。
- 床ベース材の位置から柱、束柱位置を決めてください。
- 基準となる箇所の必要部分を墨出してください。



【直角出し寸法】

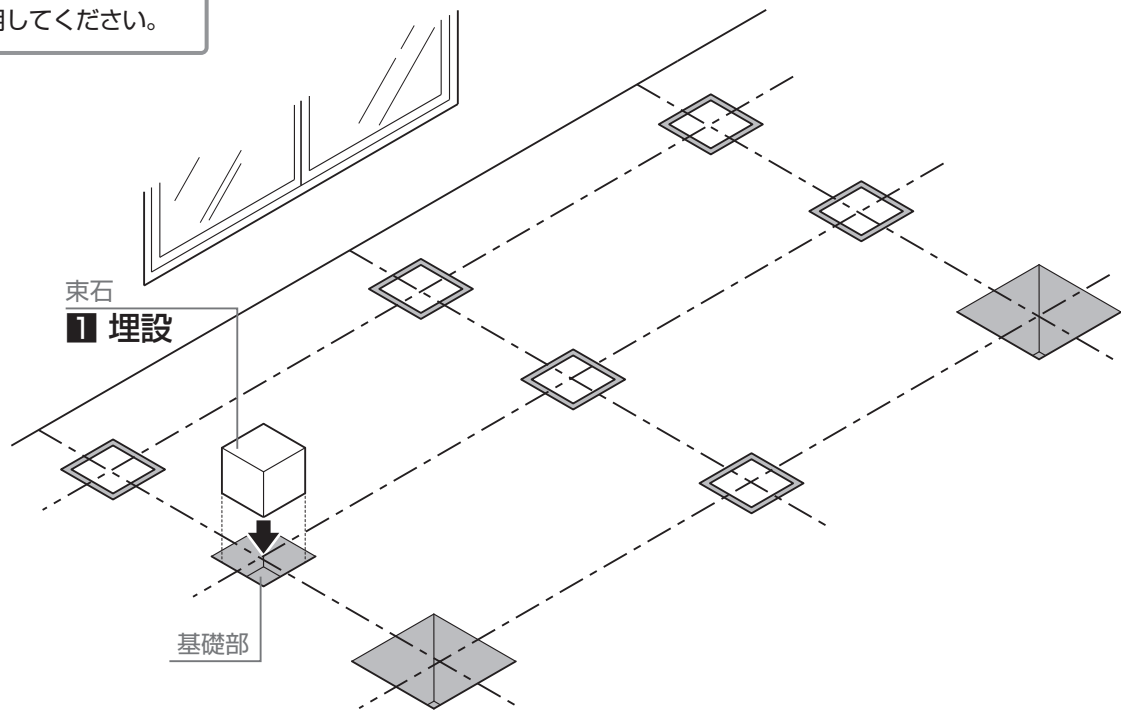
4 施工前準備

4-2 束石の埋設

1: 束石を束石用の穴に埋設

お願い

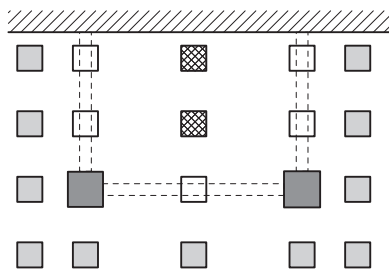
- 「ガーデンルームGF 図面編 (E475)」に記載の「基礎伏図 (P.7)」を参照して束石の位置を確認してください。
- 束石は200mm×200mm×200mmのものを使用してください。



補足

●基本的な束柱の配置は左図になります。

- = ガーデンルームGF柱
- = ガーデンルームGF束柱
- ▨ = 内面デッキ用束柱
- = 外面デッキ用束柱



4-2 束石の埋設

つづき

▼ 床ベース材を使用しない土間仕様の場合 ▼

💡 お願い

- 開口用枠、土間ベース材を設置する幅を水平にして、設置面を平滑に仕上げてください。
- 柱埋め込み用穴を準備してください。

1: 土間ベース材を固定土間に【25a】で固定

💡 お願い

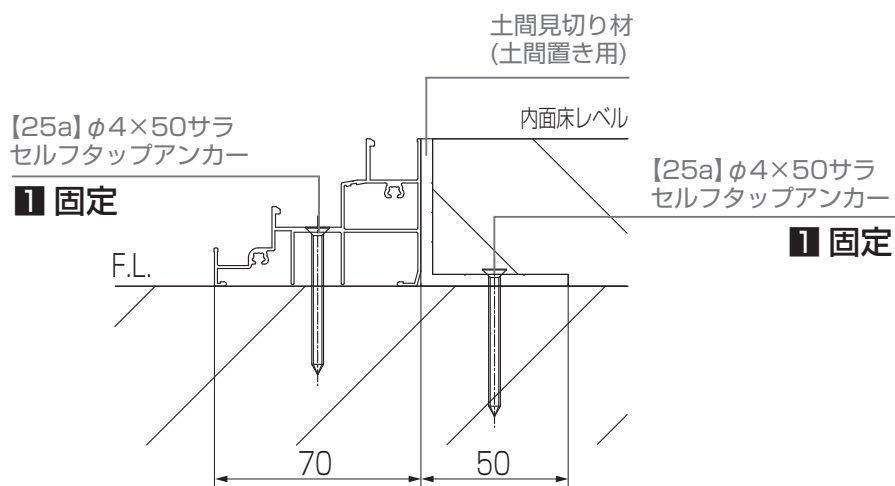
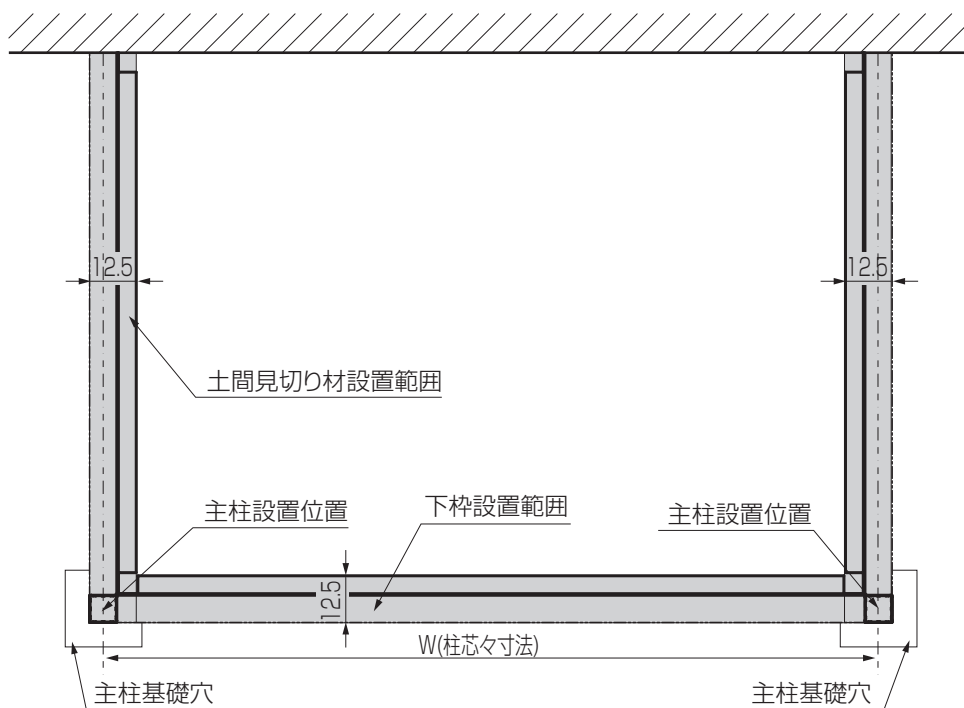
- 設置範囲は必ず水平かつ平滑に仕上げてください。
傾斜や凹凸によって下枠が正常に取付けられないと、開口部のサッシや折戸の開閉などに不具合が発生するおそれがあります。

🔧 補足

- 仕上げ面を外F.L.面にしてください（床ベース材を使用した場合の床ベース上面に相当します）。

💡 お願い

- 内面床部を仕上げる際は、仕上げ面を内面床レベルより絶対に高くしないでください。



基本

連棟

入隅

部分入隅

躯体側出幅違

5 加工・組立て

5-1 床ベース材、束柱の加工

5-1-1 床ベース材の加工

お願い

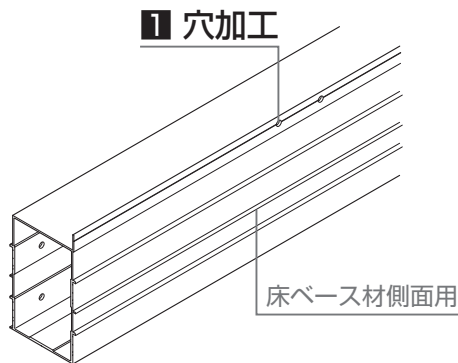
▼ 9尺の場合 ▼

●側面用ベース材を2650mmに切断してください。

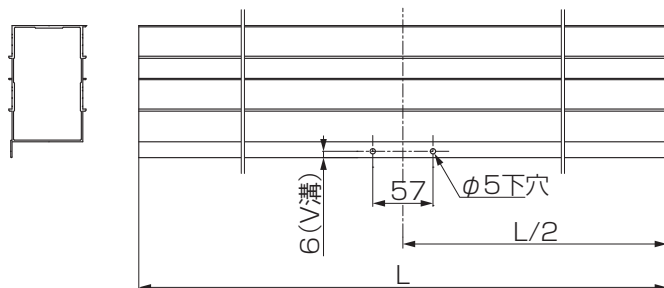
1: 床ベース材にφ5の穴加工

お願い

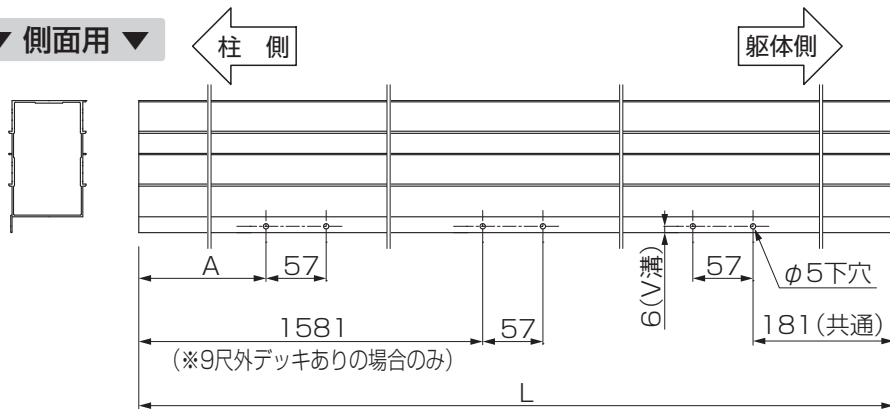
●床ベース材は、躯体の倒れ、ねじれや水切り等の障害物が無い場合には切断不要な長さになっています。
必要に応じて長さや穴位置を調整してください。



▼ 前面用 ▼



▼ 側面用 ▼



●前面用寸法表

呼称	L	床仕様	L/2
1.0間	1750	共通	875
1.5間	2660	共通	1330
2.0間	3570	共通	1785

●側面用寸法表

呼称	L	床仕様	A
4尺	1150	外デッキがある側	411
		外デッキがない側	不要
		インナーデッキ 土間	
6尺	1750	外デッキがある側	741
		外デッキがない側	不要
		インナーデッキ 土間	
9尺	2650	外デッキがある側	751
		外デッキがない側	
		インナーデッキ 土間	

5-1 床ベース材、束柱の加工

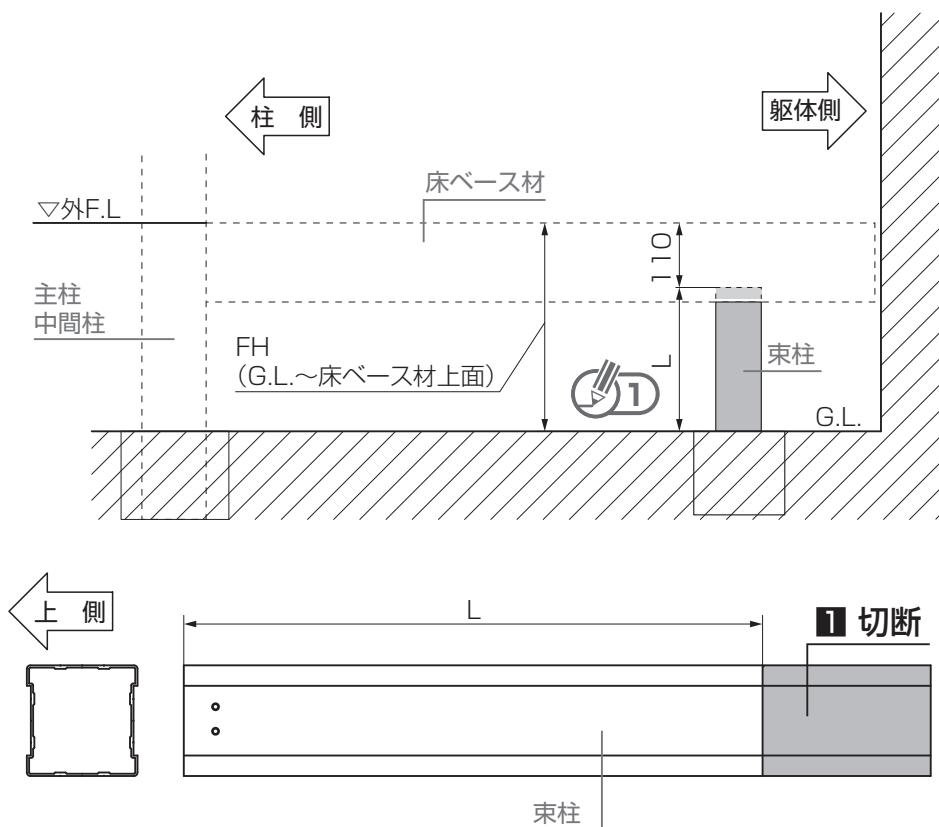
つづき

5-1-2 束柱の加工

①: 束柱を寸法位置で切断

補 足 ①

●束柱寸法値

 $L = FH - 110$ (FHは実測値)

基本

連棟

入隅

部分入隅

躯体側出幅違

5 加工・組立て

5-2 主柱・中間柱の加工・組立て

5-2-1 主柱・中間柱の切断

1: 主柱・中間中を切断寸法で切断(デッキ仕様の場合のみ)

お願い

●柱の切断は下側から行なってください。

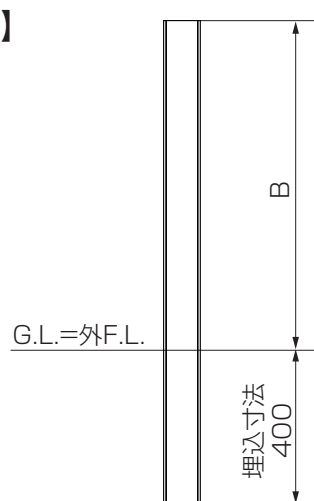
●主柱・中間柱

仕様	H呼称	L	切断寸法	B寸法 (参考)	埋込寸法 (参考)
土間	H20	2400	なし	2000	400
	H22	2600		2200	
	H24	2800		2400	
デッキ	H20	2850	550-A 床下450mmの場合 A=550-450=100	2000	300
	H22	3050		2200	
	H24	3250		2400	

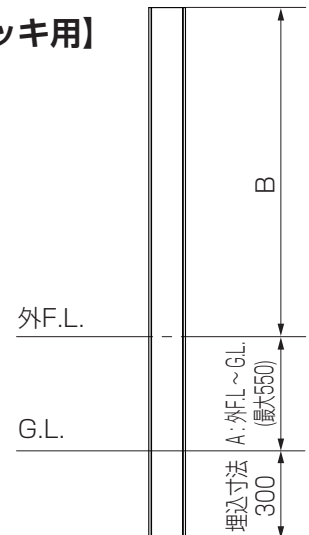
●柱(ガーデンルームプラス用)

L	仕様	H呼称	切断寸法	追加切断寸法	B寸法 (参考)	埋込寸法 (参考)
3250	土間	H20	850	なし	2000	400
		H22	650		2200	
		H24	450		2400	
	デッキ	H20	400	550-A 床下450mmの場合 A=550-450=100	2000	300
		H22	200		2200	
		H24	0		2400	

【土間用】

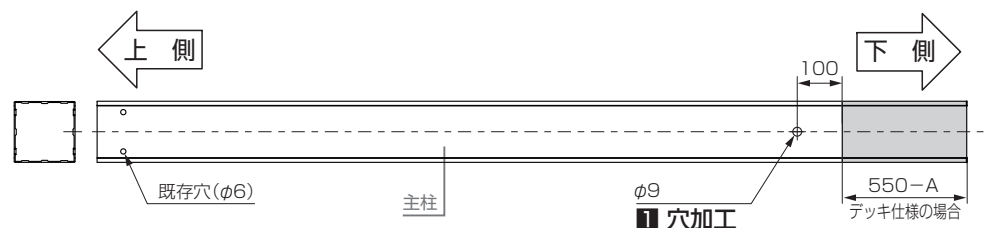


【デッキ用】



5-2-2 主柱・中間柱の下穴加工

1: 切断した主柱にφ9の貫通穴を加工



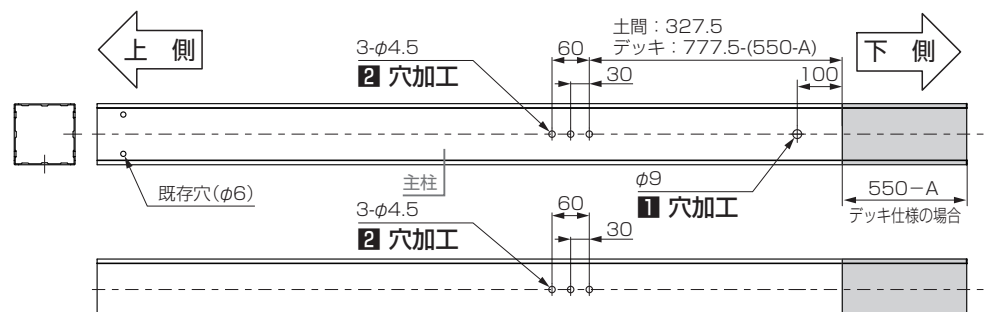
▼ 柱(ガーデンルームプラス用) ※外観左がルームの場合 ▼

1: 切断した主柱にφ9の貫通穴を加工

2: 主柱にφ4.5の穴加工

補足

●テラス側の柱にφ4.5の穴加工は不要です。



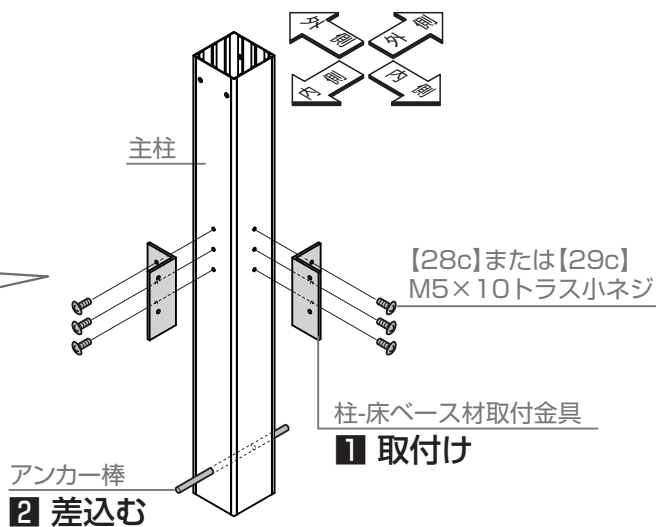
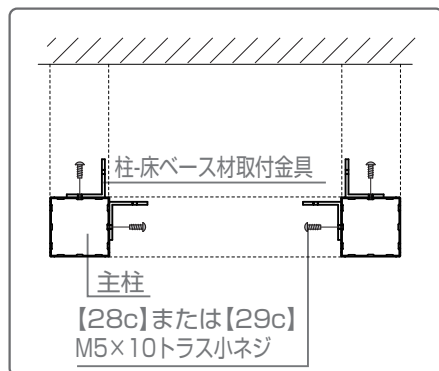
5 加工・組立て

5-2 主柱・中間柱の加工・組立て

つづき

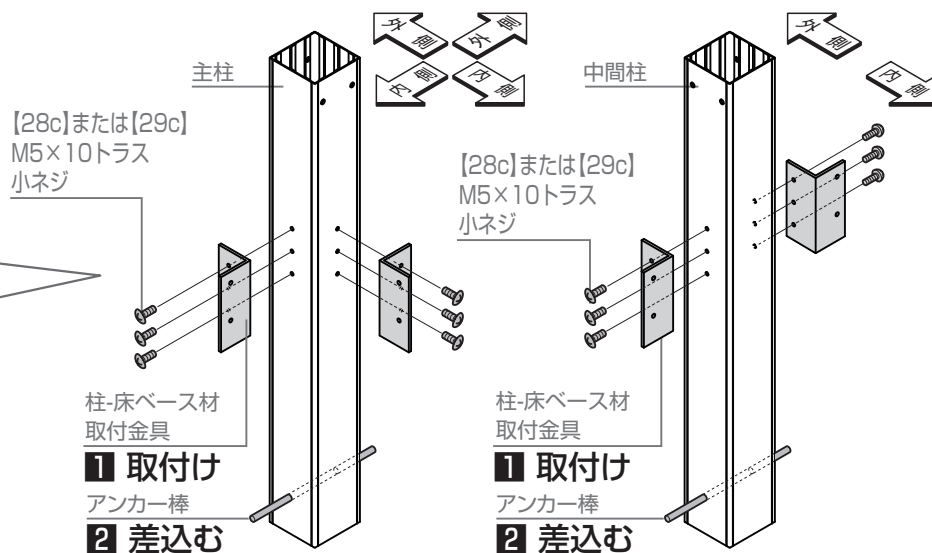
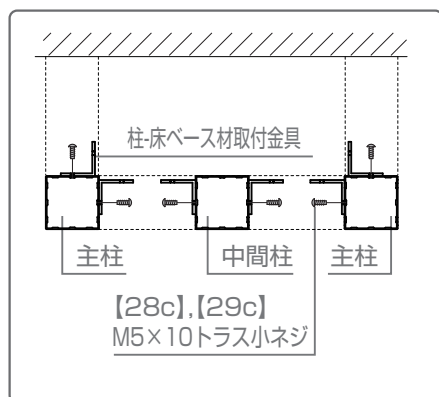
5-2-3 主柱の組立て

- ❶: 柱-床ベース材取付金具を主柱に
【28c】または【29c】で取付け
- ❷: アンカー棒を主柱に差込む



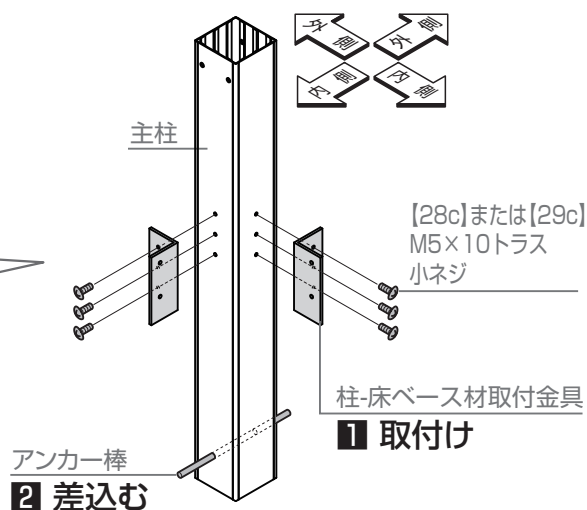
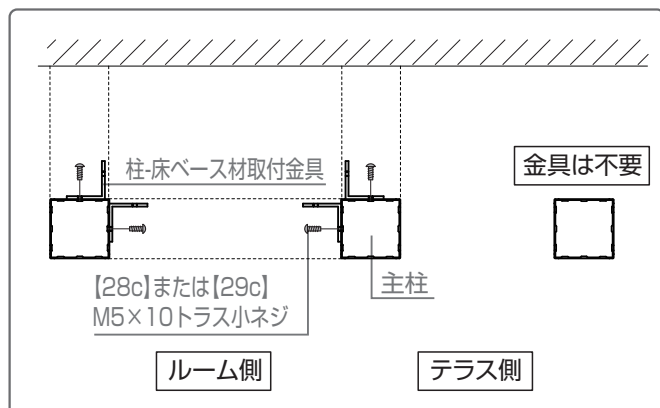
5-2-4 主柱・中間柱の組立て

- ❶: 柱-床ベース材取付金具を主柱と中間柱に【28c】または【29c】で取付け
- ❷: アンカー棒を主柱、中間柱に差込む



▼ ガーデンルームプラスの場合 ▼

- ❶: 柱-床ベース材取付金具を主柱に
【28c】または【29c】で取付け
- ❷: アンカー棒を主柱に差込む



5-3 柱化粧材の加工

5-3-1 化粧材の切断

▼ 主柱用(土間／外デッキあり／インナーデッキ)の場合▼

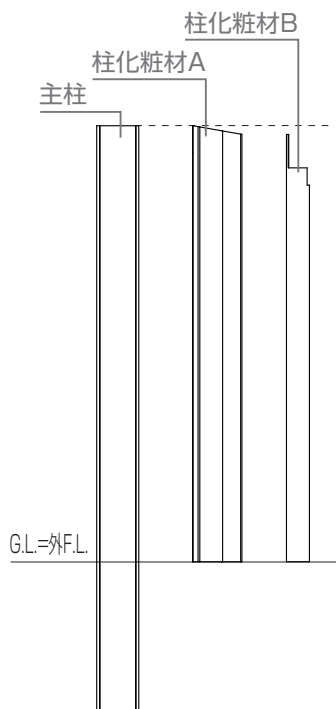
1: 柱化粧材を切断寸法で切断

仕様	切断寸法
土間 デッキ(外デッキあり)	なし
インナーデッキ	550 - A 床下450mmの場合 A=550-450= 100

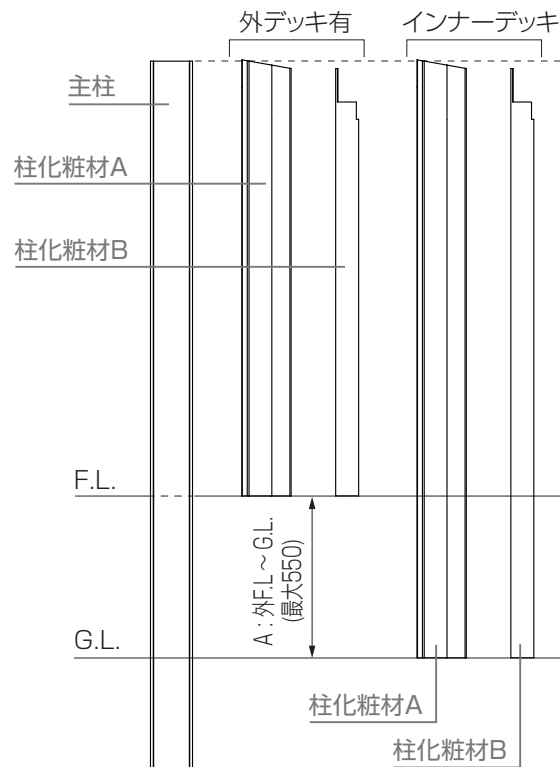
💡 お願い

- 柱化粧材の切断は下側から行なってください。

【土間用】



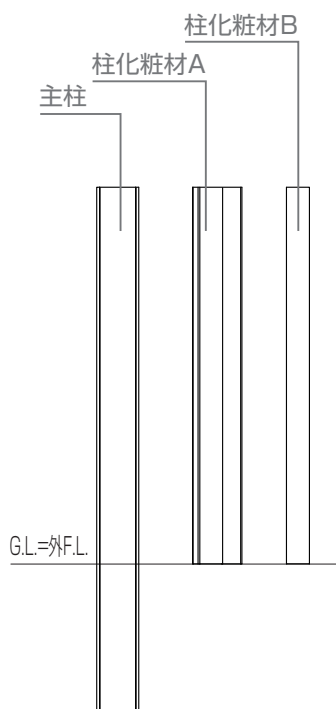
【デッキ用】



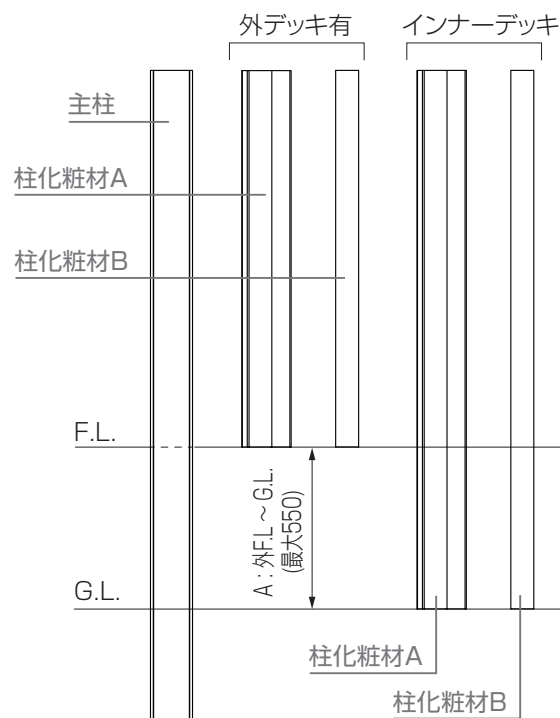
▼ 中間柱用(土間／外デッキあり／インナーデッキ)の場合▼

1: 柱化粧材を切断寸法で切断

【土間用】



【デッキ用】



5-4 躯体方立の加工、組立て

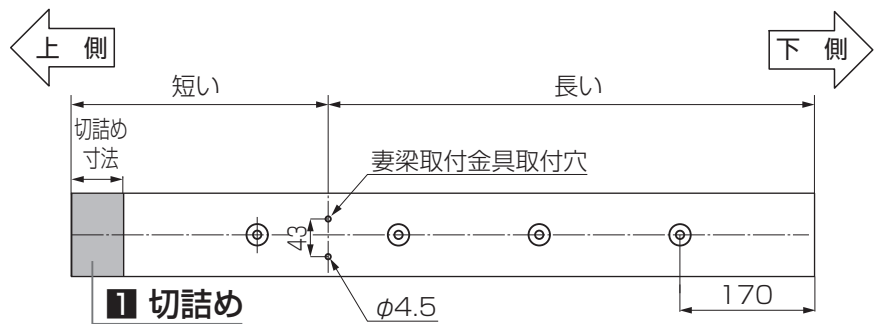
5-4-1 躯体方立の切断

▼ 入隅用(1本入)の場合 ▼

1: 躯体方立を上側から切詰め寸法で切詰め

●切詰め寸法

呼称	4尺	6尺	9尺
600タイプ	125.5	20	20
1500タイプ	105.5	—	—
3000タイプ			

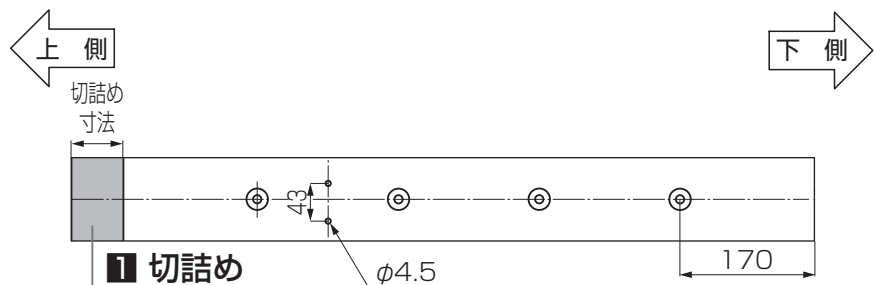


▼ 出幅切詰めの場合 ▼

1: 躯体方立を上側から切詰め寸法で切詰め

●切詰め寸法

出幅切詰め寸法×0.176

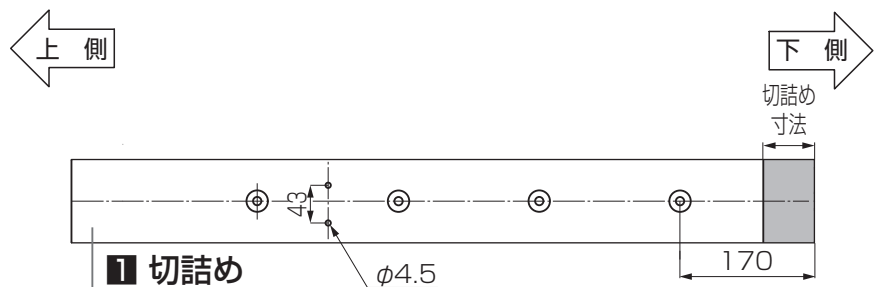


▼ 高さ切詰めの場合 ▼

1: 躯体方立を下側から切詰め寸法で切詰め

●切詰め寸法

切詰め分



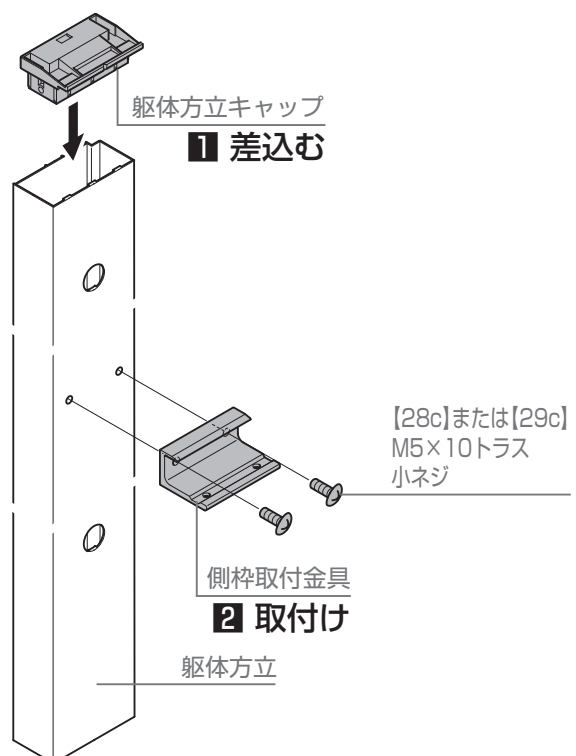
5-4-2 躯体方立の組立て

1: 躯体方立キャップを躯体方立に差込む

💡 お願い

● 躯体方立キャップは奥までしっかり差込んでください。

2: 側枠取付金具を躯体方立に【28c】または【29c】で取付け

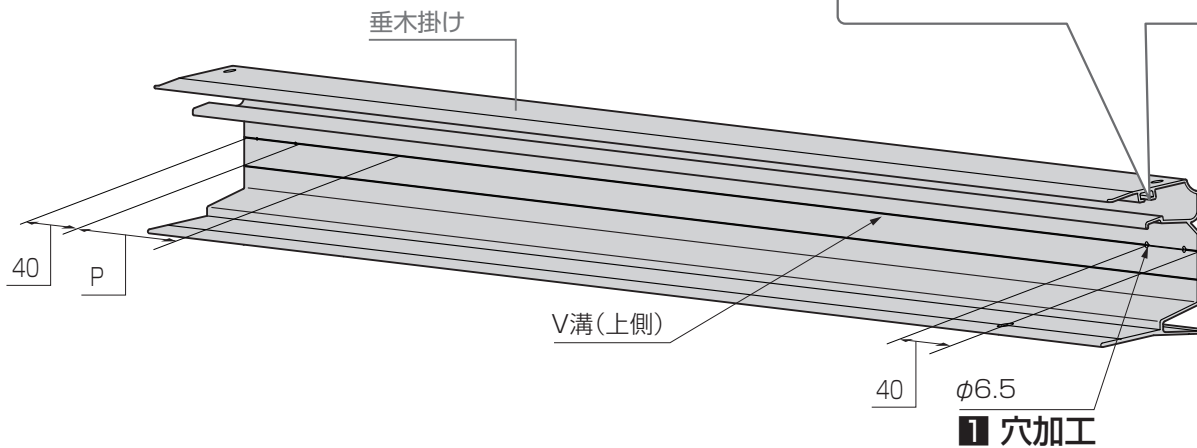
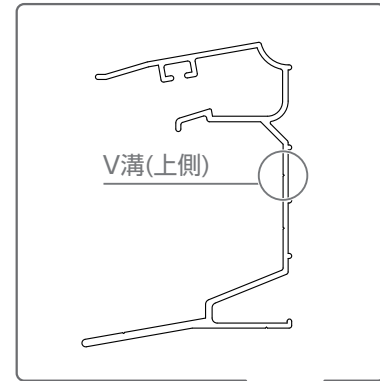


5-5 垂木掛けの加工

1: 上側のV溝にφ6.5穴加工

💡 お願い

- 下穴は躯体の柱、間柱の位置に合わせてあけてください。
- 垂木掛け両端部40mmのポンチ穴から穴ピッチで穴加工してください。



● 下穴加工表

積雪タイプ	出幅	P:穴ピッチ	下穴数
600タイプ	4尺	910	1.0間：3個
	6尺		1.5間：4個
	9尺		2.0間：5個
1500タイプ	4尺	455	1.0間：5個
	6尺		1.5間：7個
	9尺		2.0間：9個
3000タイプ	4尺	455	2.0間：9個
	6尺		

5-5 垂木掛けの加工

つづき

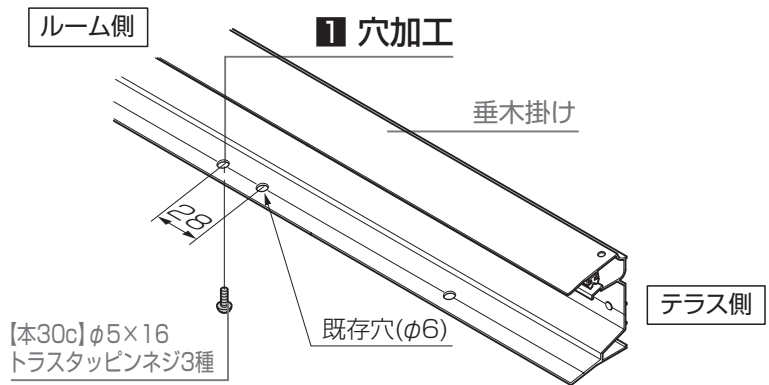
▼ ガーデンルームプラス(単体)の場合 ▼

1: 垂木掛けにφ4.5の下穴加工

💡 お願い

- ルーム・テラス境界部の既存のφ6加工穴からルーム側28mmの位置に穴加工をしてください。

2: 1の加工穴に【本30c】を取付け



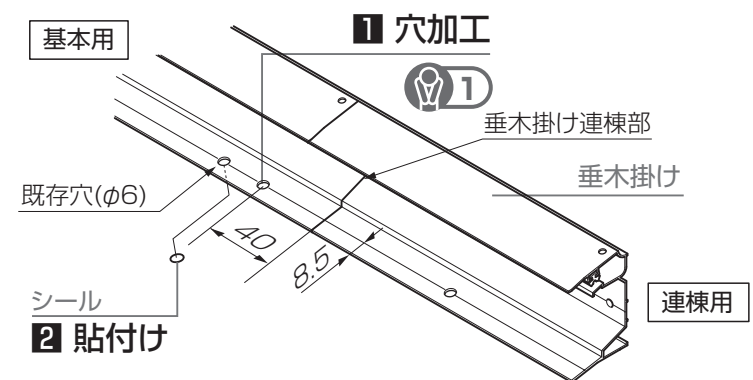
▼ 連棟の場合 ▼

1: 垂木掛けにφ6の下穴加工

💡 お願い 1

- 基本側垂木掛けの連棟側端部から40mmの位置に穴加工をしてください。

2: 既存のφ6穴にシールを貼付け



▼ ガーデンルームプラス(連棟)の場合 ▼

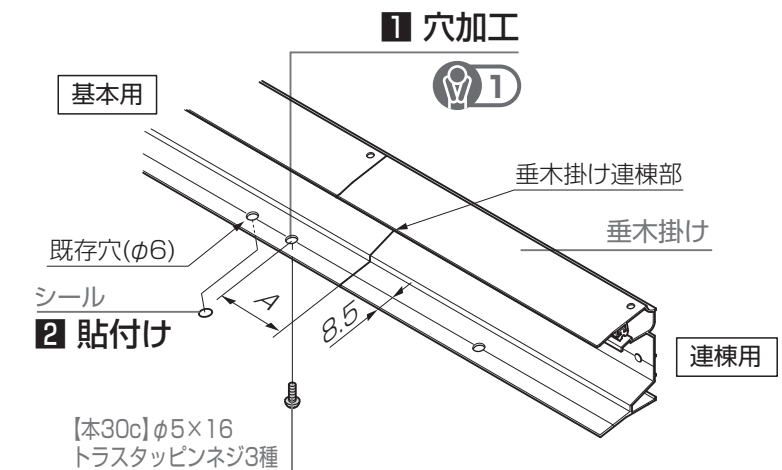
1: 垂木掛けにφ4.5の下穴加工

2: 1の加工穴に【本30c】を取付け

3: 既存のφ6穴にシールを貼付け

💡 お願い 1

- ルームとテラスの境界が連棟部の場合、納まりに対応したA寸法で穴加工してください。



垂木掛け(基本側)	垂木掛け(連棟側)	A寸法
ルーム	テラス	68
テラス	ルーム	12

5-6 桁の加工

5-6-2 桁の加工（ガーデンルームプラスの場合）

❶: 垂木取付け穴(既存)から、ルーム側へ28mmの位置にφ6穴加工(プラス用垂木取付け穴)

▼ 補強部材を使用しない場合▼

❷: 内観左端部のポンチ穴にφ4.5の追加工

❸: 桁中心を挟んで43mmピッチにφ4.5の穴加工(妻梁取付け金具穴)

▼ 補強部材を使用する場合▼

❹: 内観左端部のポンチ穴にφ4.5の追加工

❺: 桁中心を挟んで43mmピッチにφ4.5の穴加工(妻梁取付け金具穴)

❻: 両端部から300mmの位置にφ6穴加工(桁補強材取付け穴)

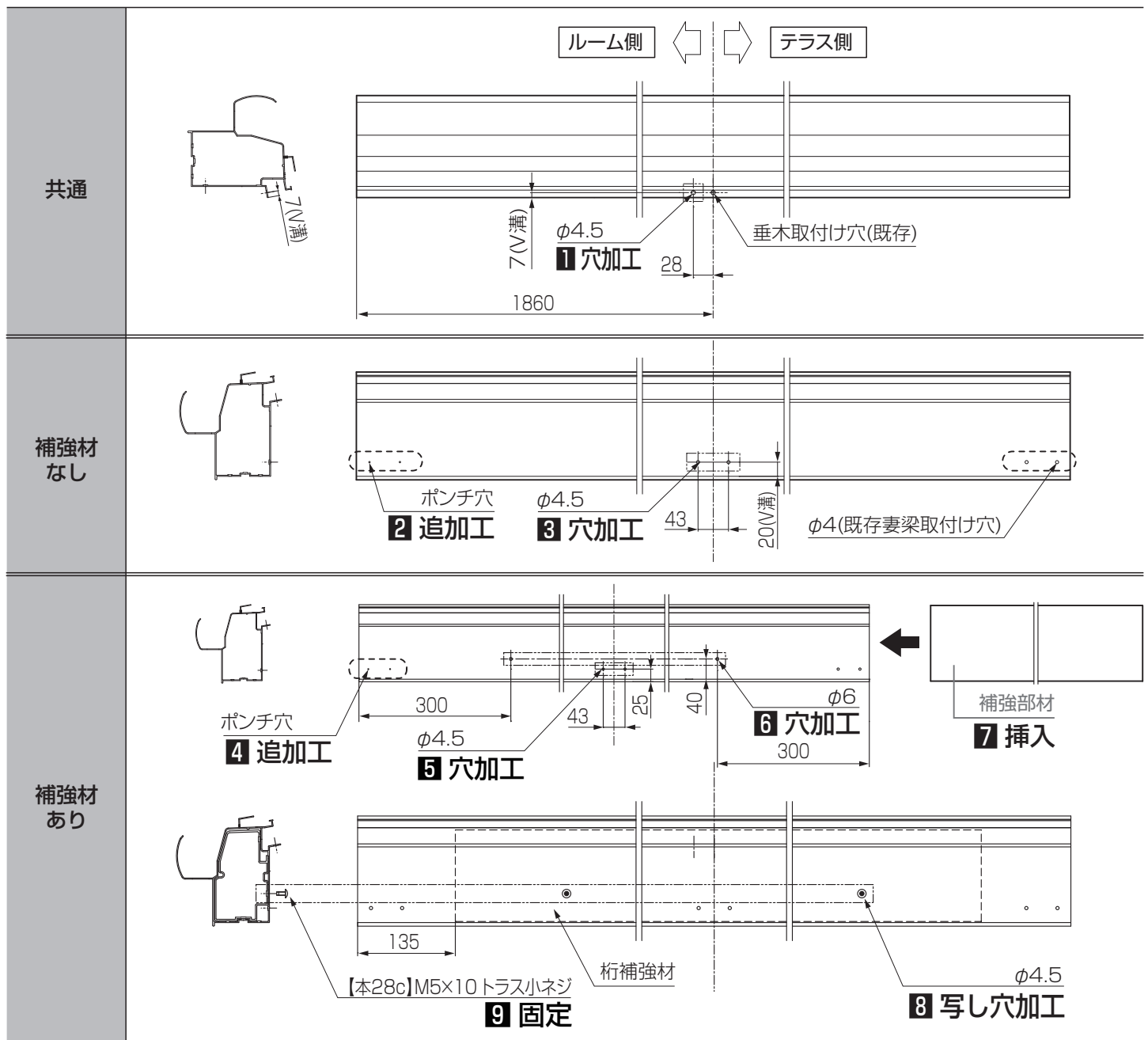
❼: 桁補強部材を桁に挿入

❽: 補強部材取付け穴の位置にφ4.5写し穴加工

❾: ❽の加工穴に【本28c】で固定

● 補強部材が必要な仕様

積雪タイプ	サイズ
600	2.0間×9尺
1500	2.0間×9尺
3000	2.0間×4尺 2.0間×6尺



5 加工・組立て

5-7 連棟の加工

5-7-1 桁の加工

①: V溝にφ4.5(※)穴加工(ガーデンルームプラス用垂木取付け用)

お願い

●φ4.5(※)は、連棟部がルームとテラスの境界の場合に加工してください(ガーデンルームプラス仕様)。

②: 連棟側端部から120mmにφ6穴加工(連結スリーブ取付け穴)

③: 連棟側端部から10mmにφ6穴加工(連結スリーブ取付け穴)

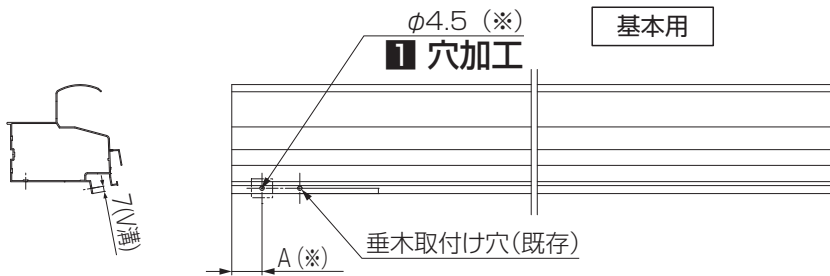
④: 連棟用桁の内観左端部ポンチ穴にφ4.5追加加工(妻梁取付金具取付け穴)

⑤: 桁中心を挟んで240mmピッチにφ4.5の穴加工(連結スリーブ固定穴)

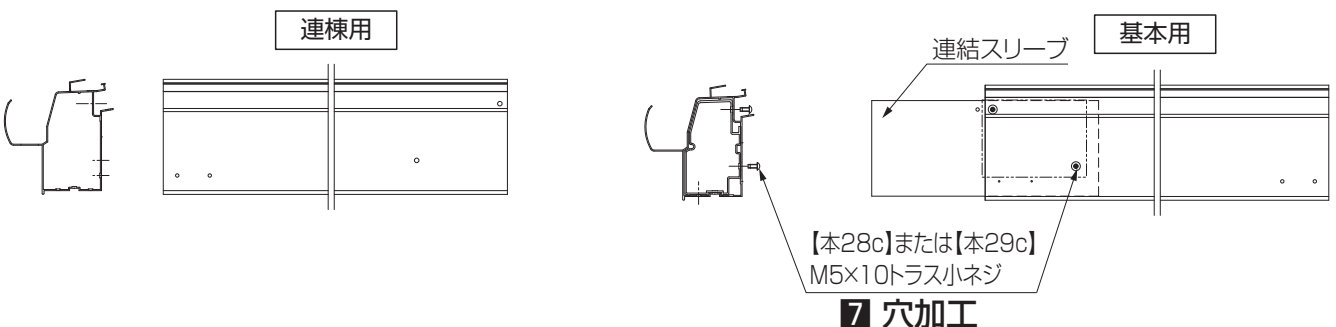
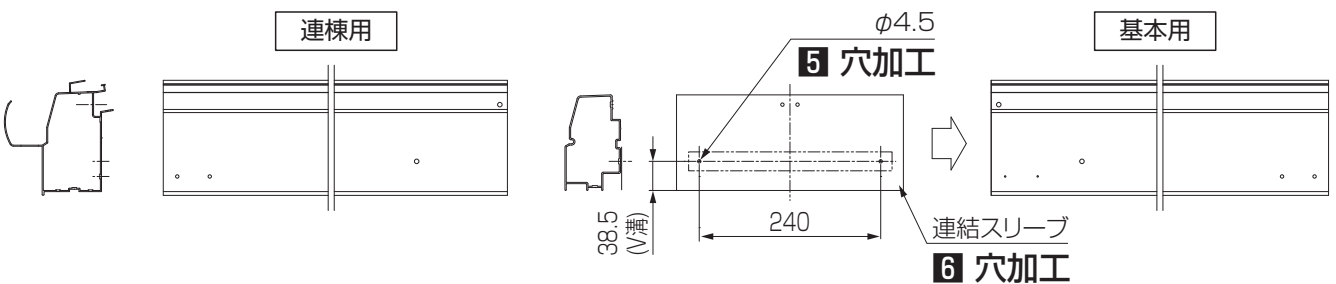
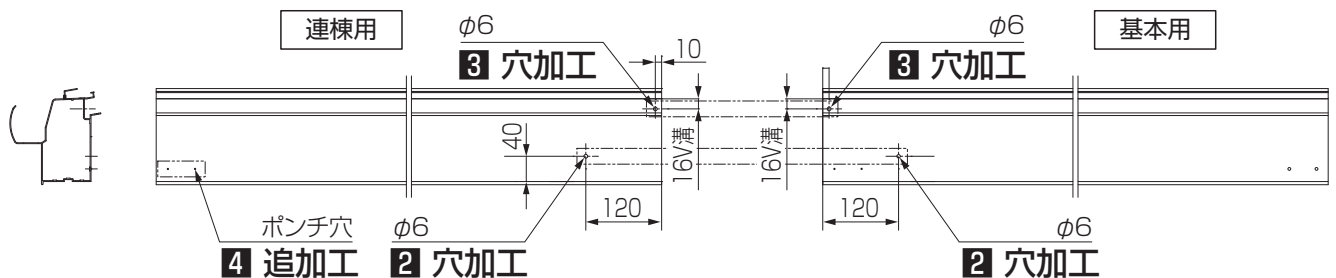
⑥: 連結スリーブを基本用桁に挿入

⑦: 連結スリーブを【本28c】または【本29c】で固定

補強材なし



桁(基本用)	桁(連棟用)	A寸法
ルーム	テラス	68
テラス	ルーム	12
ルーム	ルーム	40(下穴φ6)

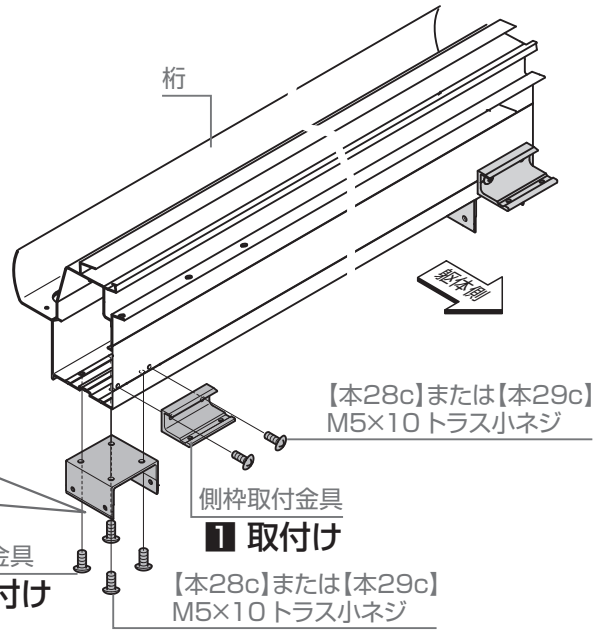
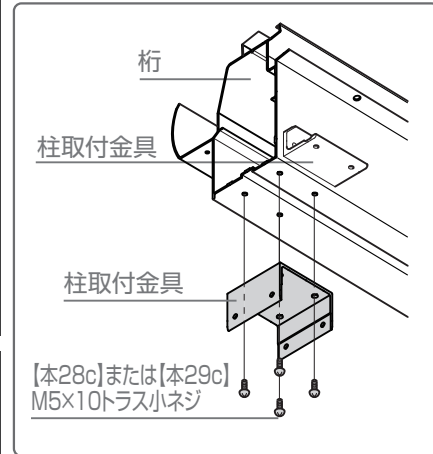


5 加工・組立て

5-8 桁の組立て

①: 側枠取付金具を桁に【本28c】または【本29c】で取付け

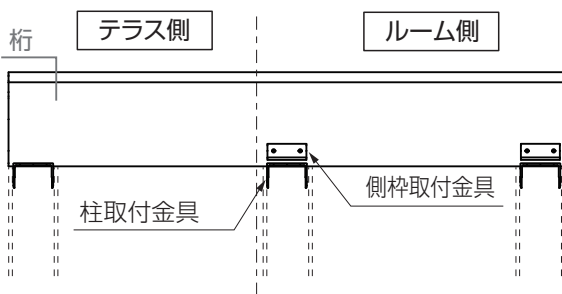
②: 柱取付金具を桁に【本28c】または【本29c】で取付け



柱取付金具
② 取付け

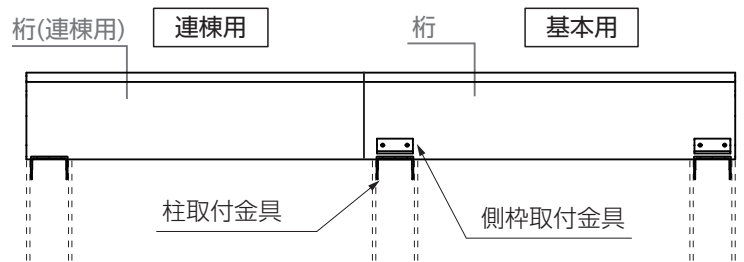
【本28c】または【本29c】
M5x10トラス小ネジ

▼ 単体(ガーデンルームプラス)の場合▼



▼ 連棟の場合▼

※イラストは内観です。



基本

連棟

入隅

部分入隅

躯体側出幅違

5-8 桁の組立て

つづき

3: 雨どいパッキンと雨どいアタッチメントを桁(雨どいを取付ける側)に【本28d】または【本29d】で取付け

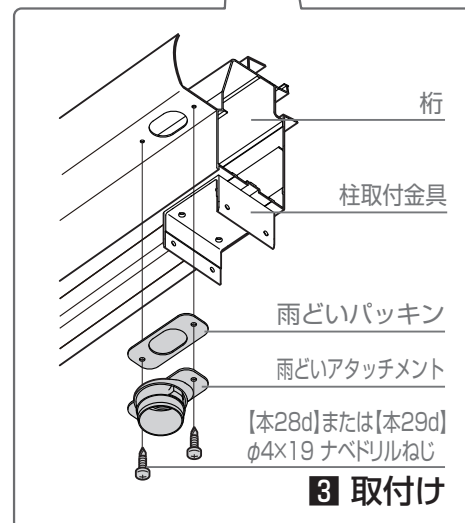
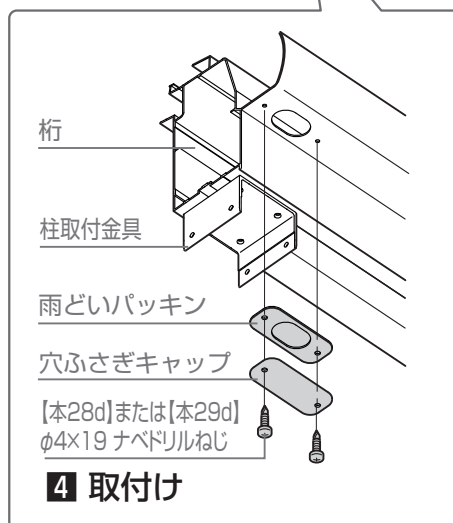
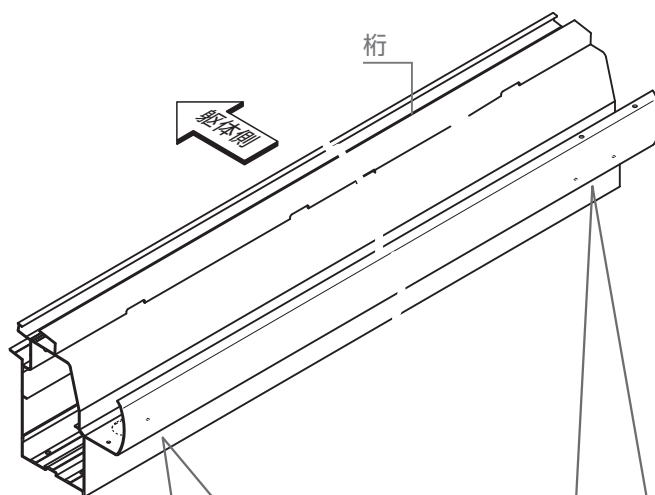
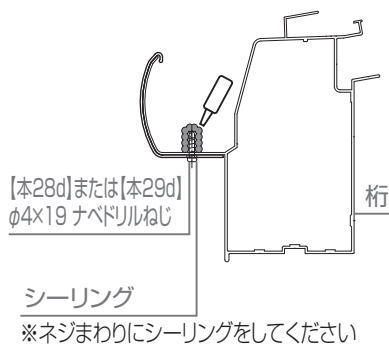
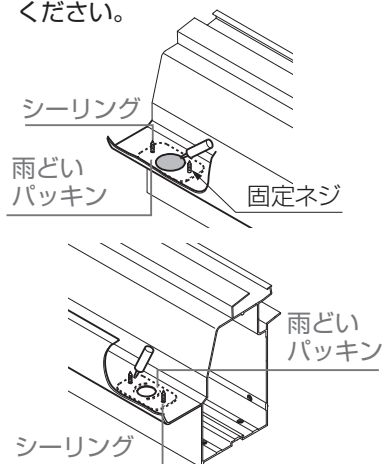
4: 雨どいパッキンと穴ふさぎキャップを桁(雨どいのない側)に【本28d】または【本29d】で取付け

 お願い

- 図は雨どいを外観右に取付ける場合を示しています。取付けの左右は現場で判断してください。

 お願い

- 取付け後に、雨どいパッキンと固定ネジ部へシーリングを行なってください。



基本

連棟

入隅

部分入隅

躯体側出幅違

5 加工・組立て

5-9 特殊納まり対応用の加工(片入隅・部分入隅・躯体側出幅違い)

5-9-1 各種部材の加工

●部材加工（間口、出幅切詰めを伴わない場合）

部材		片入隅	切断 部分入隅	躯体側出幅違い	穴加工
部材	略図				
躯体方立	出幅通常側	—	—	—	
	出幅切詰側	—	—	切詰寸法(上端から切断) = $(D-d) \times 0.176$ (上端から切断)	
部分入隅用方立 【部分入隅・通常側】	出幅切詰側 (600タイプ)	—	切詰寸法(下側から切断) = $(d-110) \times 0.176 + 20$	—	
	出幅切詰側 (1500, 3000タイプ)	—	切詰寸法(下側から切断) = $(d-110) \times 0.176$	—	
躯体方立(1本入り) 【部分入隅・通常側】	出幅切詰側 (600タイプ)	—	20mm	—	
	出幅切詰側 (1500, 3000タイプ)	—	—	—	
垂木掛け		5mm(入隅側から切断)	5mm(入隅側から切断)	$A=910 \times P + 40 + 33.5$ $B=L-A$	
桁		5mm(入隅側から切断)	—	—	
妻梁	出幅通常側	—	—	—	
	出幅切詰側	—	—	切詰寸法=D-d	
垂木・妻垂木	出幅通常側	—	—	—	
	出幅切詰側	—	—	切詰寸法(躯体側から切断) = $(D-d)/0.98$	
ランマ縦枠	出幅通常側	—	—	—	
	出幅切詰側	—	—	切断寸法= $(D-d) \times 0.176$	
妻梁上部FIX押縁	出幅通常側	—	—	—	
	出幅切詰側	—	—	切詰寸法= $(D-d) \times 0.176$	
妻梁上部FIXパネル	出幅通常側	—	—	—	
	出幅切詰側	—	—	切詰寸法(躯体側から切断)=D-d	
屋根材	出幅通常側	—	—	—	
	出幅切詰側	—	—	$(D-d)/0.98$	
床ベース材(側面用)	出幅通常側	—	—	—	
	出幅切詰側	—	—	切詰寸法=D-d	
土間見切り材(側面用)	出幅通常側	—	—	—	
	出幅切詰側	—	—	切詰寸法(躯体側から切断)=D-d	

5-10 端部垂木の取付け

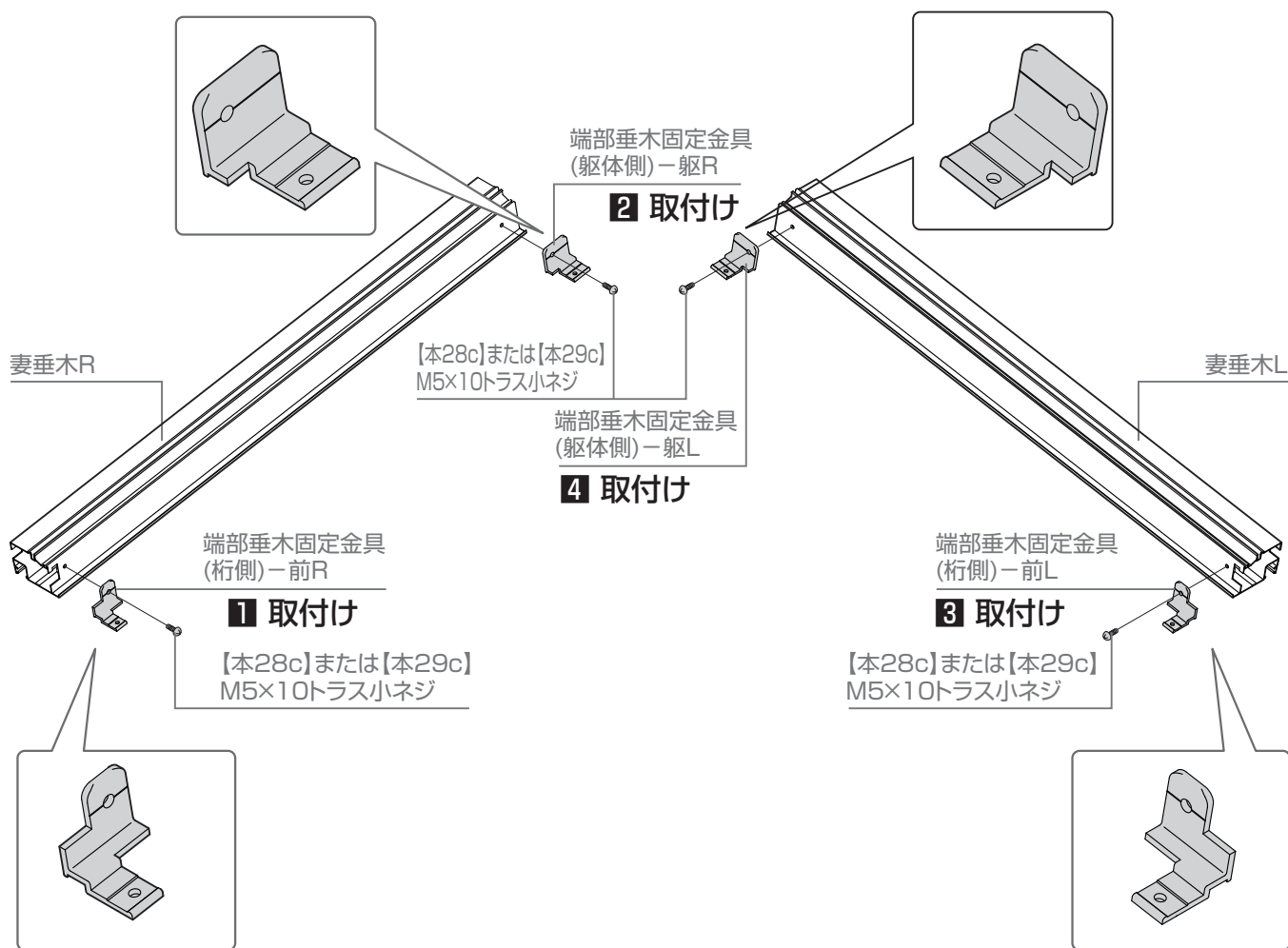
5-10-1 妻垂木固定金具の取付け

- ❶: 端部垂木固定金具(桁側)-前Rを妻垂木Rに【本28c】または【本29c】で取付け
- ❷: 端部垂木固定金具(躯体側)-躯Rを妻垂木Rに【本28c】または【本29c】で取付け
- ❸: 端部垂木固定金具(桁側)-前Lを妻垂木Lに【本28c】または【本29c】で取付け
- ❹: 端部垂木固定金具(躯体側)-躯Lを妻垂木Lに【本28c】または【本29c】で取付け



お願い

- L/Rは内観表示です。
- 端部垂木固定金具は、取付ける位置と向きに注意してください。



5 加工・組立て

5-11 ガーデンルームプラスの加工

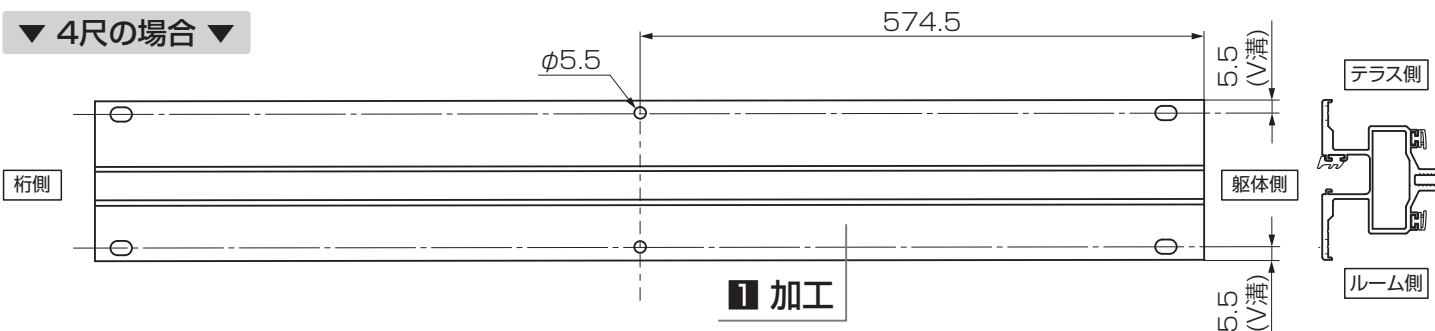
5-11-1 垂木（ガーデンルームプラス）の加工

補足

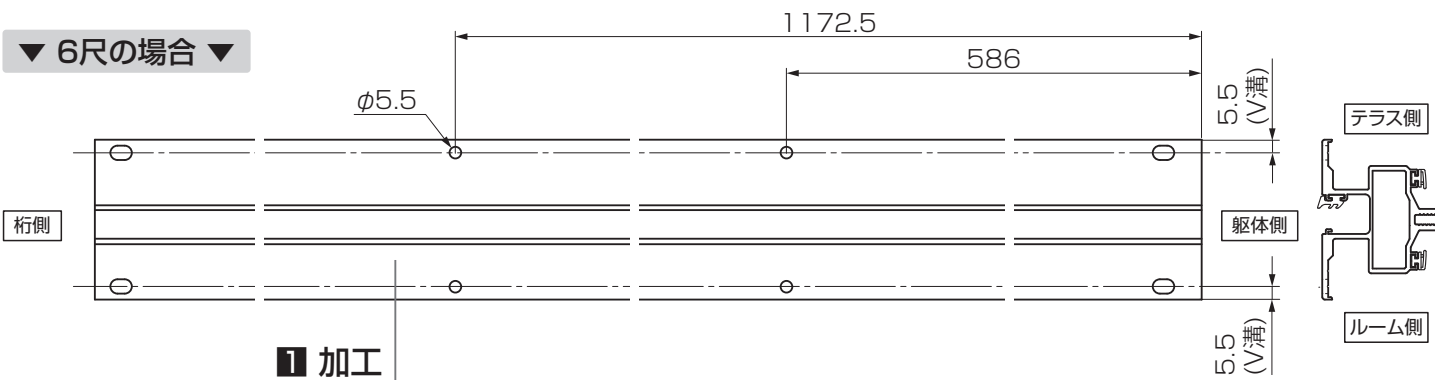
●本図は外観左ルーム用を示します。外観右ルーム用は左右対称です。

1: 垂木を加工

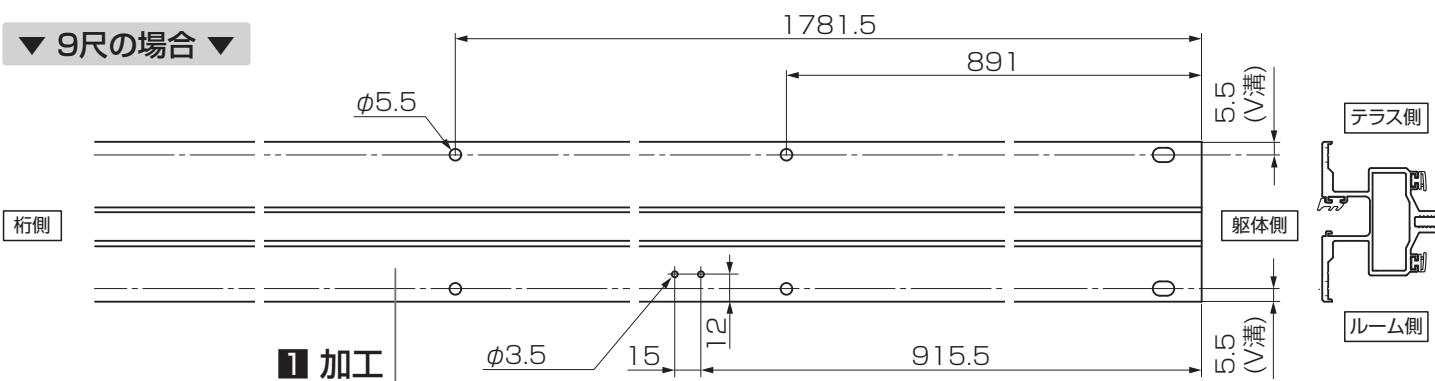
▼ 4尺の場合 ▼



▼ 6尺の場合 ▼



▼ 9尺の場合 ▼



▼ 出幅切詰めの場合 ▼

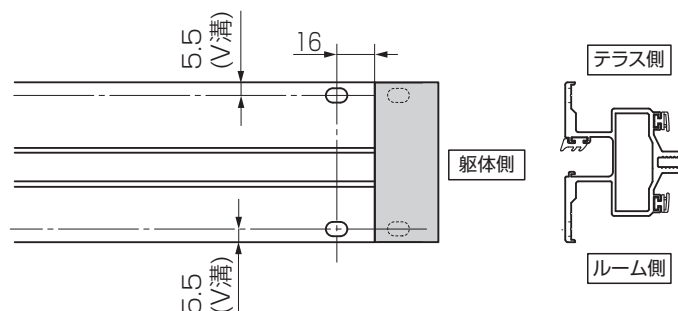
●切詰寸法＝出幅切詰寸法／0.98

※ 切詰め寸法 100mmの場合：100 / 0.98=102mm

※ 切詰め寸法 200mmの場合：200 / 0.98=204mm

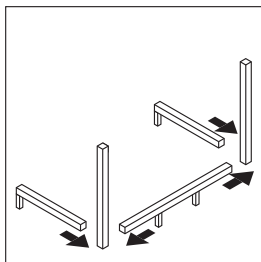
お願い

- 切詰めは躯体側から行なってください。
- 切詰めによって端部の穴が欠ける場合は、V溝に $\phi 6$ の穴加工を行なってください。



6 本体の施工

6-1 束柱と床ベース材の取付け

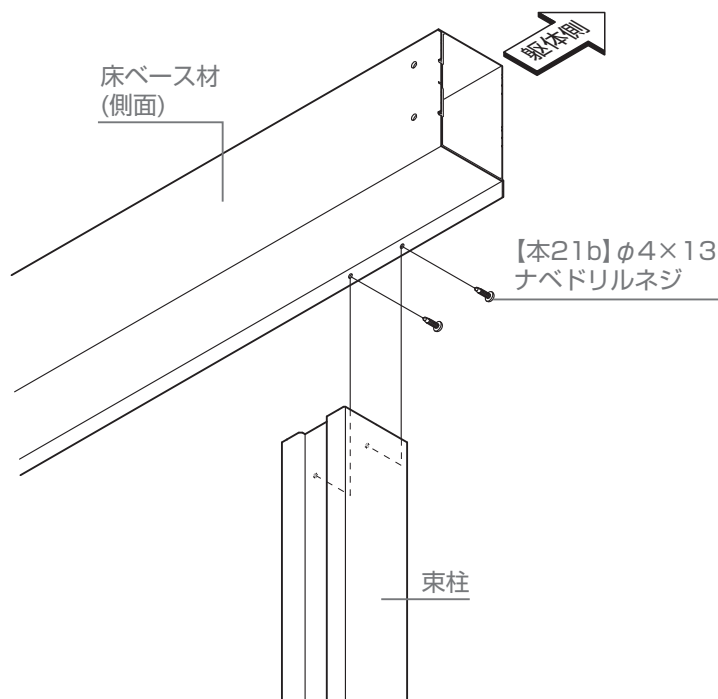
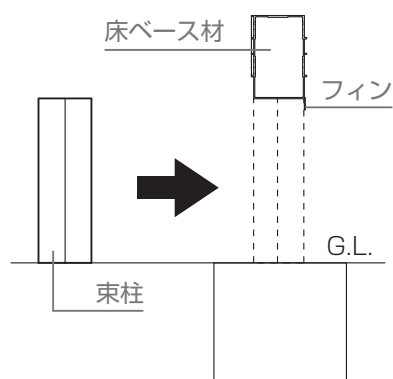


6-1-1 基本の取付け(基本、躯体出幅違い、部分入隅)

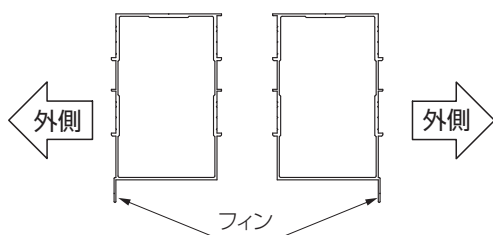
1: 床ベース材(側面)を束柱に【本21b】で取付け

補 足

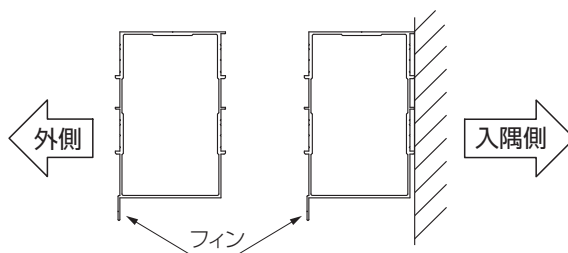
- 束柱は横から差込むことができます。柱と端部の束柱でレベル出した後に、中間部の束柱を取付けることも可能です。



▼ 基本・躯体側出幅違い・ガーデンルームプラスの場合▼



▼ 入隅・部分入隅の場合▼



6-1-2 床ベース材設置の際の確認事項

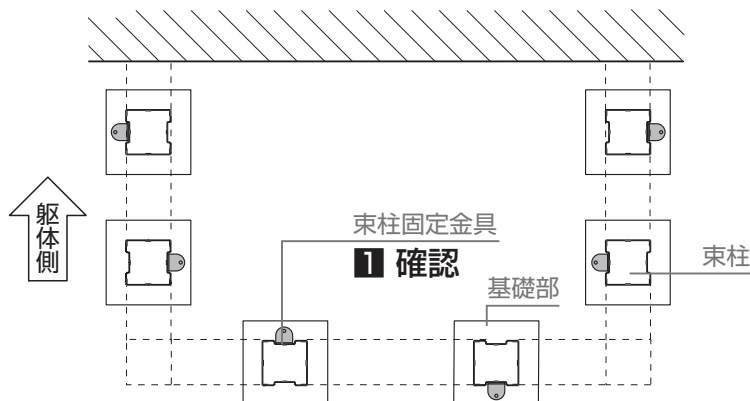
1: 束柱固定金具の向きを確認

お願い

- 束柱固定金具は、それぞれの束柱に交互に取付けてください。

補 足

- 束柱の本数は、サイズによって異なります。



6 本体の施工

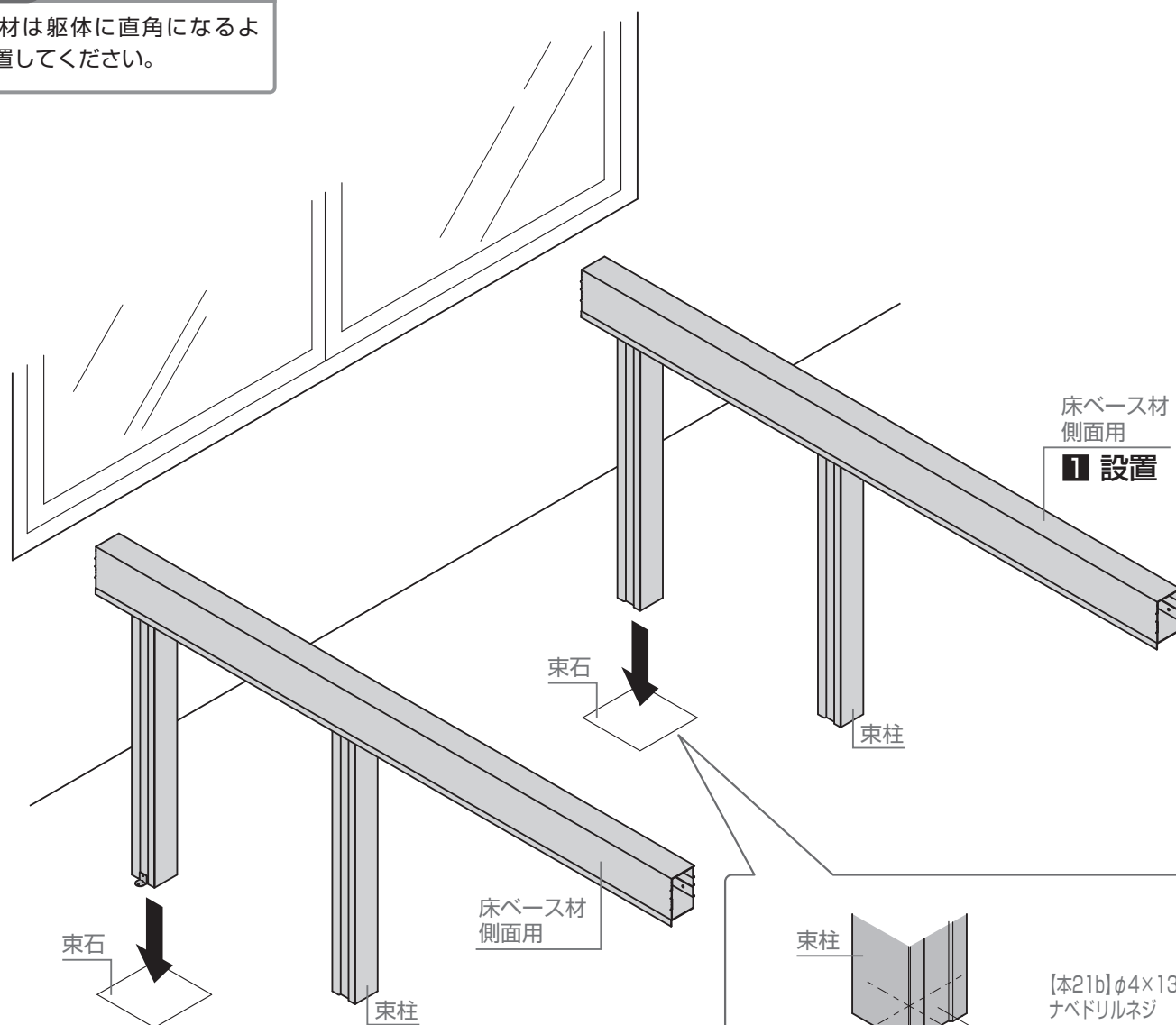
6-2 床ベース材の設置

①: ルーム位置および外側F.L.位置になるように床ベース材側面用を設置

②: 束柱に束柱固定金具を【本21b】で取付け

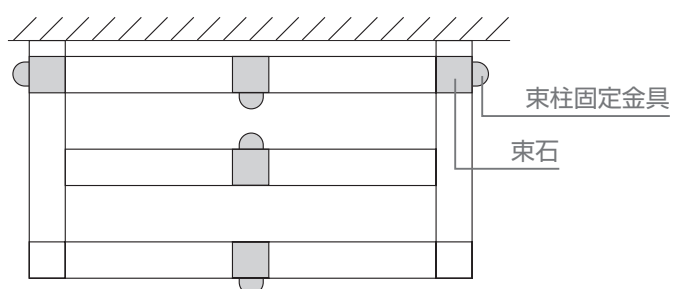
お願い

- ベース材は躯体に直角になるように設置してください。



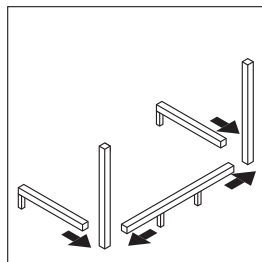
お願い

- 束石へ固定はこの段階で行なわないでください。
- 床ベース材を柱に固定、大引を床ベースに固定し、レベル確認が終了した時点で固定を行なってください。



6 本体の施工

6-3 主柱と床ベース材の取付け



連棟

P.41

ガーデン
ルームプラス

P.43

入隅

P.44

部分
入隅

P.44

躯体
出幅違い

P.39

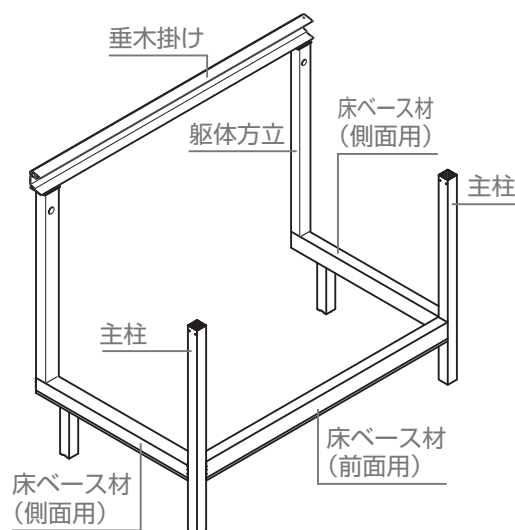
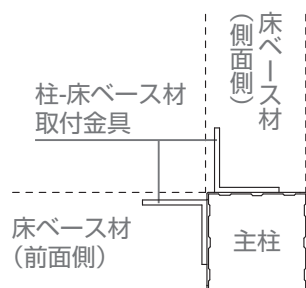
6-3-1 基本の取付け(基本、入隅、部分入隅、躯体側出幅違い)

1. 主柱の建て込み

1: 主柱を建込み

お願い

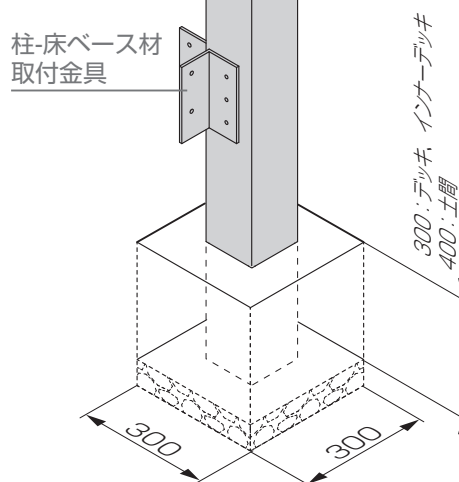
- 柱の向きに注意してください。



お願い

- ガーデンルームプラスの場合、テラス側には床ベース材の取付けは不要です。

主柱 1 建込み



6-3 主柱と床ベース材の取付け

つづき

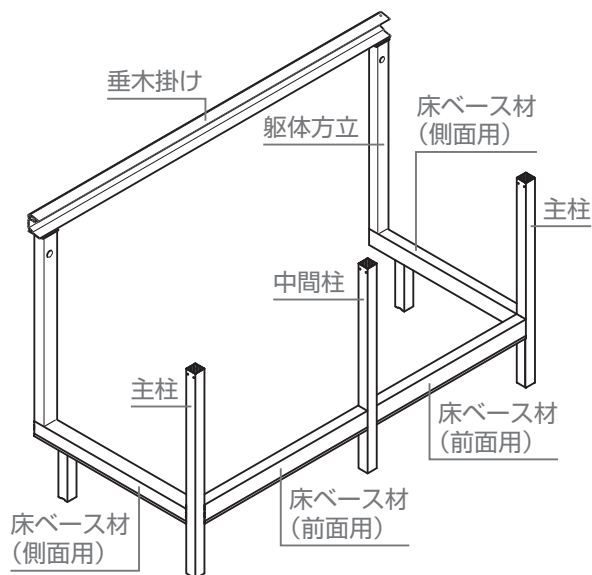
6-3-2 連棟の取付け

お願い

- 中間柱と主柱の位置を確認してください。

▼ ガーデングループラスの場合 ▼

- テラス側には床ベース材の取付けは不要です。

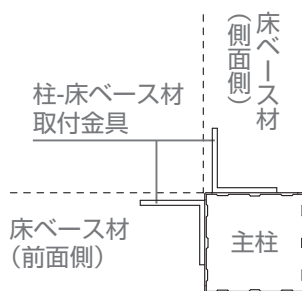


1. 柱の建て込み

1: 主柱を建て込み

お願い

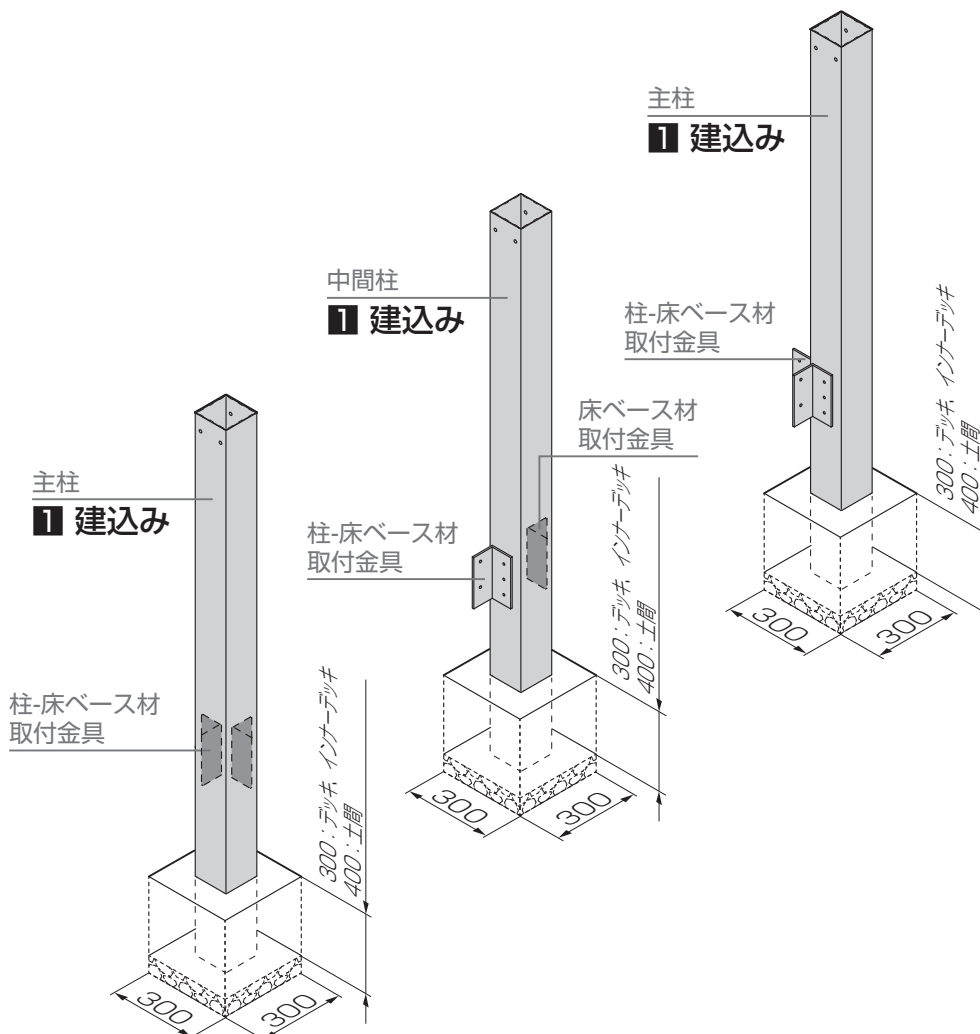
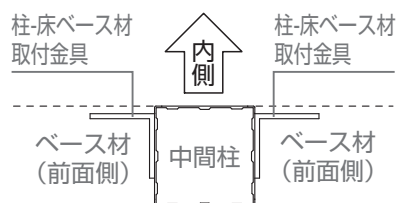
- 柱の向きに注意してください。



1: 中間柱を建て込み

お願い

- 柱の向きに注意してください。



6 本体の施工

6-3 主柱と床ベース材の取付け

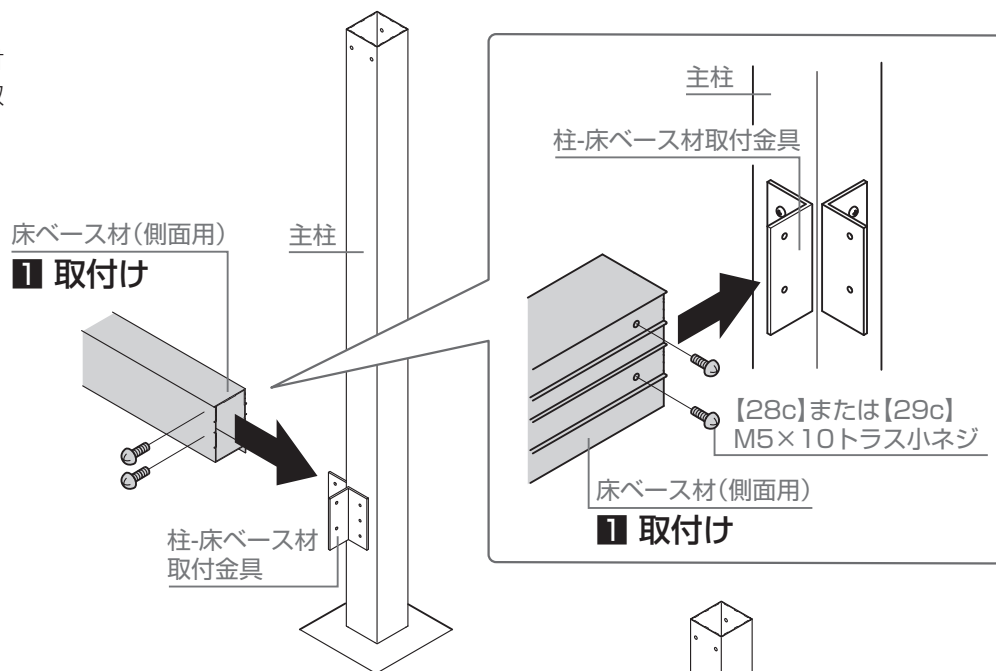
つづき

6-3-2 連棟の取付け

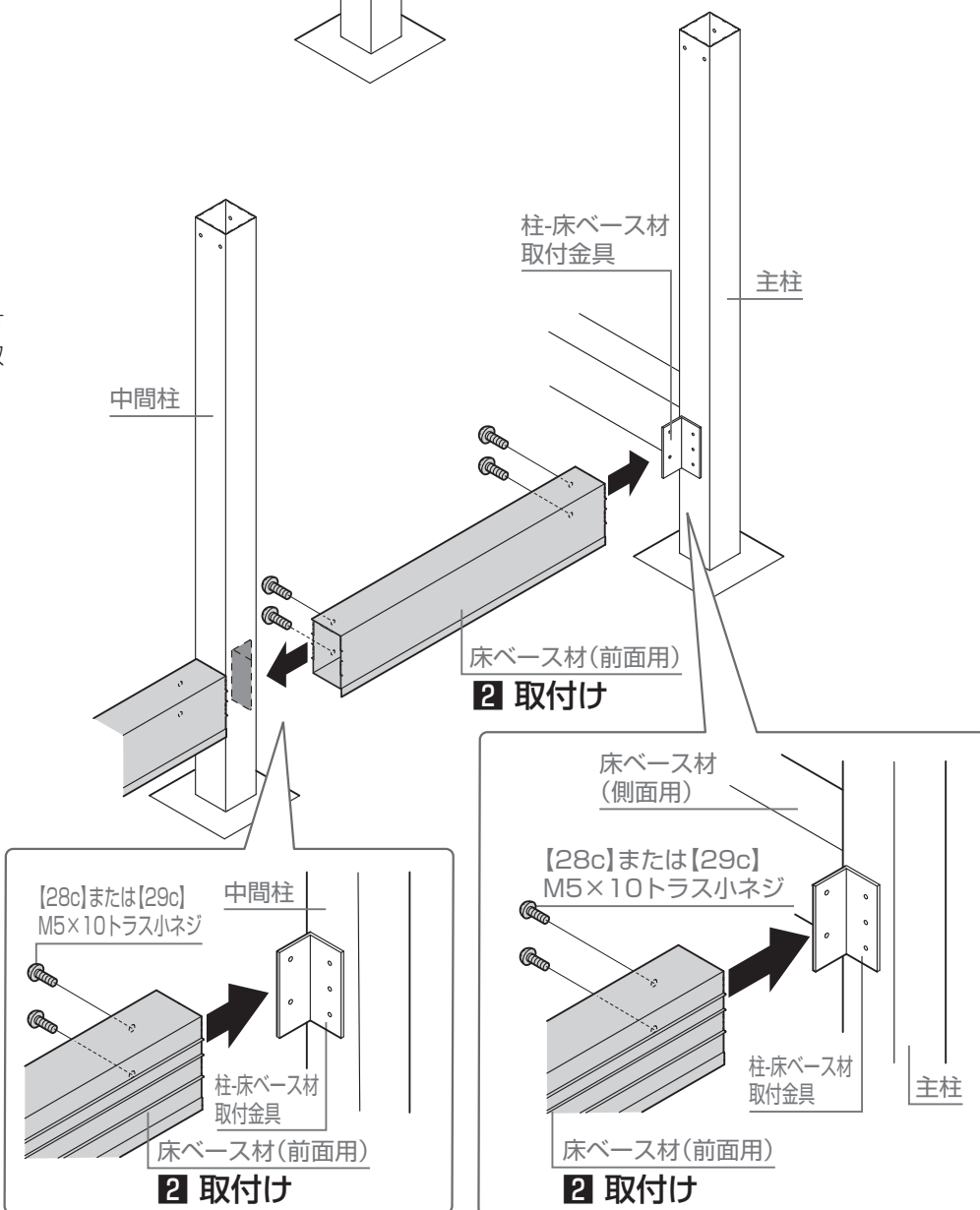
つづき

2. 床ベース材の取付け

- 1: 床ベース材(側面用)を柱-床ベース材取付金具に【28c】または【29c】で取付け



- 2: 床ベース材(前面用)を柱-床ベース材取付金具に【28c】または【29c】で取付け



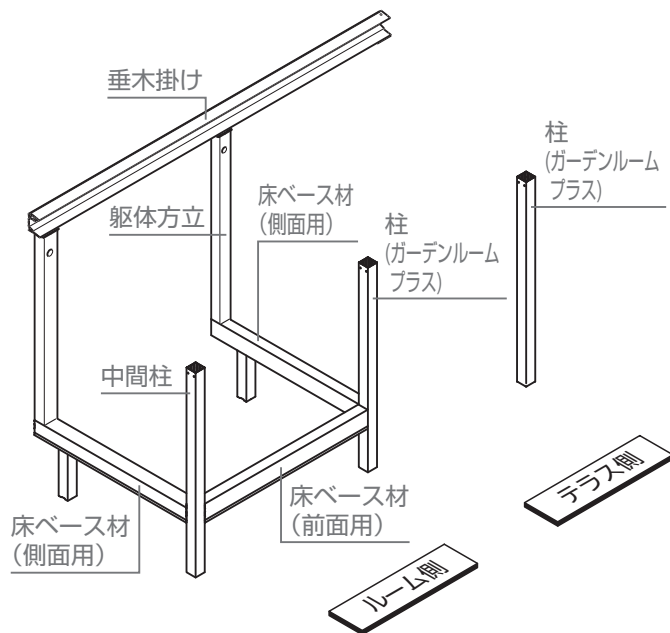
6-3 主柱と床ベース材の取付け

つづき

6-3-3 ガーデンルームプラスの取付け

お願い

- ルーム側の床ベース材は基本仕様施工方法は同じです。
- テラス側には床ベース材の取付けは不要です。



6 本体の施工

6-3 主柱と床ベース材の取付け

つづき

6-3-4 入隅、部分入隅の取付け

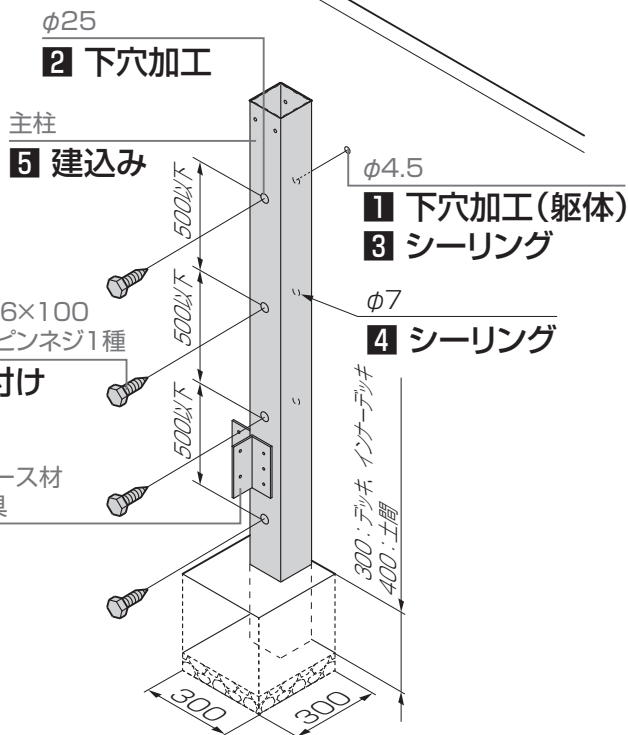
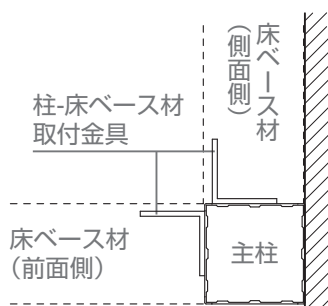
1. 柱の建て込み

▼ 入隅側の取付け ▼

- 1: 躯体に $\phi 4.5$ の下穴加工
- 2: 主柱に $\phi 25$ の下穴加工
- 3: $\phi 4.5$ 穴にシーリングを充填
- 4: $\phi 7$ 穴にシーリング塗布
- 5: 主柱を建込み
- 6: 主柱を躯体に【31e】で取付け

💡 お願い

- 柱の向きに注意してください。

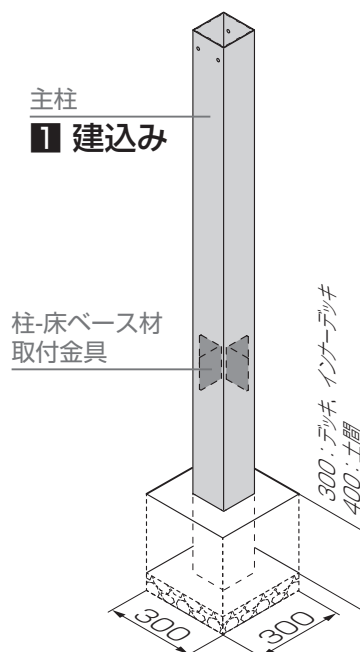
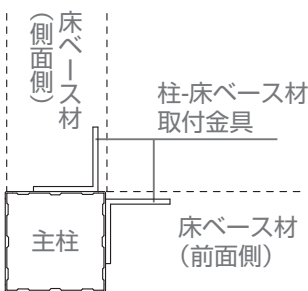


▼ 反対側の取付け ▼

- 1: 主柱を建込み

💡 お願い

- 柱の向きに注意してください。



6-3 主柱と床ベース材の取付け

つづき

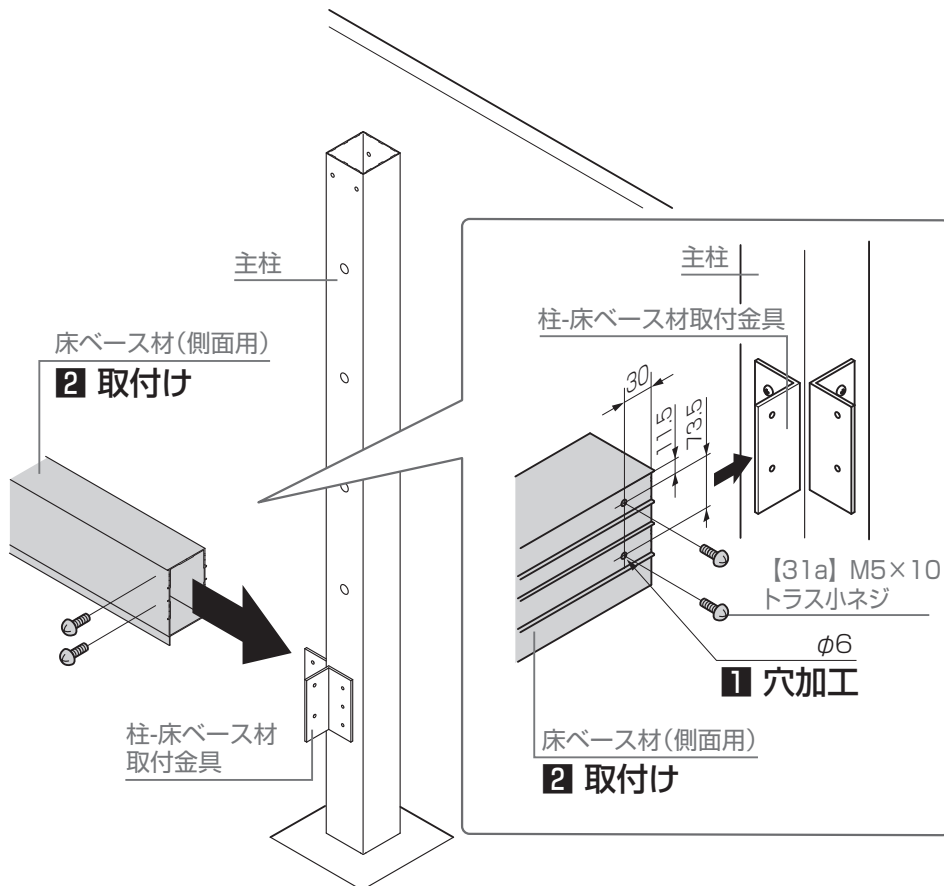
6-3-4 入隅、部分入隅の取付け

つづき

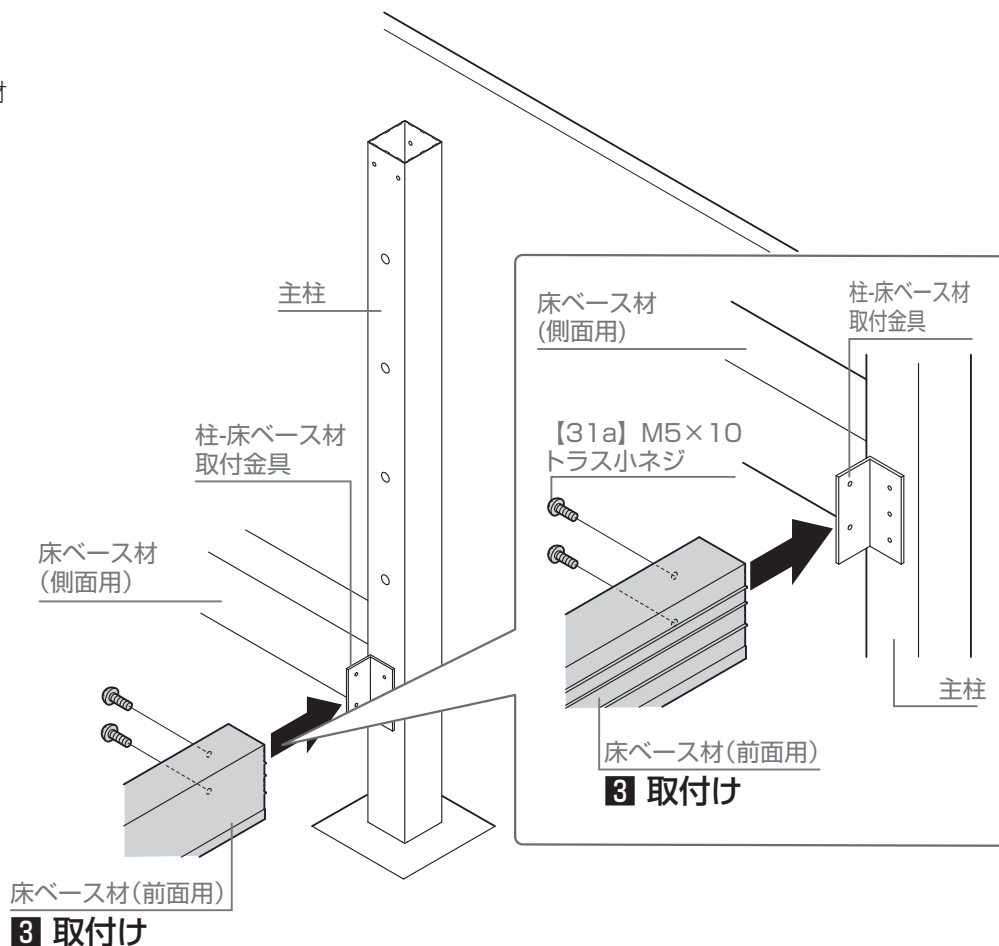
2. 床ベース材の取付け

1: 入隅側の床ベース材(側面用)にφ6の穴加工

2: 床ベース材(側面用)を柱-床ベース材取付金具に【31a】で取付け



3: 床ベース材(前面用)を柱-床ベース材取付金具に【31a】で取付け



基本

連棟

入隅

部分入隅

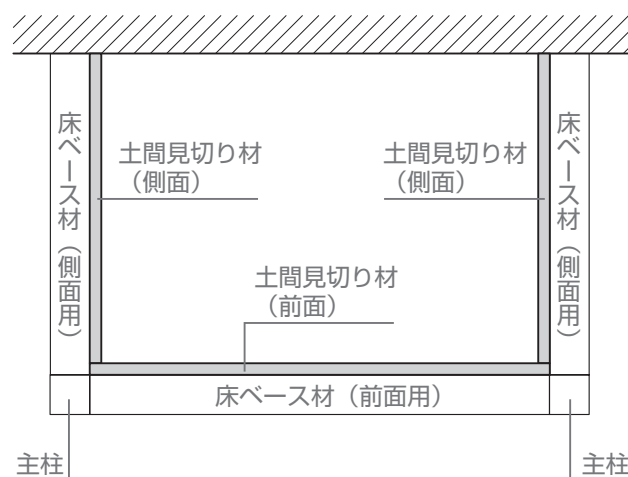
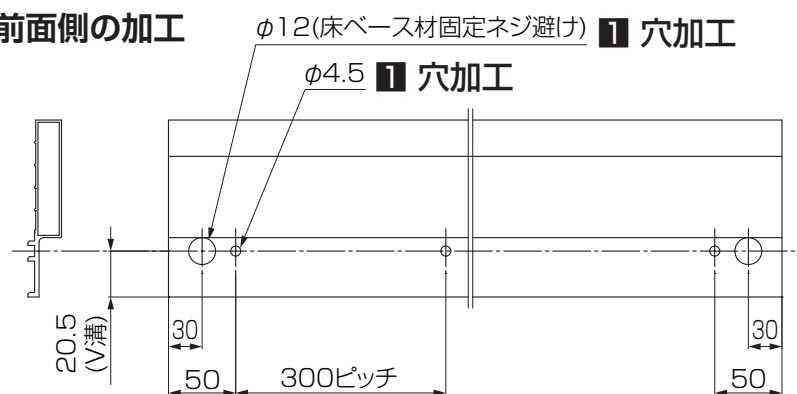
躯体側出幅違

6 本体の施工

6-4 土間見切り材の取付け ※土間仕様の場合に行なってください。

1: 前面に取付ける土間見切り材に穴加工

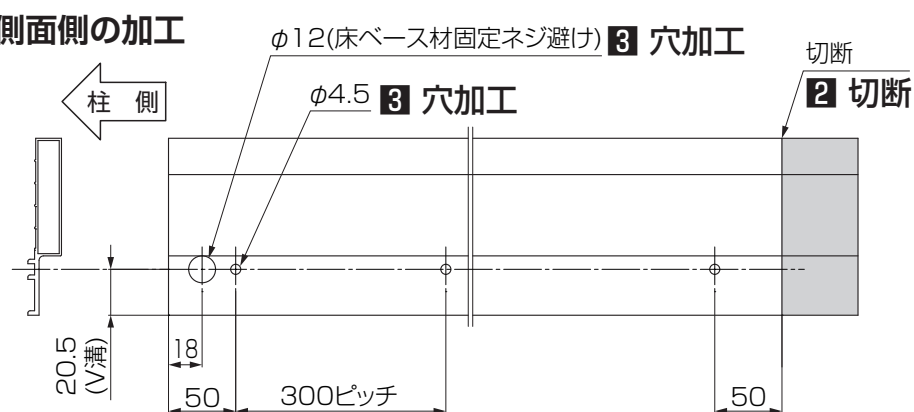
●前面側の加工



2: 側面に取付ける土間見切り材を前面土間見切り材～躯体内々寸法で切断

3: 側面に取付ける土間見切り材に穴加工

●側面側の加工

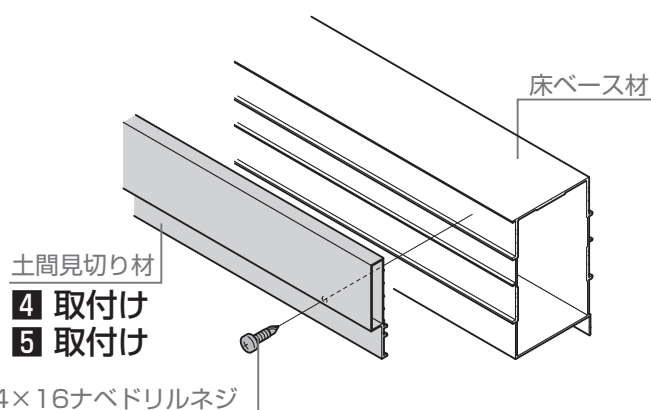


💡 お願い

- φ12穴は柱側のみ端部から18mmの位置に加工してください。

4: 土間見切り材を床ベース材(前面用)に【本24a】で取付け

5: 土間見切り材を床ベース材(側面用)に【本24a】で取付け



【本24a】φ4×16ナベドリルネジ

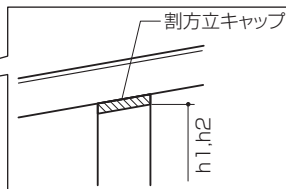
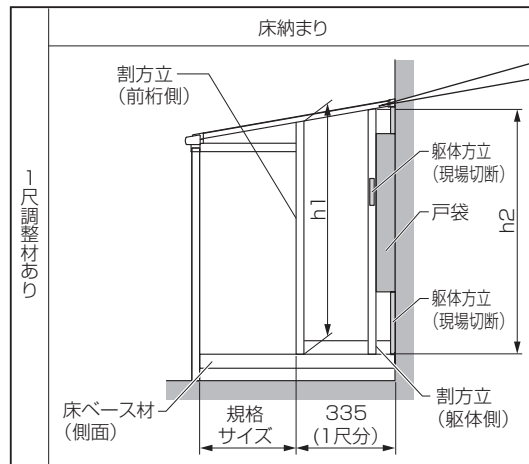
6-5 戸袋逃げ枠の取付け

6-5-1 納まり図

お願い

- 戸袋逃げ枠は1尺調整材ありとなしの2つのタイプがあります。
- 躯体側割方立は戸袋に当てて使用します。

●寸法図



		h1 (H24の場合)		h2
3000 (1尺)	床納まり	4尺	2650	現場に合わせて切詰め
		6尺	2756	現場に合わせて切詰め
		9尺	2915	現場に合わせて切詰め
3000 (1尺)	床納まり	4尺	2670	現場に合わせて切詰め
		6尺	2776	現場に合わせて切詰め
		9尺	2935	現場に合わせて切詰め

※現場にて後日土間打ちする場合は、+50mmしてください。
 ※H22、H20の場合は、h1からそれぞれ-200mm、-400mmしてください。

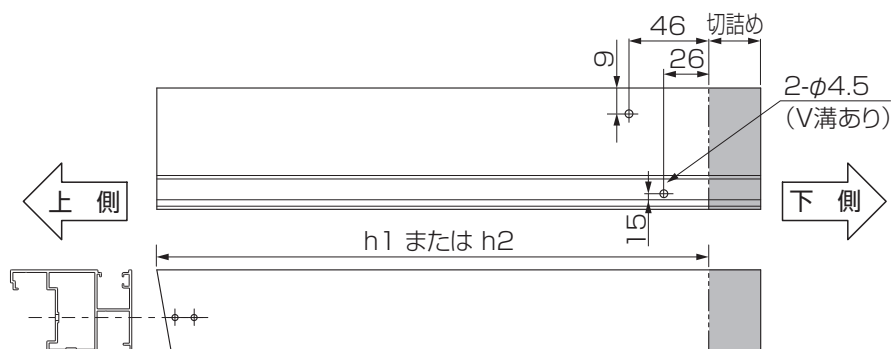
(1) 躯体方立

お願い

- 躯体方立を下記寸法で切断してください。
 - ・床ベース材上面～戸袋下面寸法品
 - ・戸袋上面～垂木掛け下面寸法品
- 必要に応じて躯体取付け穴を加工をしてください。

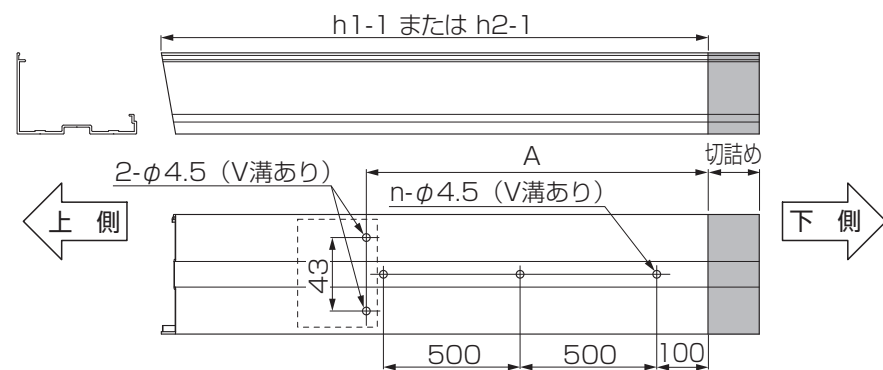
(2) 割方立A

※本図は外観右側を示します。
 左側は対称になります。



(3) 割方立B

※本図は外観右側を示します。
 左側は対称になります。



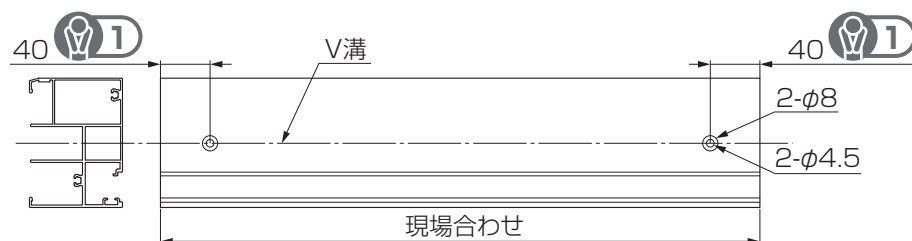
●A寸法

H呼称	H20	H22	H24
A	2020	2220	2420

(4) 下枠

お願い 1

- 長さが130mm未満の場合30mmの位置に穴加工をしてください。



6 本体の施工

6-5 戸袋逃げ枠の取付け

6-5-2 躯体方立・妻梁・ランマ縦枠の取付け

❶: 躯体方立を床ベース材(側面)の上に乗せる

❷: 躯体にφ4.5の下穴加工

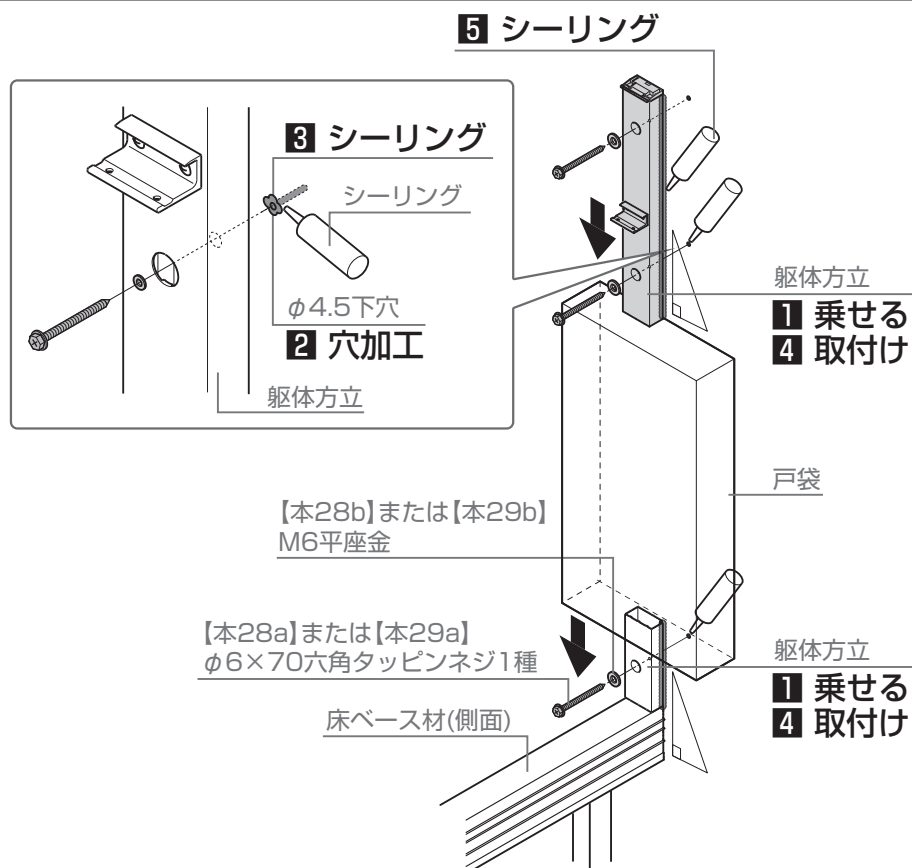
❸: 下穴にシーリングを充填

❹: 躯体方立を躯体に【本28a】【本28b】または【本29a】【本29b】で取付け

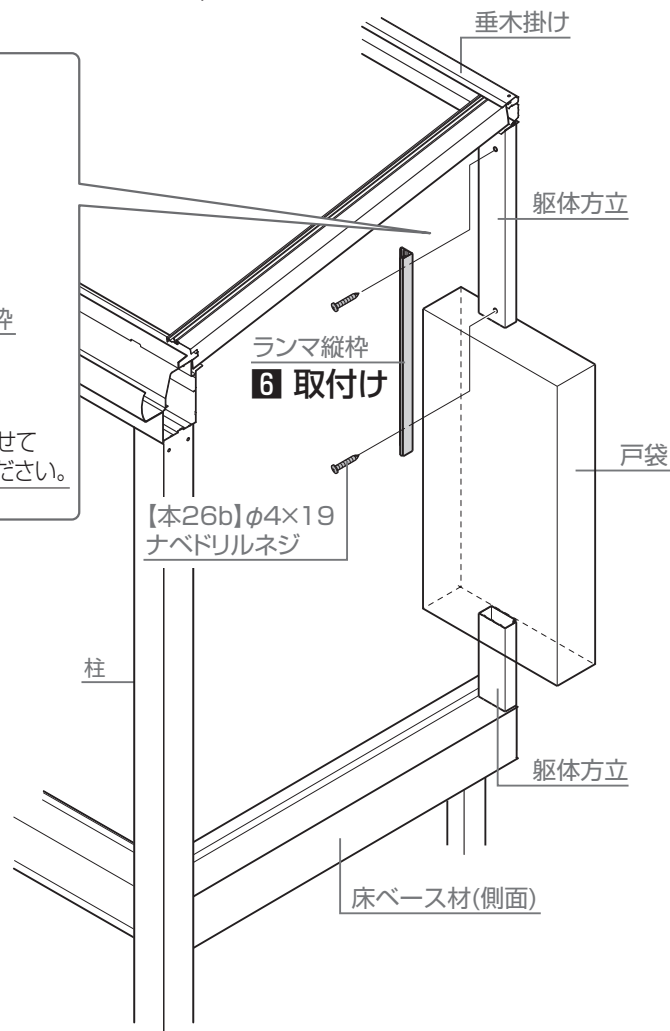
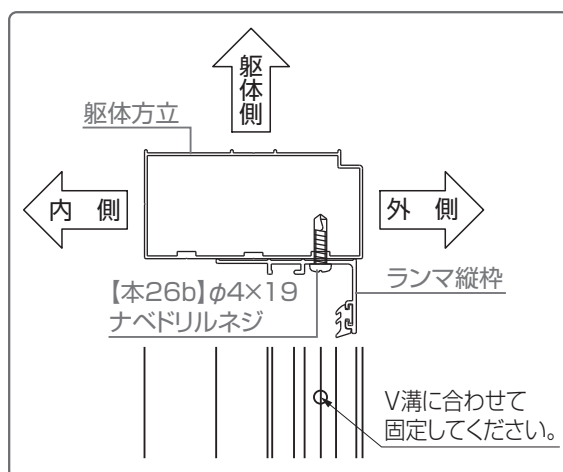
❺: 躯体と躯体方立の接合部にシーリング

お願い

- 躯体方立は垂直に固定してください。



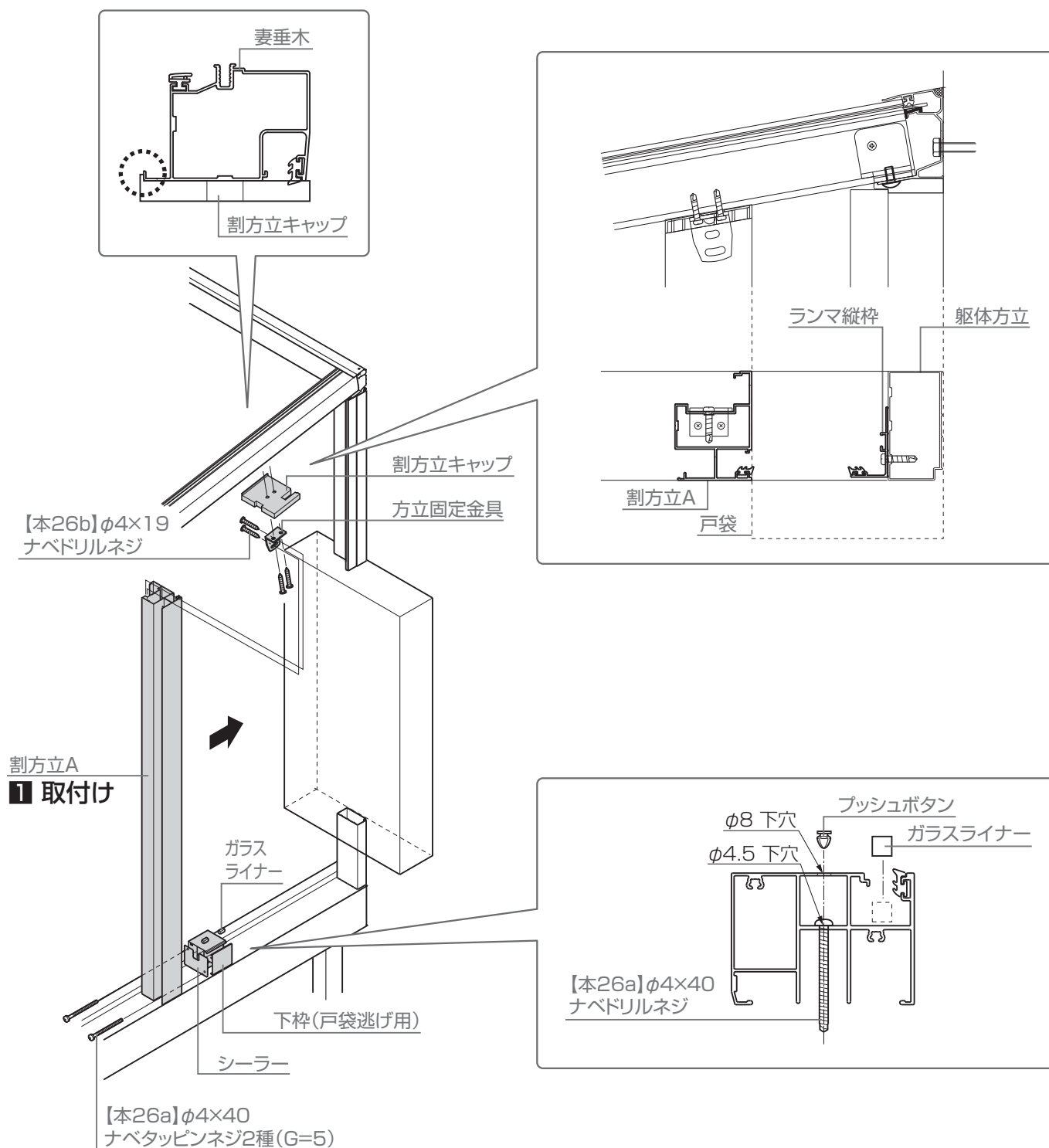
❻: ランマ縦枠を躯体方立に【本26b】で取付け



6-5 戸袋逃げ枠の取付け

6-5-3 割方立A(躯体側)の取付け

1: 割方立Aを戸袋に当てて【本26b】で取付け



6 本体の施工

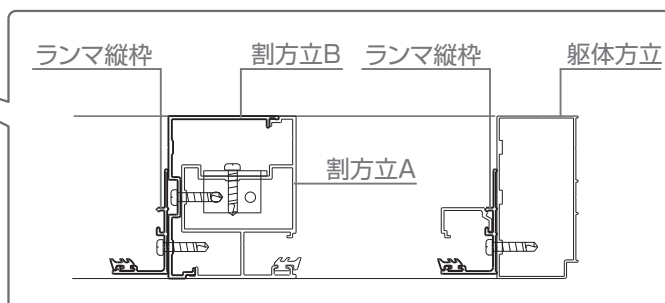
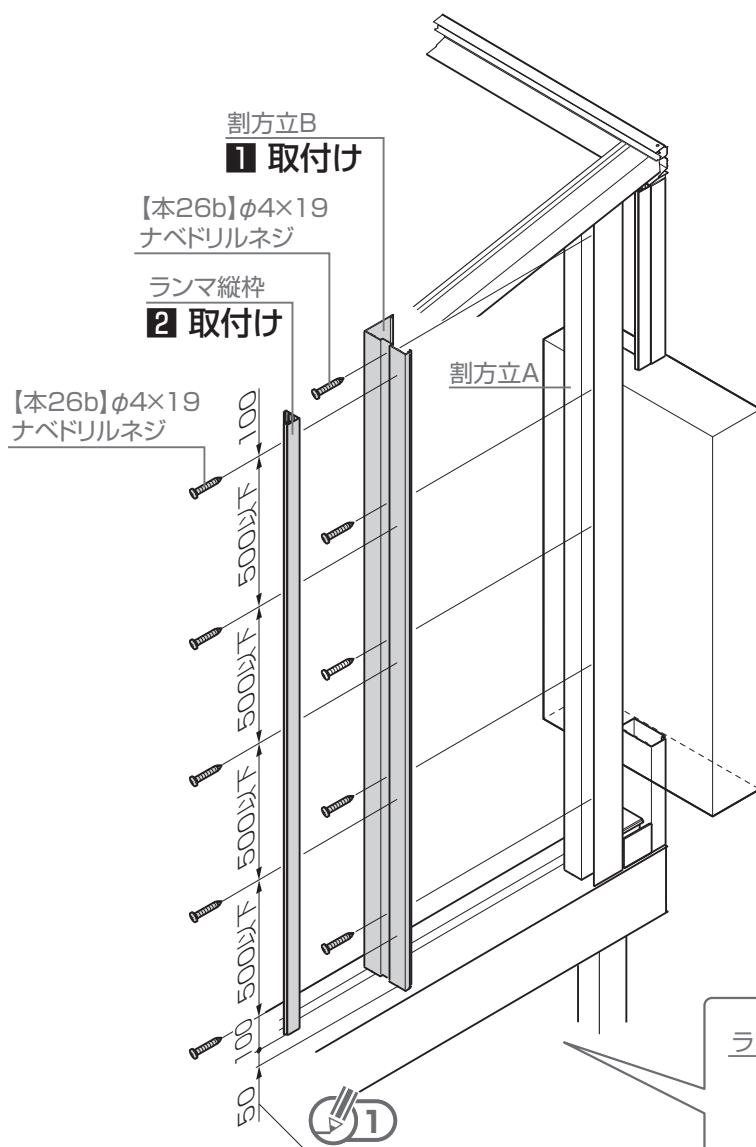
6-5 戸袋逃げ枠の取付け

6-5-4 割方立B(躯体側)・ランマ縦枠の取付け ※1尺調整材なしの場合は、この作業は不用です。

- 1: 割方立Bを割方立Aに【本26b】で取付け
- 2: ランマ縦枠を割方立Bに【本26b】で取付け

💡 お願い

- 割方立Bおよびランマ縦枠を500ピッチ以下で指定のネジで止めてください。
- 1尺調整材なしの場合は、P.52 妻梁の取付けへ進んでください。



🔧 補足 ①

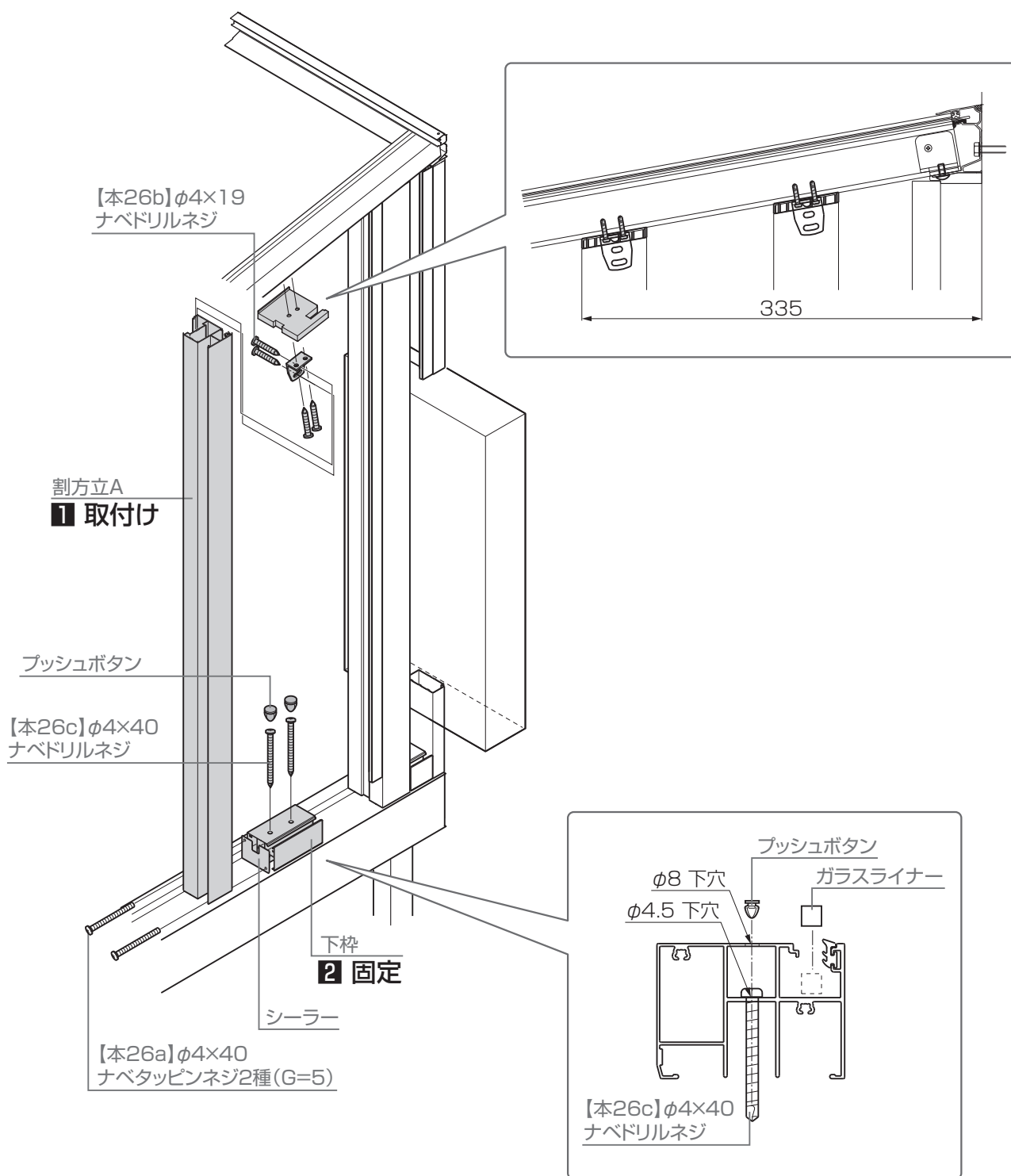
- 50mmは下枠が入るスペースです。

6-5 戸袋逃げ枠の取付け

6-5-5 割方立A(前桁側)の取付け

※1尺調整材ありの場合は、この作業は不要です。
※「4～9尺用」と「1尺調整用」を組合わせた場合を示します。

- 1: 割方立Aを妻垂木に【本26b】で取付け、下枠に【本26a】で取付け
- 2: 下枠をベース材に【本26c】で固定

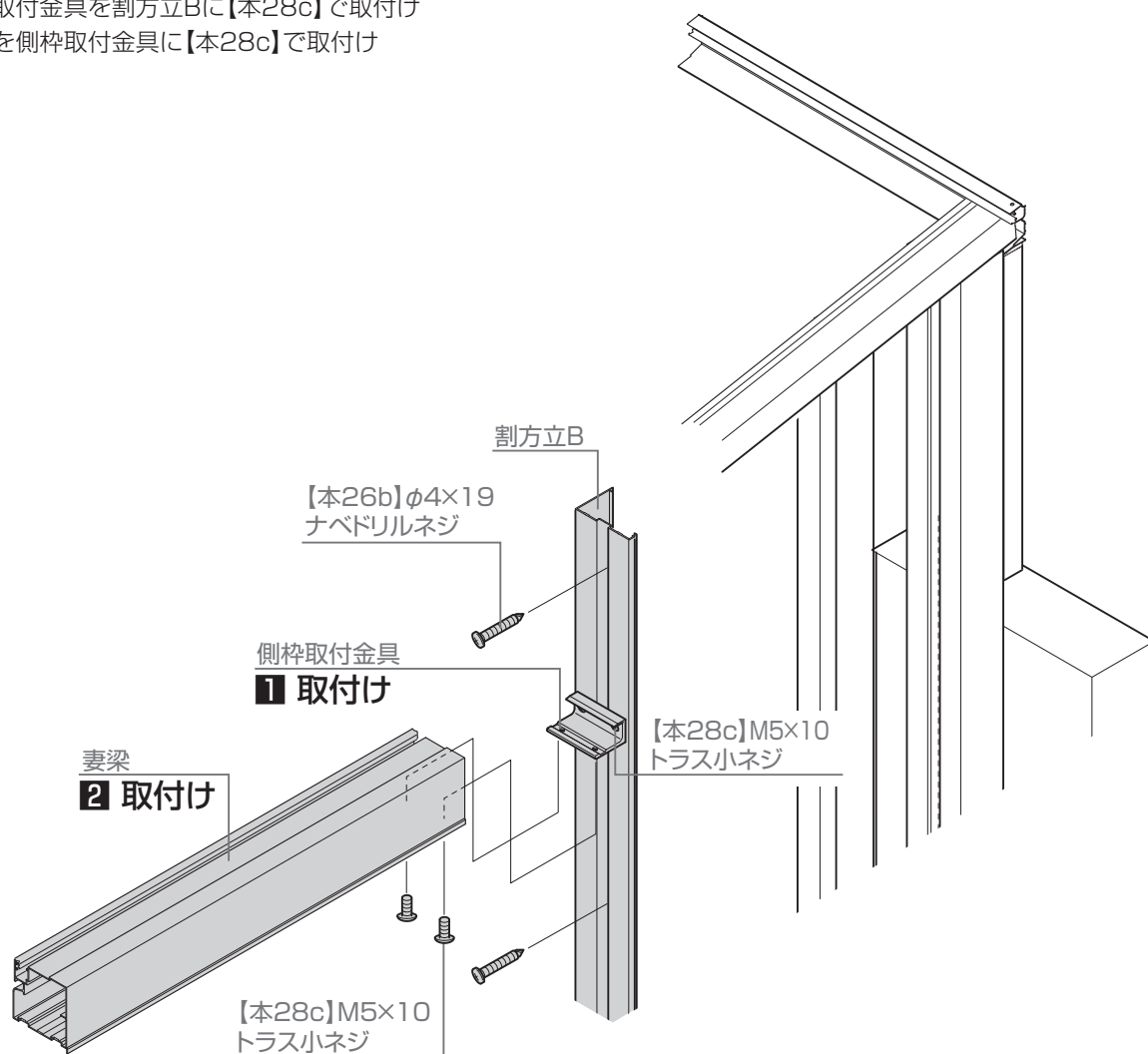


6 本体の施工

6-5 戸袋逃げ枠の取付け

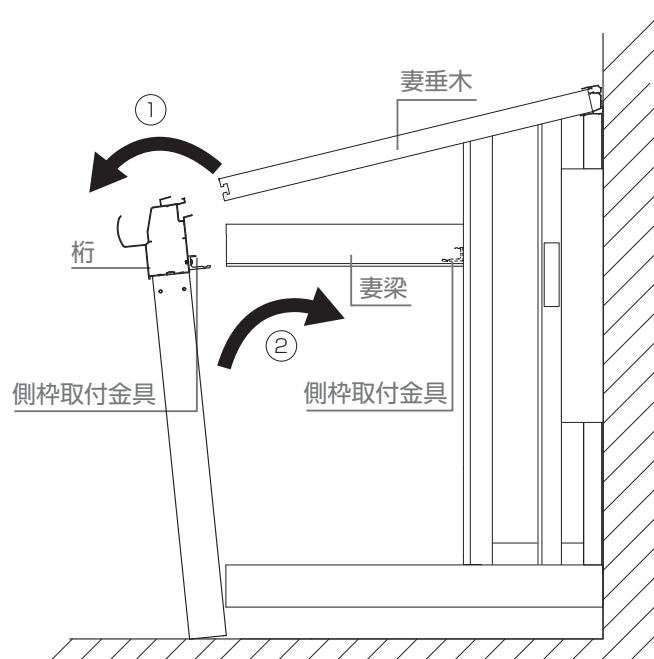
6-5-6 妻梁の取付け ※「4～9尺用」と「1尺調整用」を組合わせた場合を示します。

- 1: 側枠取付金具を割方立Bに【本28c】で取付け
- 2: 妻梁を側枠取付金具に【本28c】で取付け



💡 お願い

- 桁から妻垂木を一度外してから、枠を取付けてください。

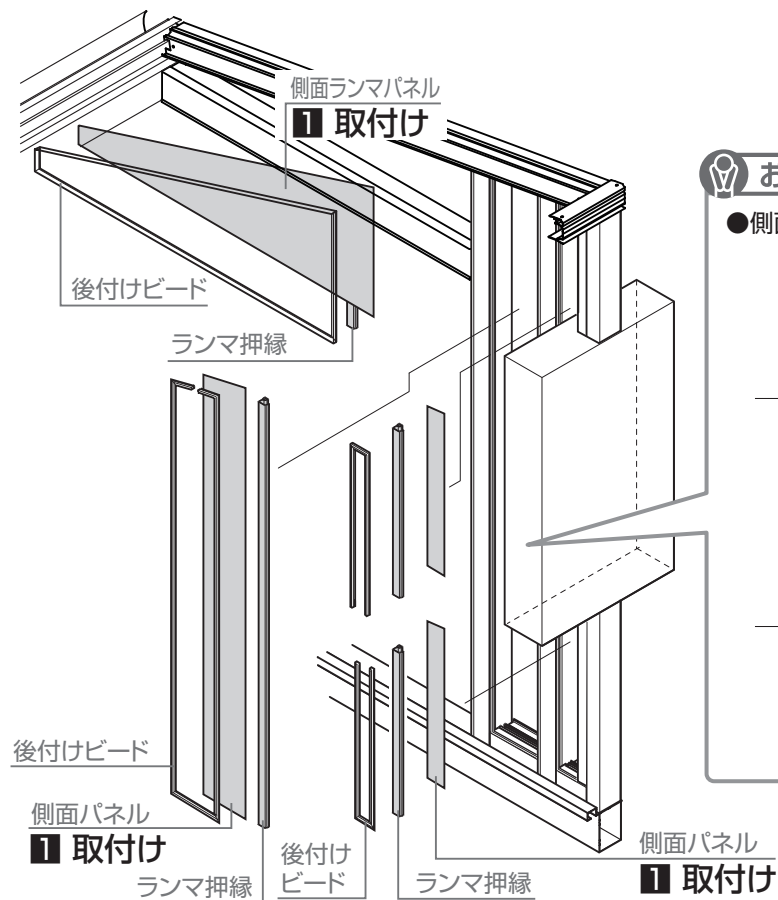


6 本体の施工

6-5 戸袋逃げ枠の取付け

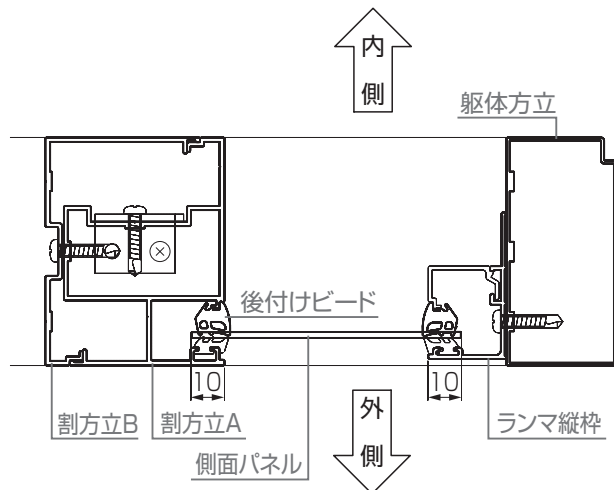
6-5-7 側面ランマパネルの取付け ※「4～9尺用」と「1尺調整用」を組合わせた場合を示します。

1: 側面ランマパネル、側面パネルを本体に取付け



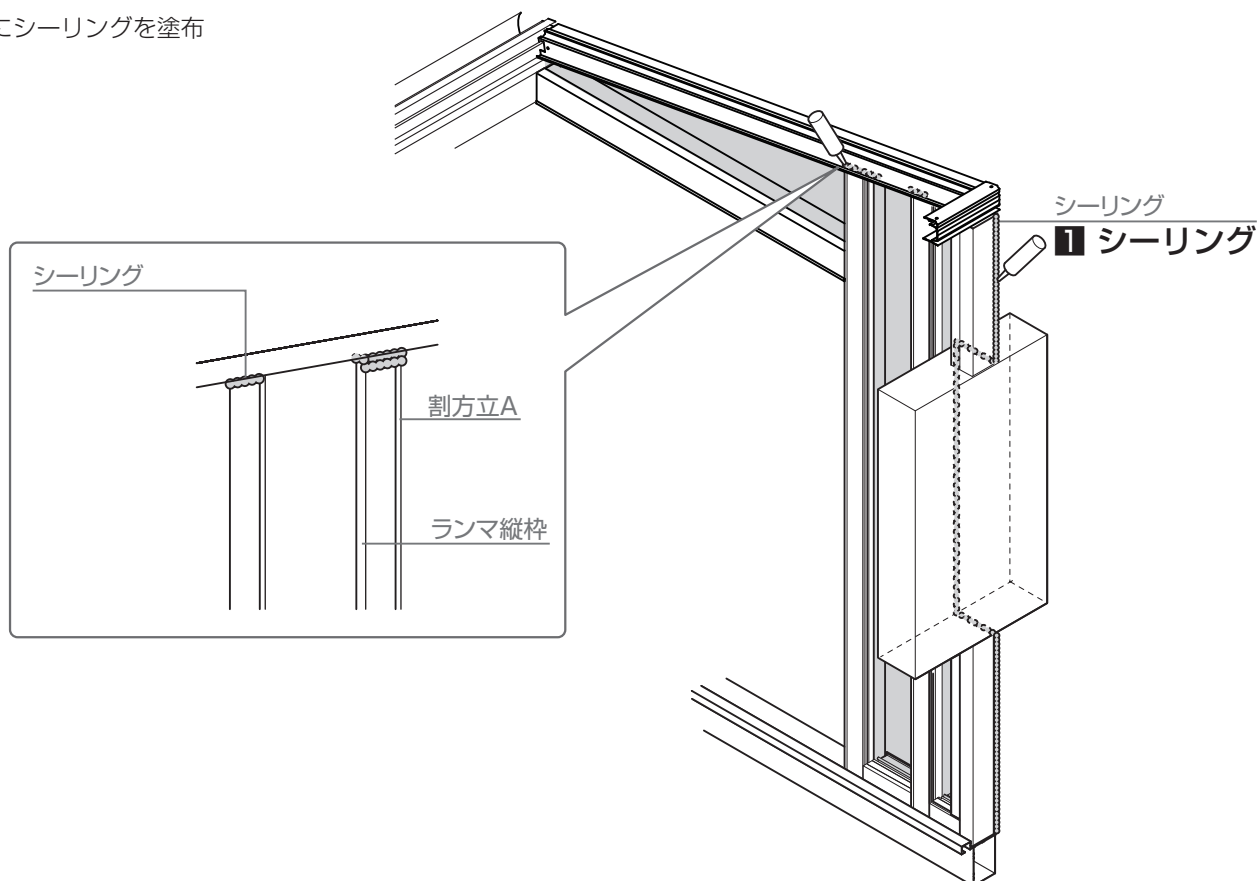
お願い

●側面パネルのノミ込み寸法は10mmになるようにしてください。



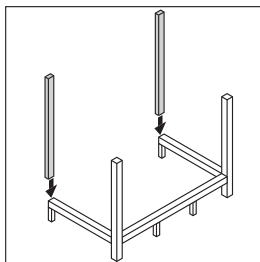
6-5-8 シーリング ※代表側として、1尺調整材ありを示します。

1: 戸袋逃げ枠にシーリングを塗布



6 本体の施工

6-6 躯体方立の取付け



連棟

P.54

ガーデン
ルームプラス

P.54

入隅

P.55

部分
入隅

P.56

躯体
出幅違い

P.57

6-6-1 基本の取付け(基本、連棟、ガーデンルームプラス)

❶: 躯体方立を床ベース材(側面)の上に乗せる

❷: 躯体にφ4.5の下穴加工

❸: 下穴にシーリングを充填

❹: 躯体方立を躯体に【本28a】【本28b】または【本29a】【本29b】で取付け

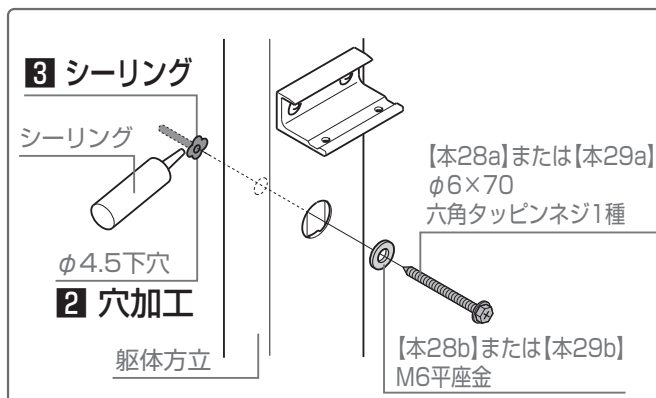
お願い

- 施工補助柱に取付ける場合は、施工補助部材桁キャップセットに同梱のφ5×19ナベドリルネジを使用してください。

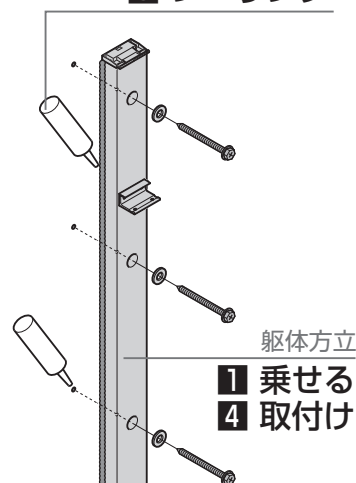
❺: 躯体と躯体方立の接合部にシーリング

お願い

- 躯体方立は垂直に固定してください。
- 躯体が傾いている場合には、躯体と方立の間にスペーサーを入れるなどしてください。



❺ シーリング



❶ 乗せる ❹ 取付け

【本28b】または【本29b】
M6平座金

【本28a】または【本29a】
φ6×70六角タッピンネジ1種

床ベース材(側面)

6-6 躯体方立の取付け

つづき

6-6-2 入隅の場合

補足 1

- 入隅側の床ベース材（側面）は、内外反対です。

- 1: 躯体方立を床ベース材（側面）の上に乗せる
- 2: 躯体にφ4.5の下穴加工
- 3: 下穴にシーリングを充填
- 4: 躯体方立を躯体に【本28a】【本28b】で取付け

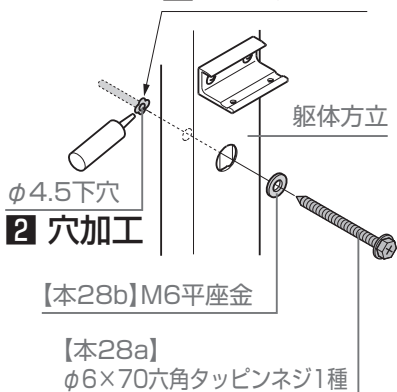
お願い

- 施工補助柱に取付ける場合は、施工補助部材桁キャップセットに同梱のφ5×19ナベドリルネジを使用してください。

補足 2

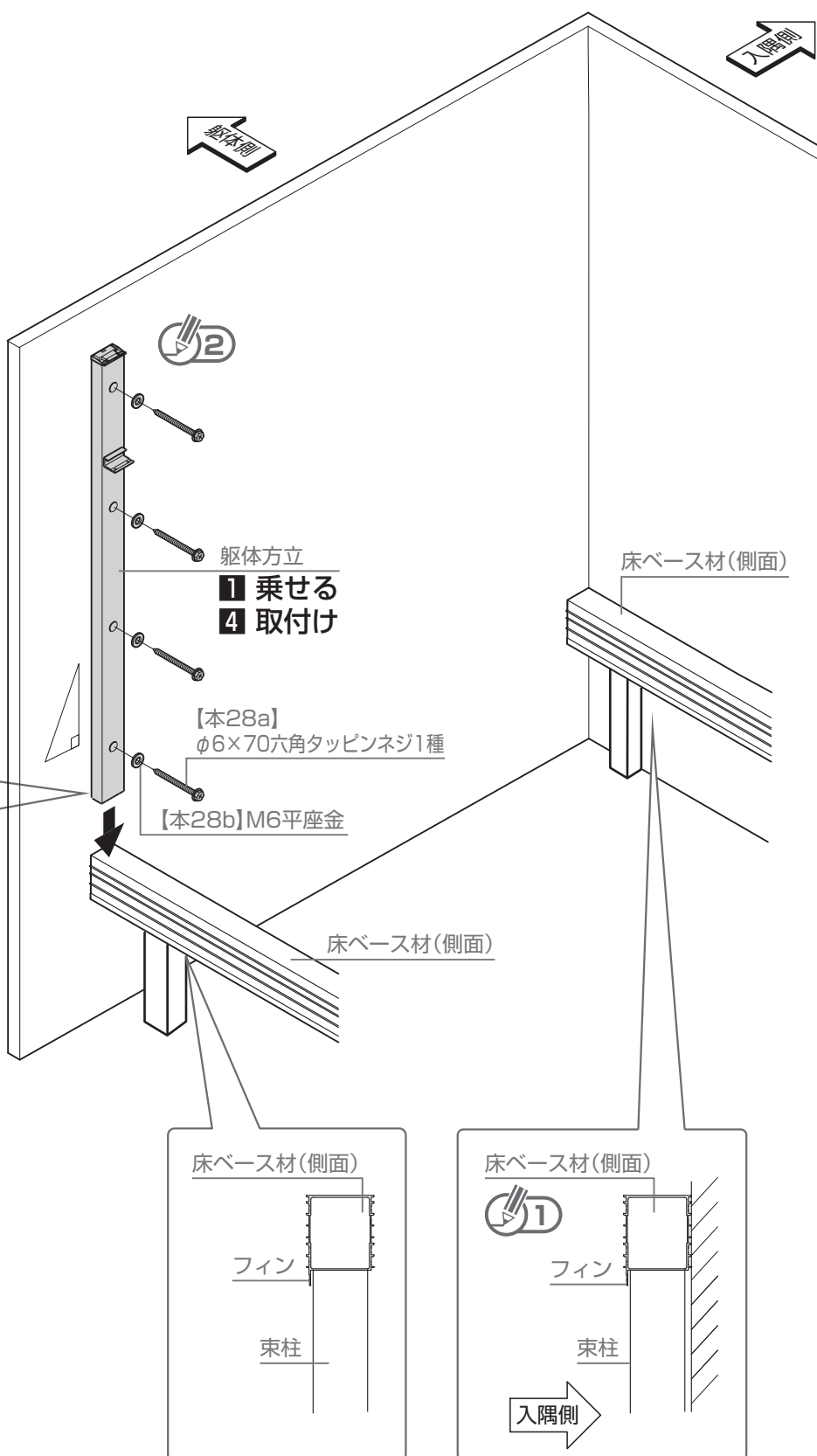
- 入隅側に躯体方立は不要です。

3 シーリング



お願い

- 躯体方立は垂直に固定してください。
- 躯体が傾いている場合には、躯体と方立の間にスペーサーを入れるなどしてください。



6 本体の施工

6-6 躯体方立の取付け

つづき

6-6-3 部分入隅の場合

※部分入隅側は部分入隅用方立を取付けます。

①: 床ベース材(側面)を束柱に取付け

補足 ①

- 入隅側の床ベース材(側面)は、内外反対です。

②: 躯体方立を入隅側と反対側の床ベース材(側面)の上に乗せる

③: 躯体にφ4.5の下穴加工

④: 下穴にシーリングを充填

⑤: 躯体方立を躯体に【本28a】【本28b】で取付け

お願い

- 施工補助柱に取付ける場合は、施工補助部材キャップセットに同梱のφ5×19ナベドリルネジを使用してください。

⑥: 部分入隅用方立にφ25の穴加工

⑦: 部分入隅用方立にφ7の下穴加工

⑧: 部分入隅用方立に側枠取付金具を【本28c】で取付け

お願い ①

- 小口は背面に向かい10°の傾斜が付きます。

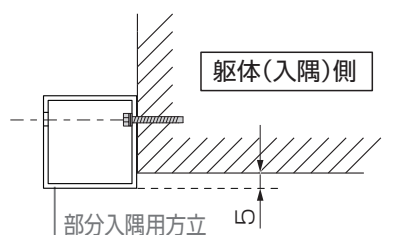
⑨: 躯体にφ4.5の下穴加工

⑩: 下穴にシーリングを充填

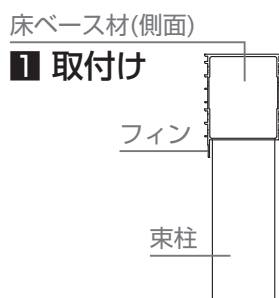
⑪: 部分入隅用方立を、躯体(入隅側)に【本31e】で取付け

お願い

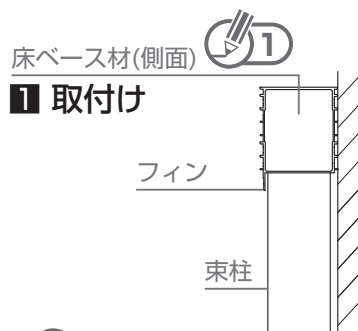
- 部分入隅用方立は、サッシ枠、折戸枠を取付けるために躯体から柱側に5mmずらした位置に取付けてください。



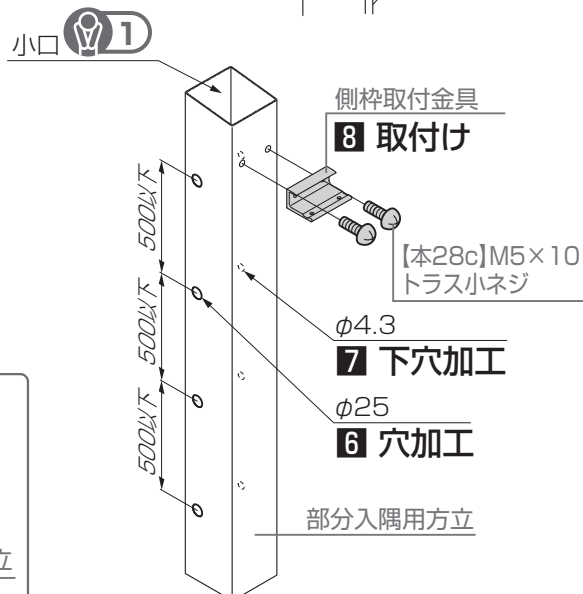
⑫: 躯体方立と躯体接合部にシーリング



① 取付け



① 取付け

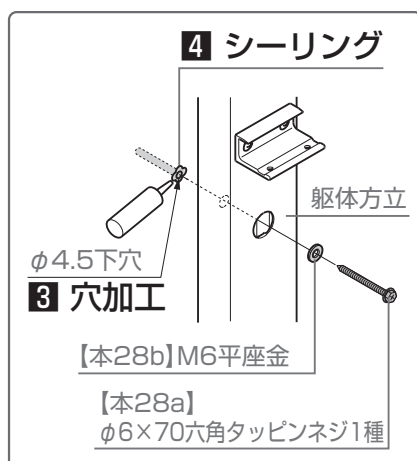


⑧ 取付け

【本28c】M5×10
トラス小ネジ

⑦ 下穴加工

⑥ 穴加工

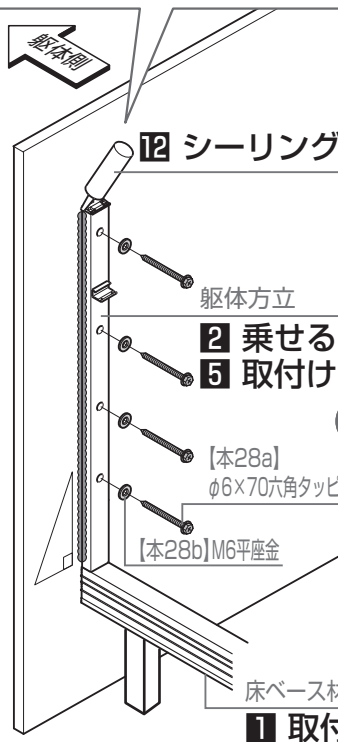


④ シーリング

φ4.5下穴
③ 穴加工

【本28b】M6平座金

【本28a】
φ6×70六角タッピンネジ1種



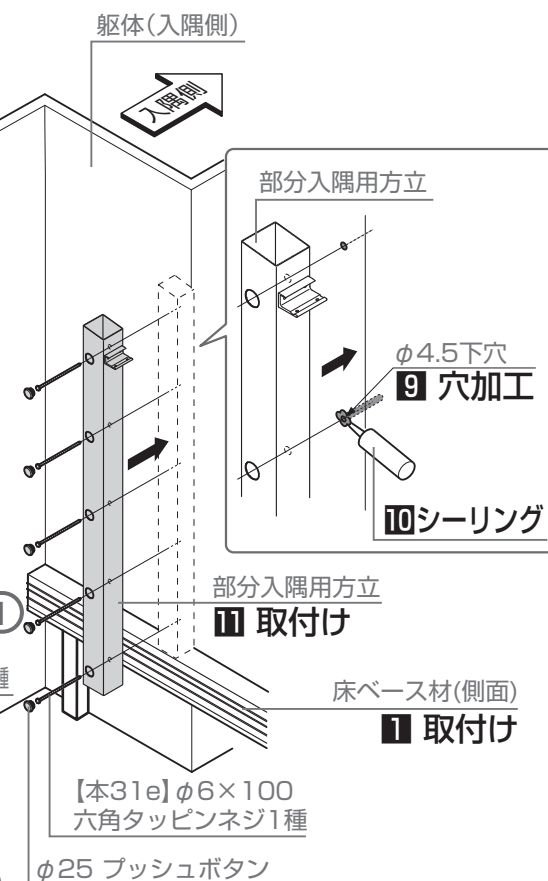
⑫ シーリング

② 乗せる
⑤ 取付け

【本28a】
φ6×70六角タッピンネジ1種

【本28b】M6平座金

① 取付け



部分入隅用方立

φ4.5下穴
⑨ 穴加工

⑩ シーリング

⑪ 取付け

床ベース材(側面)
① 取付け

【本31e】φ6×100
六角タッピンネジ1種

φ25 プッシュボタン

6-6 躯体方立の取付け

つづき

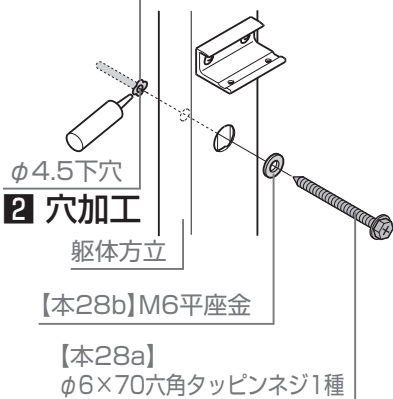
6-6-4 躯体出幅違い

- 1: 躯体方立を床ベース材(側面)の上に
乗せる
- 2: 躯体に $\phi 4.5$ の下穴加工
- 3: 下穴にシーリングを充填
- 4: 躯体方立を躯体に【本28a】【本28b】で
取付け

お願い

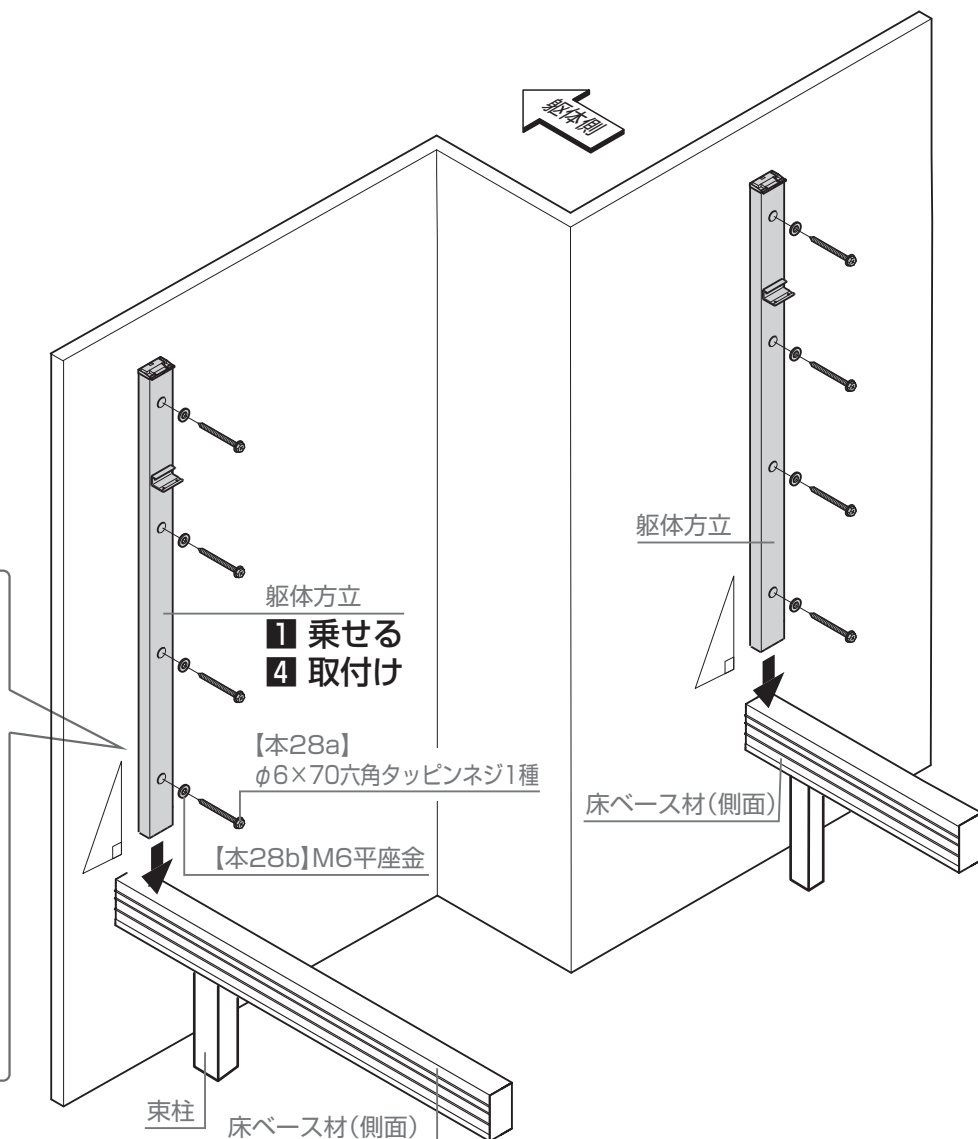
- 施工補助柱に取付ける場合は、施工補助部材桁キャップセットに同梱の $\phi 5 \times 19$ ナベドリルネジを使用してください。

3 シーリング



お願い

- 躯体方立は垂直に固定してください。
- 躯体が傾いている場合には、躯体と方立の間にスペーサーを入れるなどしてください。



基本

連棟

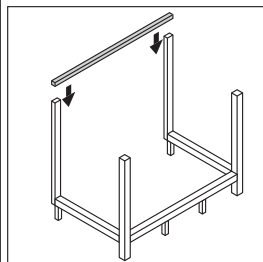
入隅

部分入隅

躯体側出幅違

6 本体の施工

6-7 垂木掛けの取付け



連棟

P.60

ガーデン
ルームプラス

P.64

入隅

P.61

部分
入隅

P.62

躯体
出幅違い

P.63

6-7-1 基本の取付け

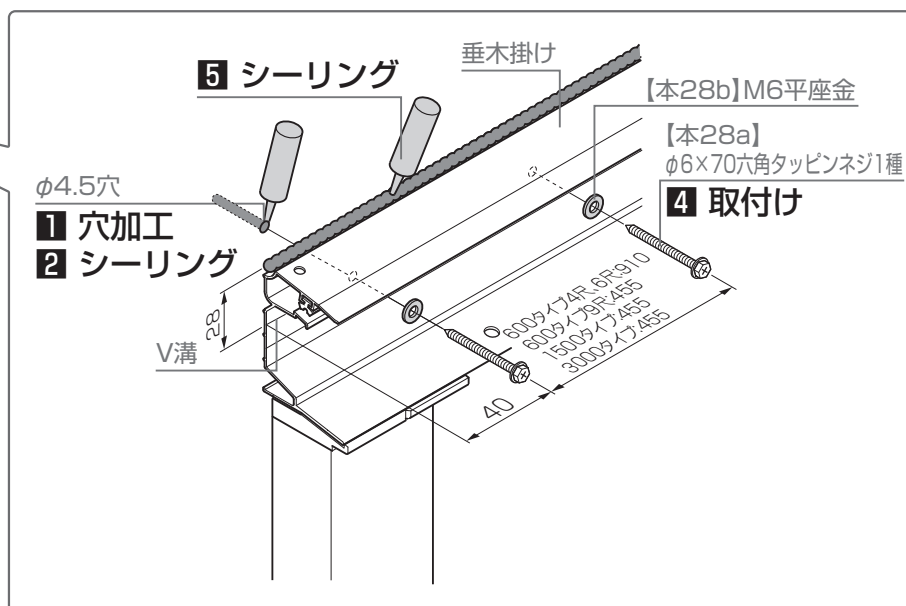
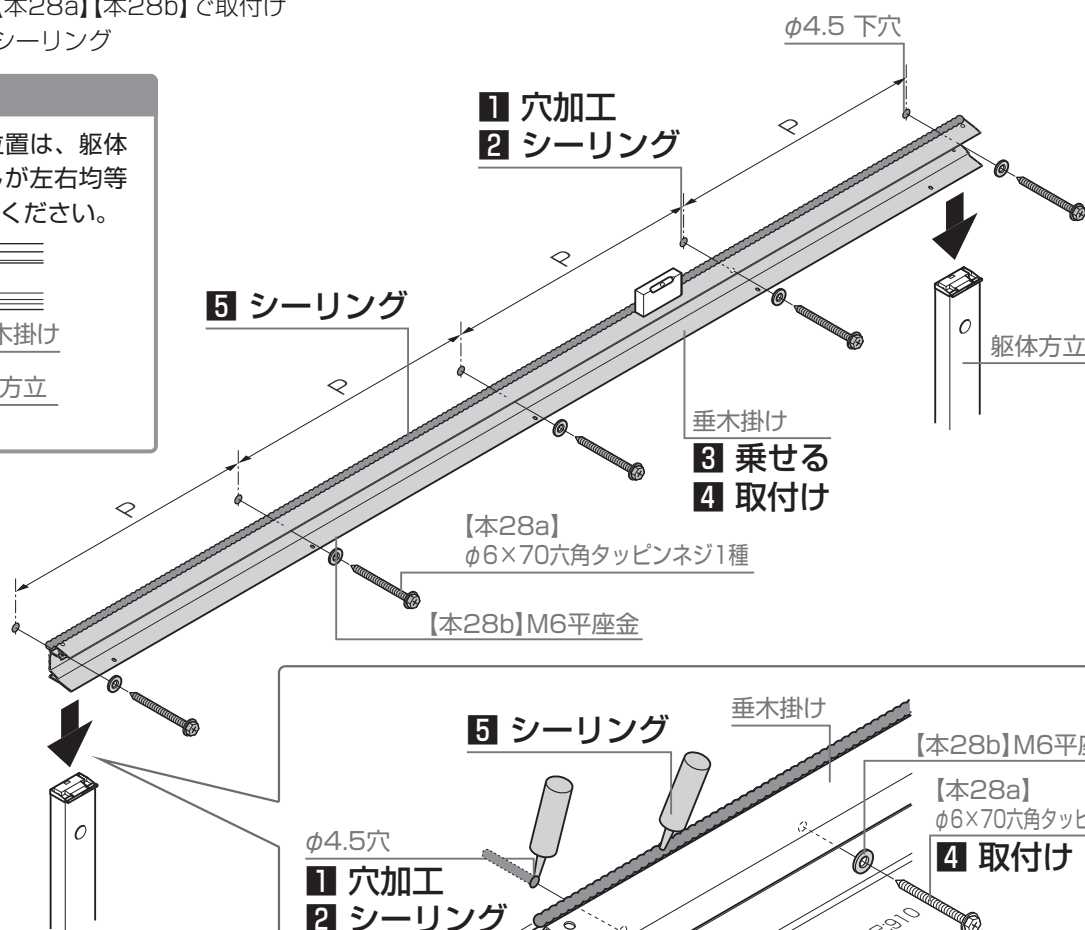
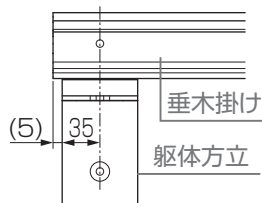
お願い

●RC構造、軽量鉄骨構造、金属サイディングに取付ける場合は、P.59を参照してください。

- 1: 躯体にφ4.5の下穴加工
- 2: φ4.5の穴にシーリングを充填
- 3: 垂木掛けを躯体方立に乗せる
- 4: 垂木掛けを躯体に【本28a】【本28b】で取付け
- 5: 垂木掛けの上面にシーリング

お願い

●垂木掛けの固定位置は、躯体方立からの張出しが左右均等になるようにしてください。



6 本体の施工

6-7 垂木掛けの取付け

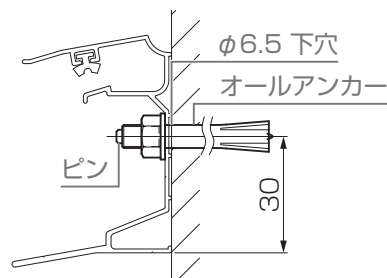
つづき

6-7-2 在来工法以外の躯体への施工方法

▼ RC構造の場合 ▼

💡 お願い

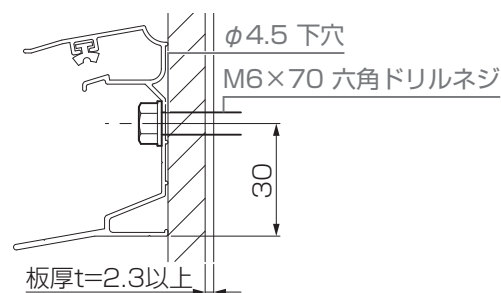
- $\phi 6.5\text{mm}$ の下穴をあけ、切粉を除去し、取付けてください。
- 同梱の袋ナットを使用する場合、埋め込み深さを調整し、ピンを切断して取付けてください。



▼ 軽量鉄骨構造の場合 ▼

💡 お願い

- 鉄骨の板厚が 2.3mm 以上あることを確認し、取付けてください。
- 締付けの際、インパクトドライバーを使用しないでください。



▼ 金属サイディングの場合 ▼

💡 お願い 1

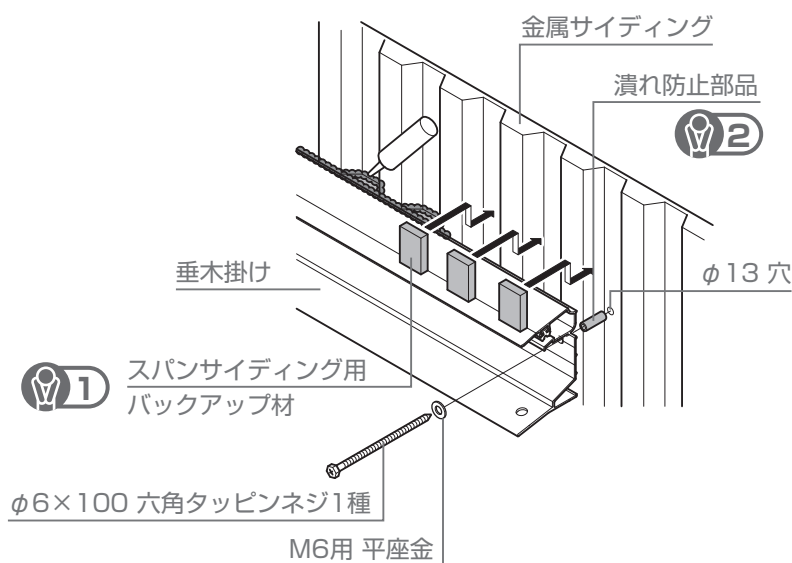
- スパンサイディング縦張りの場合のみ必要です。
- ・ 各スパンに貼付けてください。
- ・ 貼付け後はシーリングしてください。

💡 お願い 2

- 外壁厚+1mmで切断し、取付けてください。

💡 お願い 3

- 固定ネジの締込み過ぎにより、金属サイディングが潰れないようご注意ください。



▼ 通気工法の場合 ▼

💡 お願い

- 通気工法対応部品セットの取付説明を参照してください。

基本

連棟

入隅

部分入隅

躯体側出幅違

6-7 垂木掛けの取付け

つづき

6-7-3 連棟の場合

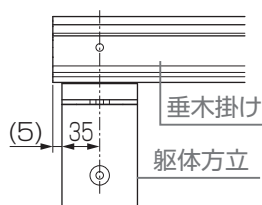
お願い

●RC構造、軽量鉄骨構造、金属サイディングに取付ける場合は、P.59を参照してください。

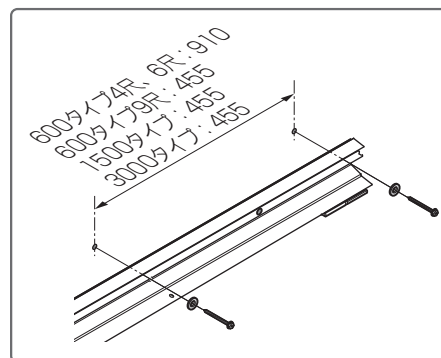
- 1: 躯体に $\phi 4.5$ の下穴加工
- 2: $\phi 4.5$ の穴にシーリング
- 3: 垂木掛けを躯体方立に乗せる
- 4: 垂木掛けを躯体に【本28a】【本28b】または【本29a】【本29b】で取付け
- 5: 垂木掛けの上面にシーリング

お願い

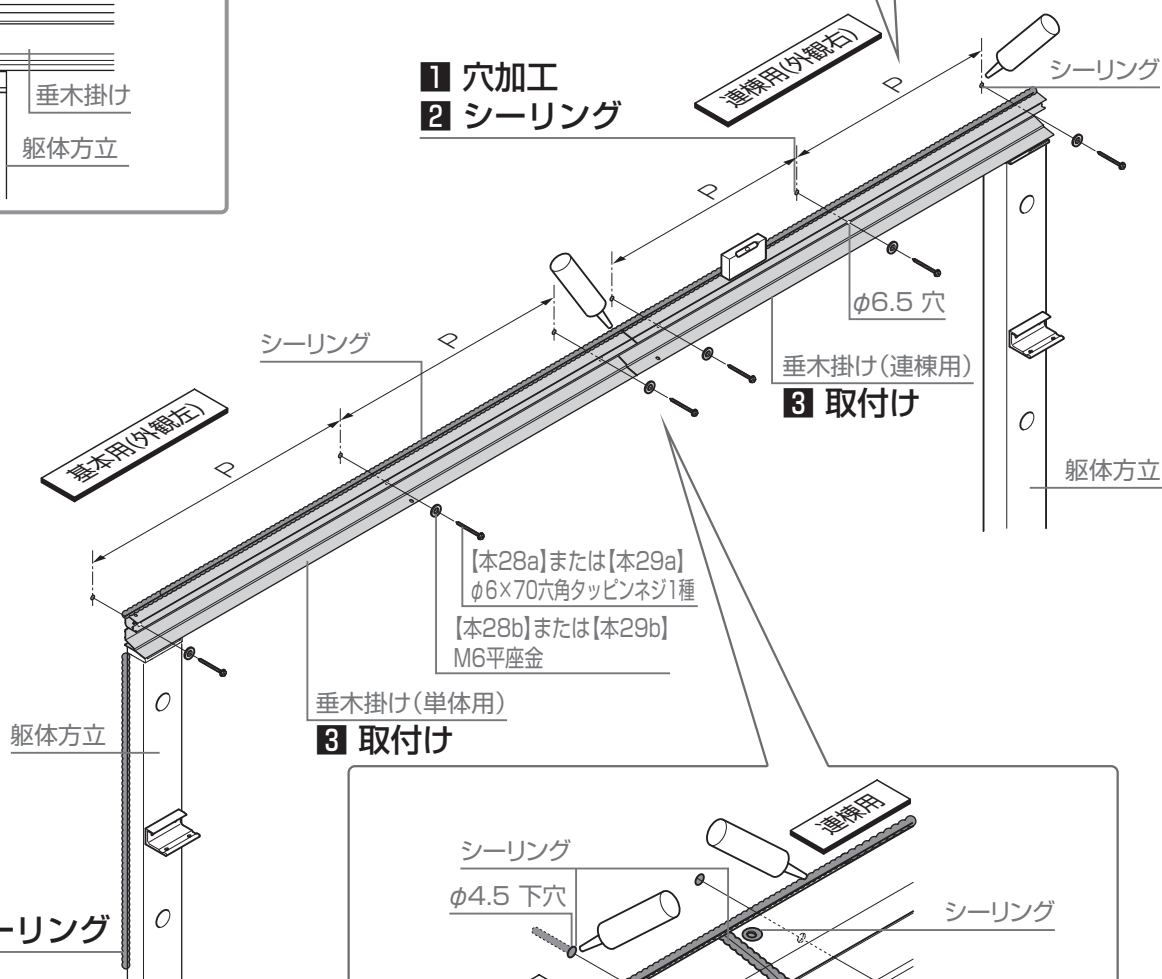
●垂木掛けの固定位置は、躯体方立からの張出しが左右均等になるようにしてください。



1 穴加工 2 シーリング

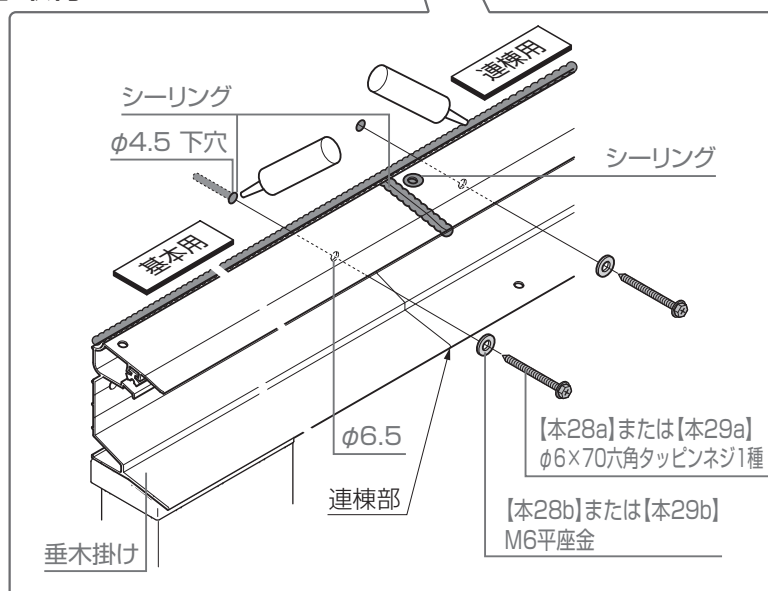


3 取付け



垂木掛け(単体用)

3 取付け



6-7 垂木掛けの取付け

つづき

6-7-4 入隅の場合

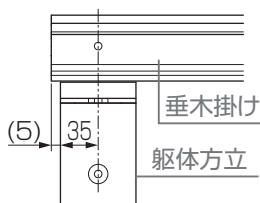
お願い

●RC構造、軽量鉄骨構造、金属サイディングに取付ける場合は、P.59を参照してください。

- 1: 躯体にφ4.5の下穴加工
- 2: φ4.5の穴にシーリング
- 3: 垂木掛けを躯体方立に乗せる
- 4: 垂木掛けを躯体に【本28a】【本28b】で取付け
- 5: 垂木掛けの上面にシーリング

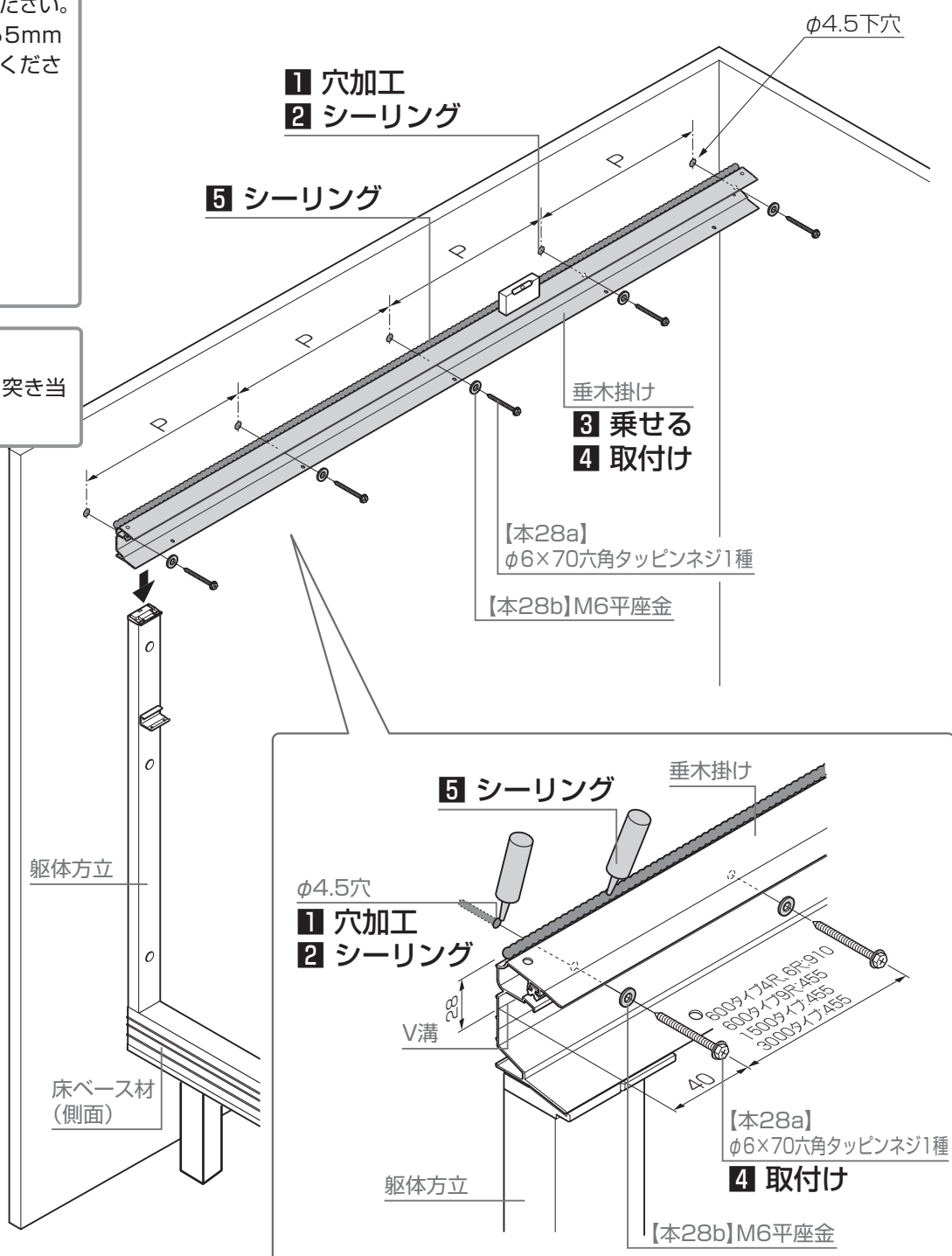
お願い

- 垂木掛けは水平に固定してください。
- 垂木掛けは、躯体方立から5mm程度張出すことを確認してください。



補足

- 垂木掛けは入隅側の躯体に突き当ててください。



6 本体の施工

6-7 垂木掛けの取付け

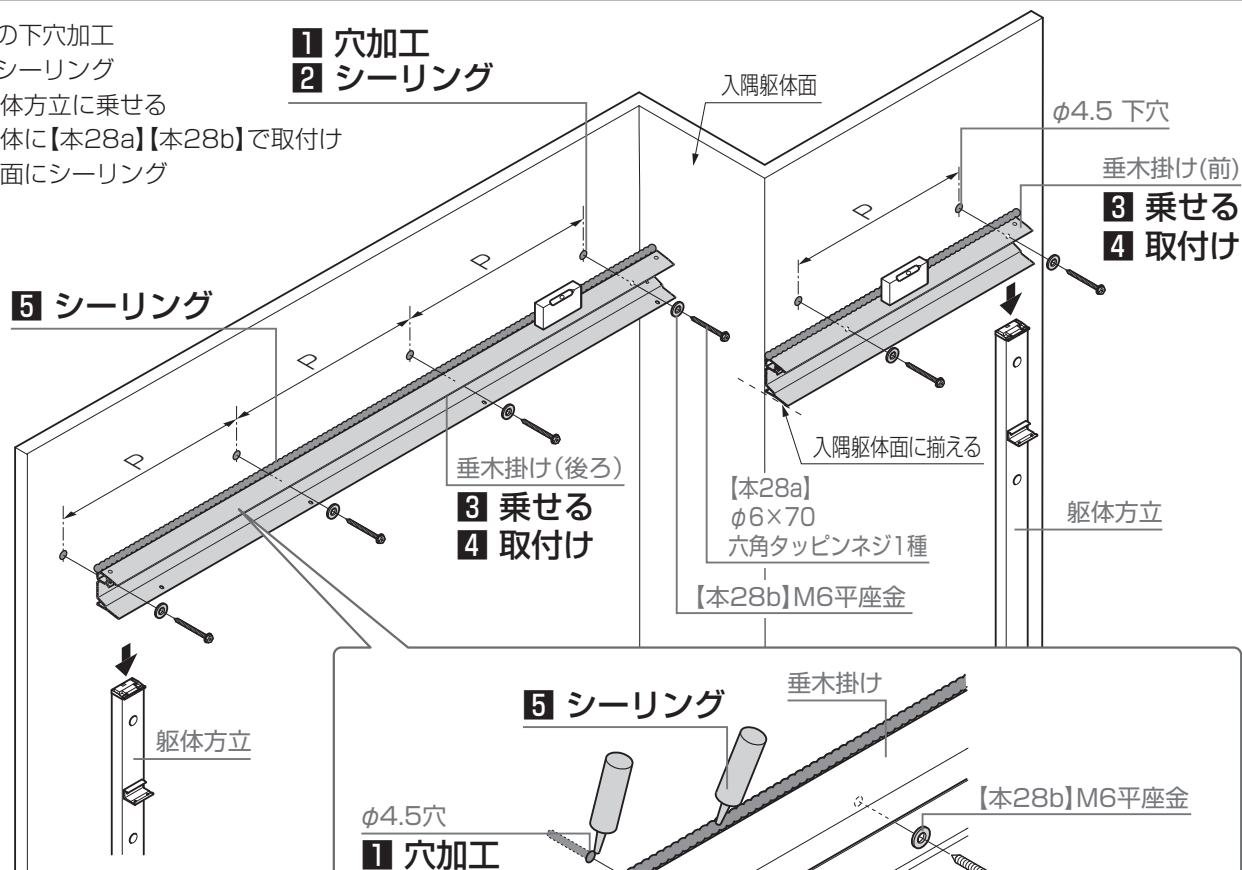
つづき

6-7-6 躯体出幅違いの場合

お願い

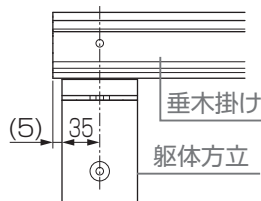
●RC構造、軽量鉄骨構造、金属サイディングに取付ける場合は、P.59を参照してください。

- 1: 躯体にφ4.5の下穴加工
- 2: φ4.5の穴にシーリング
- 3: 垂木掛けを躯体方立に乗せる
- 4: 垂木掛けを躯体に【本28a】【本28b】で取付け
- 5: 垂木掛けの上面にシーリング



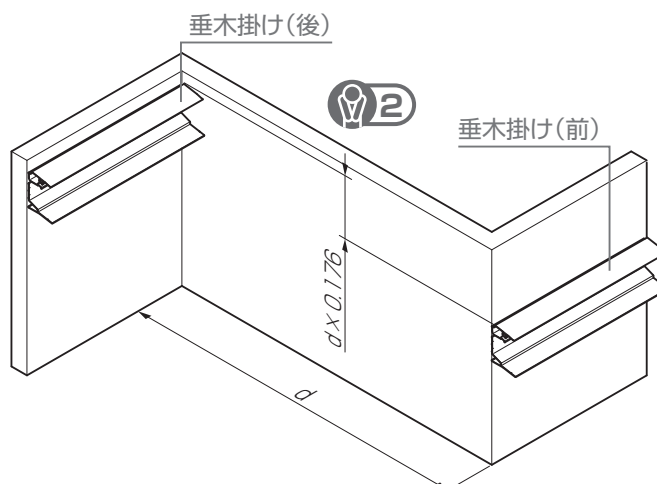
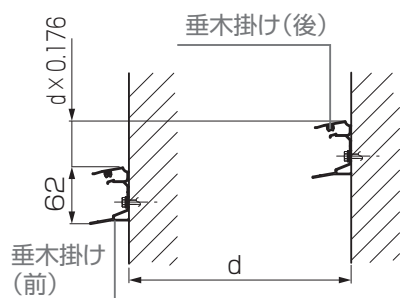
お願い

- 垂木掛けは水平に固定してください。
- 垂木掛けは、躯体方立から5mm程度張出すことを確認してください。



お願い 2

- 垂木掛け(前)と垂木掛け(後)の取付け位置を算出して取付けてください。



6 本体の施工

6-7 垂木掛けの取付け

つづき

6-7-8 ガーデンルームプラス（連棟）の場合 ※外観左ルームの場合を示します

お願い

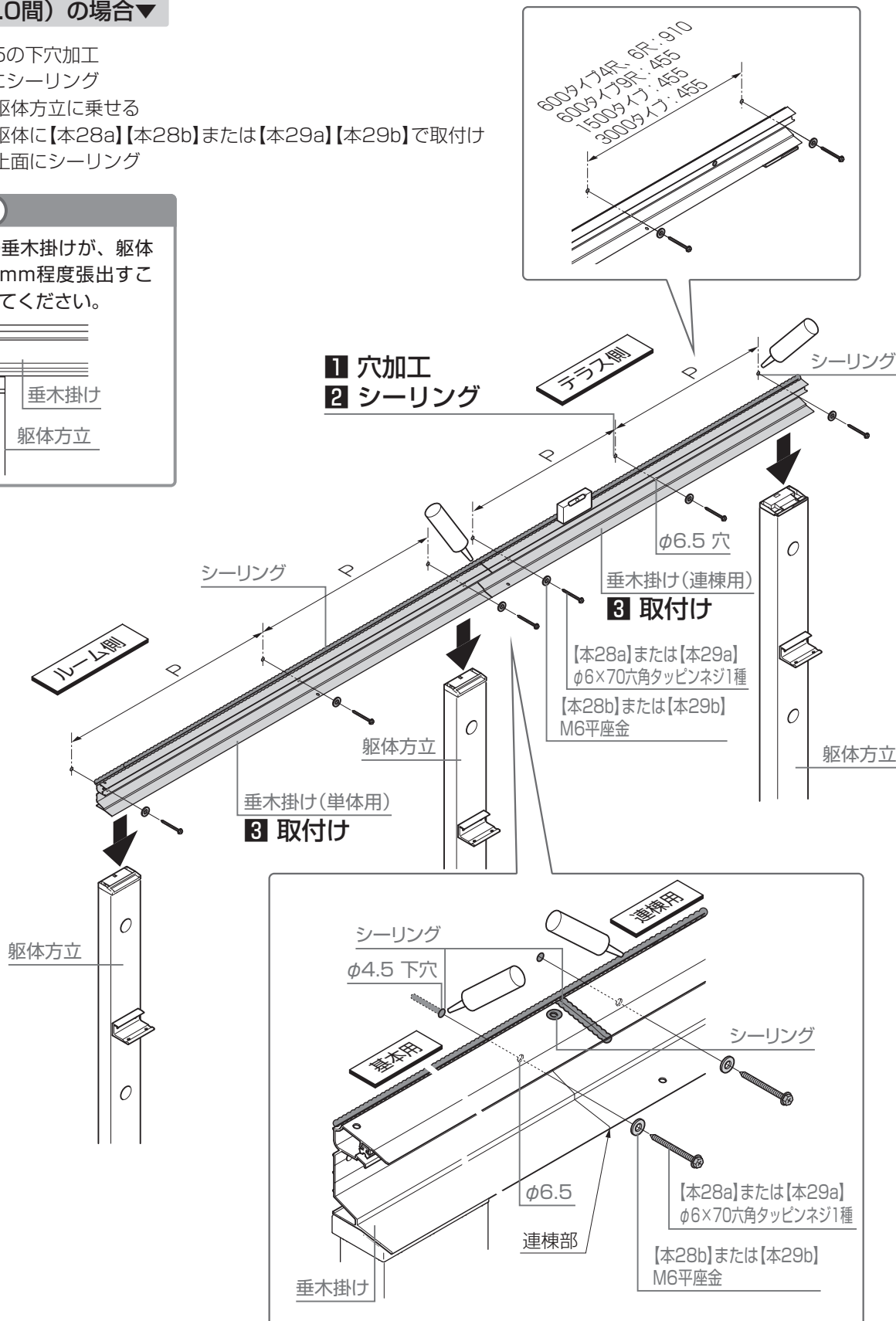
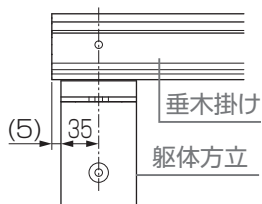
●RC構造、軽量鉄骨構造、金属サイディングに取付ける場合は、P.59を参照してください。

▼ 連棟（2.0間）の場合 ▼

- 1: 躯体にφ4.5の下穴加工
- 2: φ4.5の穴にシーリング
- 3: 垂木掛けを躯体方立に乗せる
- 4: 垂木掛けを躯体に【本28a】【本28b】または【本29a】【本29b】で取付け
- 5: 垂木掛けの上面にシーリング

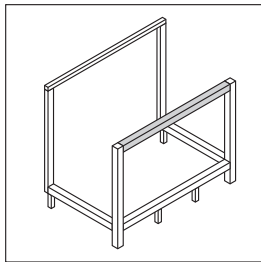
お願い

●ルーム側の垂木掛けが、躯体方立から5mm程度張出すことを確認してください。



6 本体の施工

6-8 桁の取付け



連棟

P.67

ガーデン
ルームプラス

P.69

入隅

P.66

部分
入隅

P.66

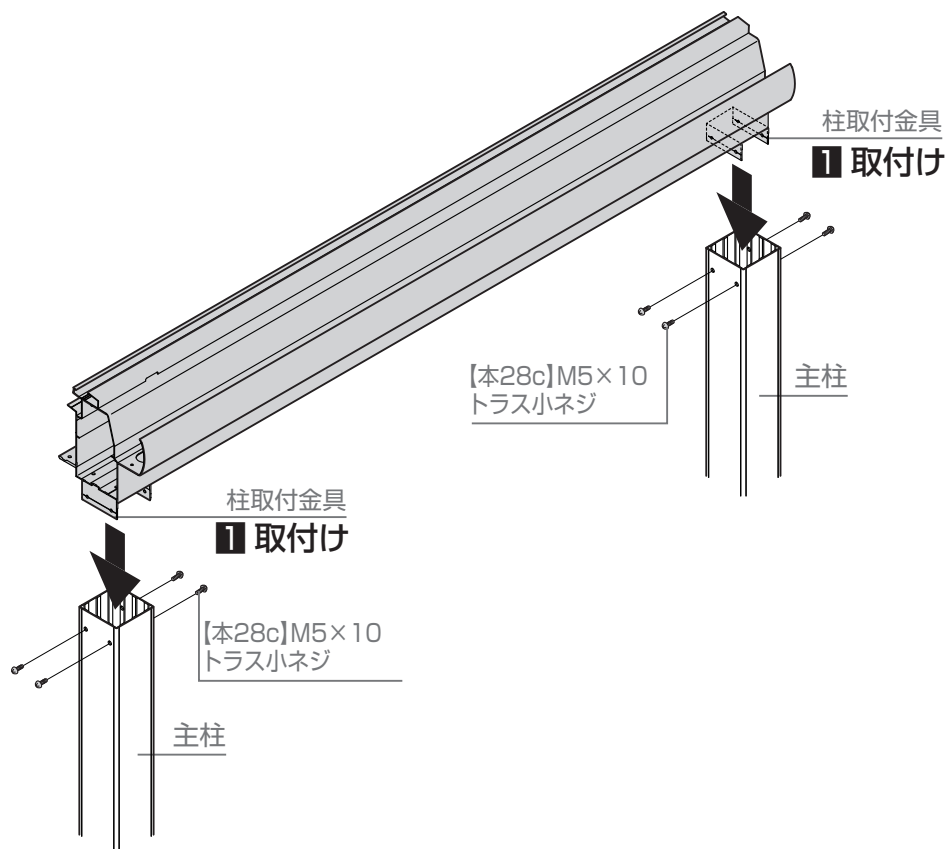
躯体
出幅違い

P.66

6-8-1 基本の取付け(基本、片入隅、躯体出幅違い、部分入隅)

1. 桁の取付け

1: 桁の柱取付金具を主柱に【本28c】で取付け



6-8 桁の取付け

つづき

6-8-2 連棟の取付け

1. 桁の取付け

- ❶: 基本用桁を主柱、中間柱に【本28c】または【本29c】で取付け
- ❷: 連棟用桁を連結用スリーブに挿入しながら主柱に取付け
- ❸: 連棟用桁を連結用スリーブに【本28c】または【本29c】で取付け

補足

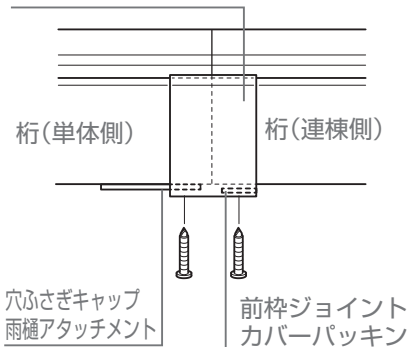
- 単体側を外観左として、外観右側へ連棟を連結していきます。

- ❹: 前枠ジョイントカバーパッキンと桁ジョイントカバーを、桁に【本29d】で取付け

お願い

- ジョイントカバーパッキンは、穴ふさぎキャップ、雨樋アタッチメントがない側に貼付けてください。

前枠ジョイントカバー

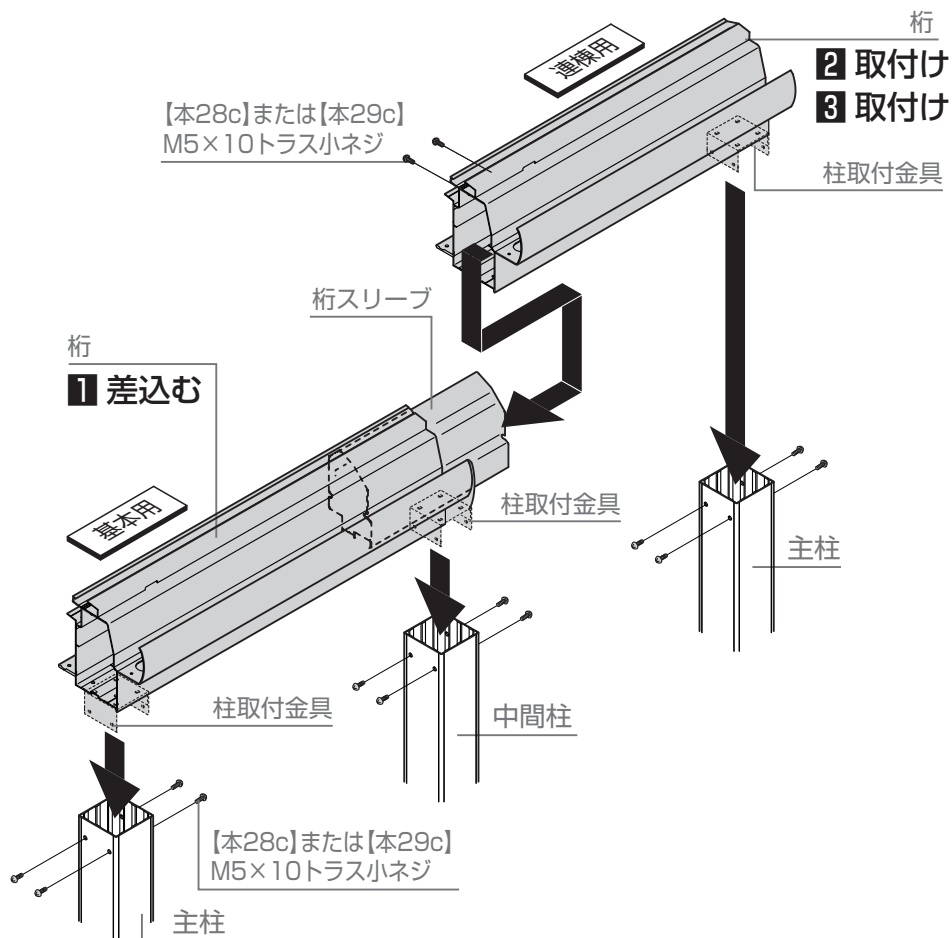
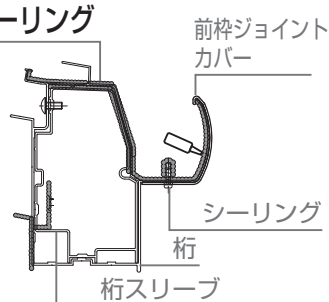


- ❺: 桁にシーリングを塗布

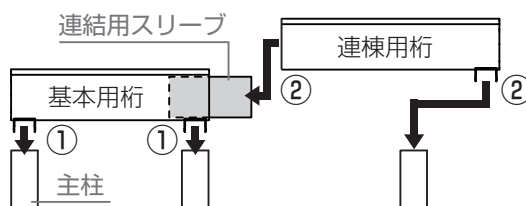
お願い

- ネジまわり2カ所にシーリングをしてください。

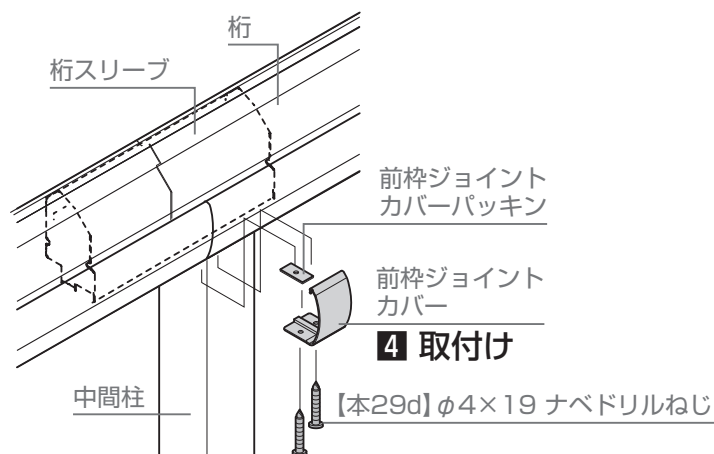
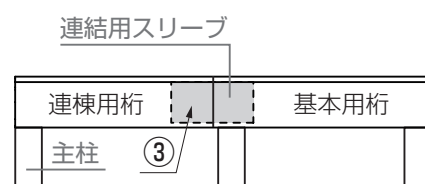
5 シーリング



▼外観視▼



▼内観視▼



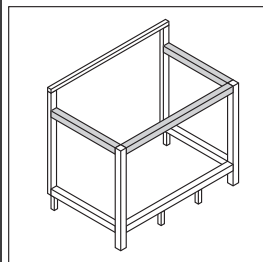
4 取付け

【本29d】φ4×19 ナベドリルねじ

6 本体の施工

6-9 妻梁の取付け

つづき



連棟

P.68

ガーデン
ルームプラス

P.69

片入隅

P.68

躯体
出幅違い

P.68

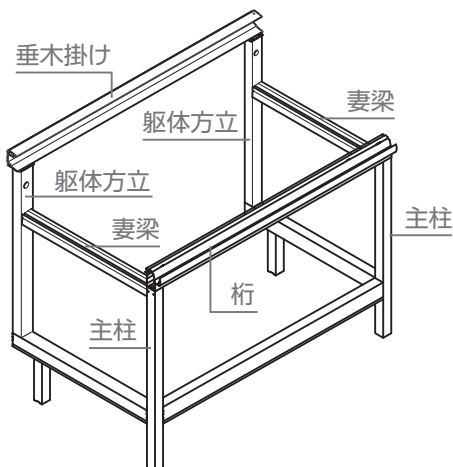
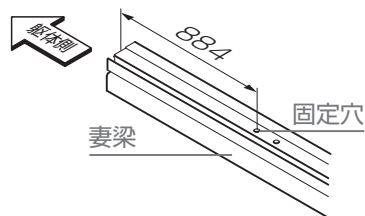
部分
入隅

P.68

6-9-1 妻梁の取付け

補足

- 9尺用の妻梁にはL/Rがあります。端部より884mmの穴加工側を躯体側にしてください。

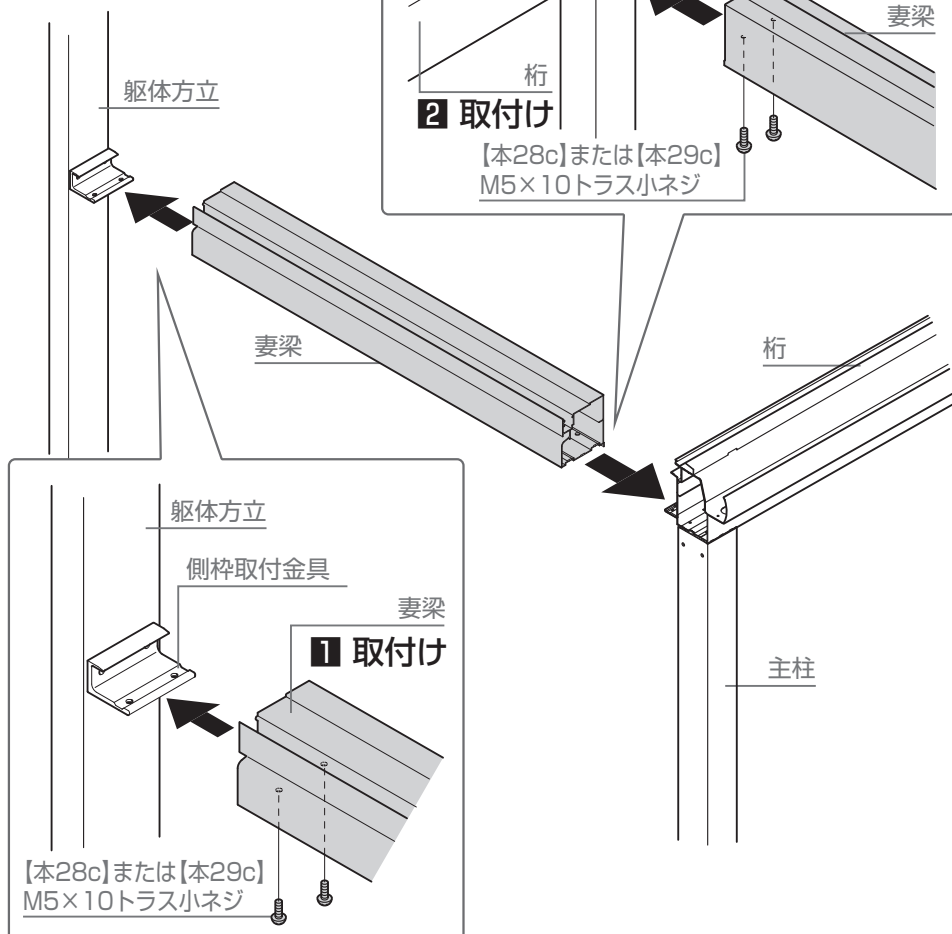
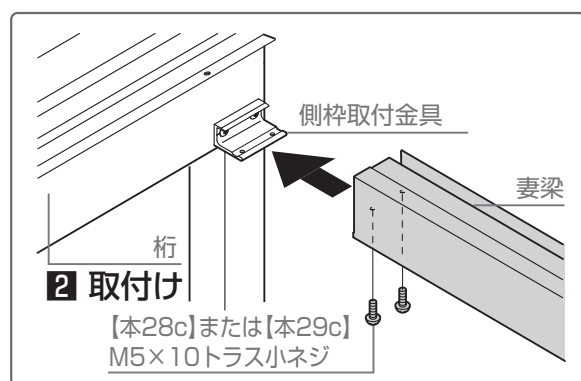
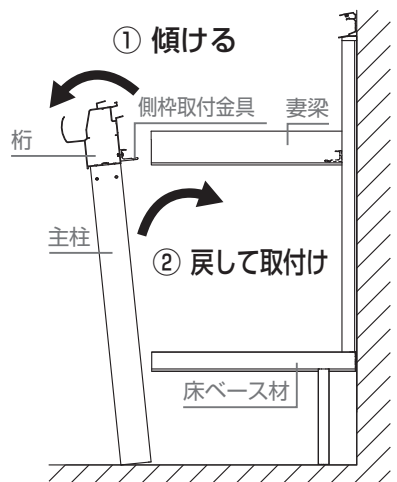


- 1: 妻梁を躯体方立側の側枠取付金具に【本28c】または【本29c】で取付け

- 2: 妻梁を桁側の側枠取付金具に【本28c】または【本29c】で取付け

補足

- 組立てた柱と桁を傾けて妻梁を取付けてください。



6-9 妻梁の取付け

つづき

6-9-2 ガーデンルームプラスの取付け

つづき

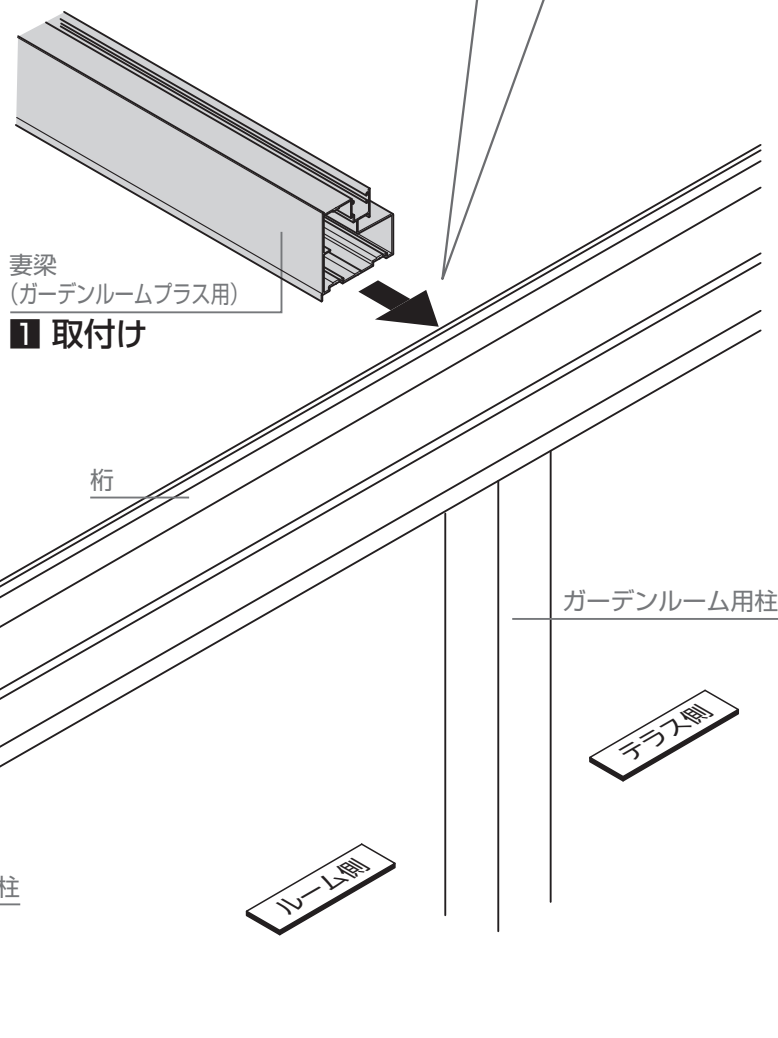
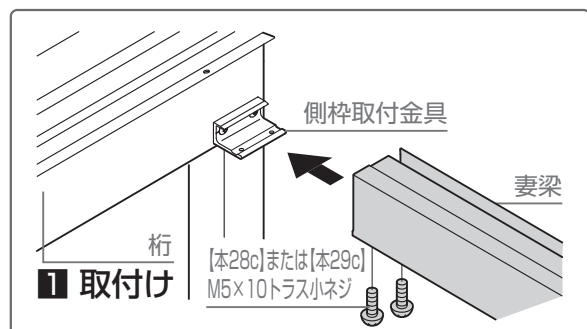
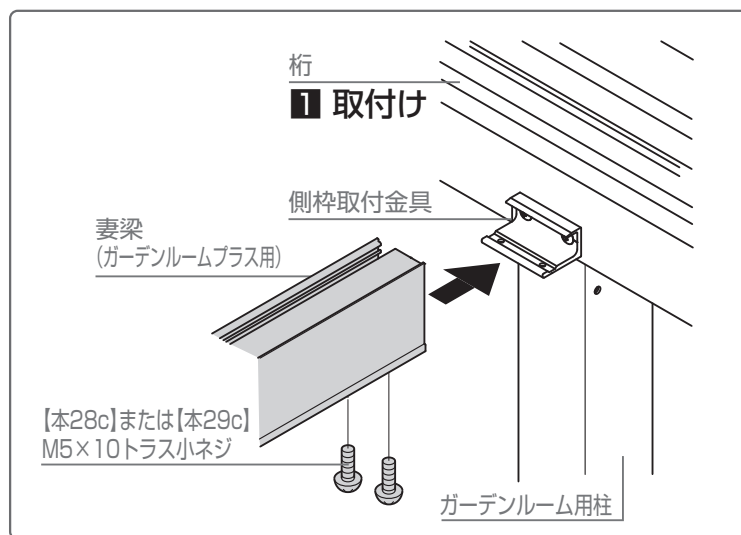
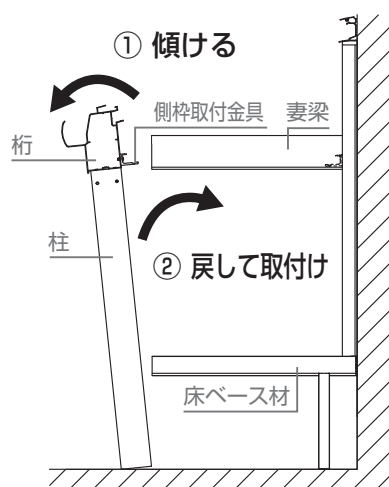
1: 妻梁、妻梁(ガーデンルームプラス用)を桁の側枠取付金具に【本28c】または【本29c】で取付け

 お願い

●テラス側には妻梁の取付けは不要です。

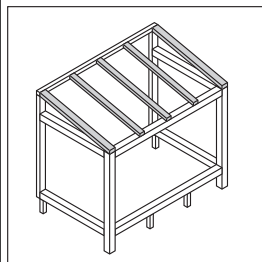
 補 足

●組立てた柱と桁を、図のように妻梁へ取付けてください。



6 本体の施工

6-10 垂木の取付け



連棟

P.71

ガーデン
ルームプラス

P.76

入隅

P.73

部分
入隅

P.74

躯体
出幅違い

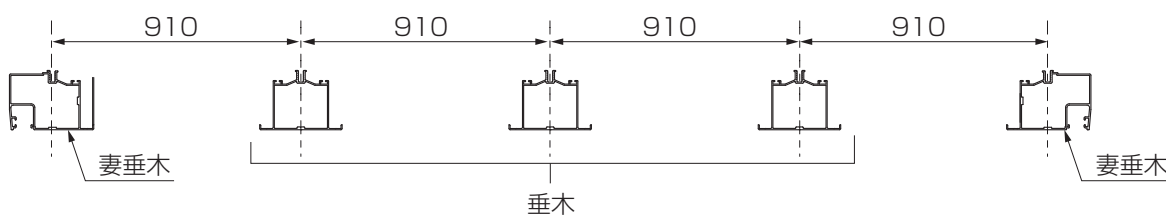
P.75

補足

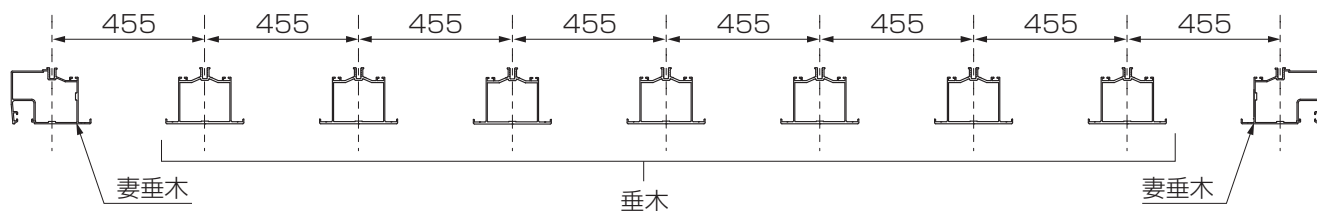
●サブ垂木は、妻垂木または垂木の間に取付けてください。

▼ 600タイプの場合 ▼

・4尺/6尺



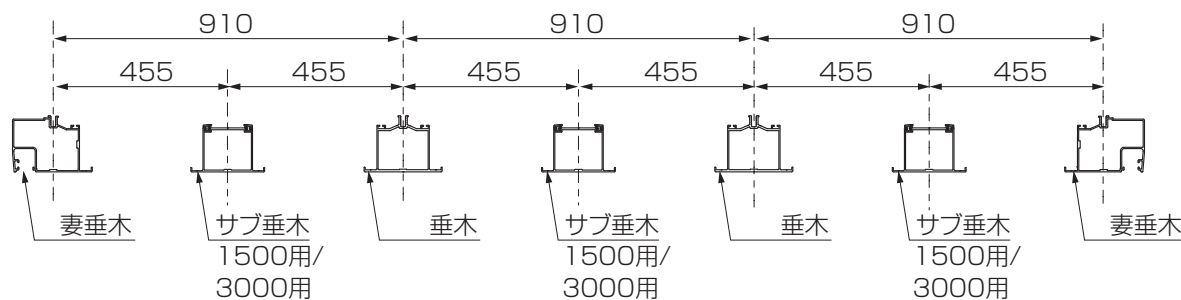
・9尺



▼ 積雪1500N/3000Nの場合 ▼

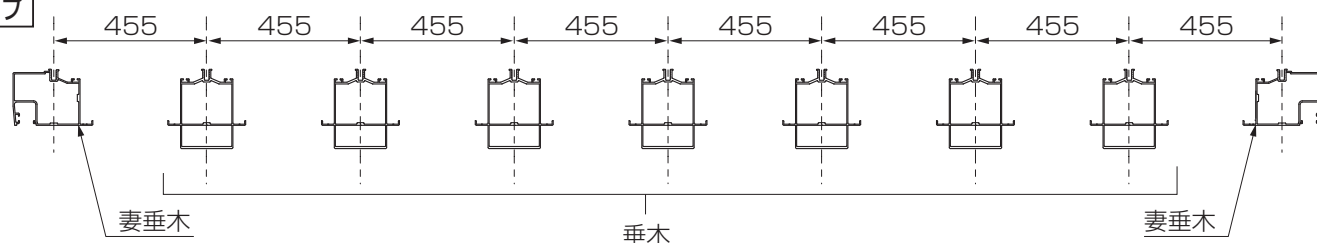
1500/3000タイプ

・4尺/6尺

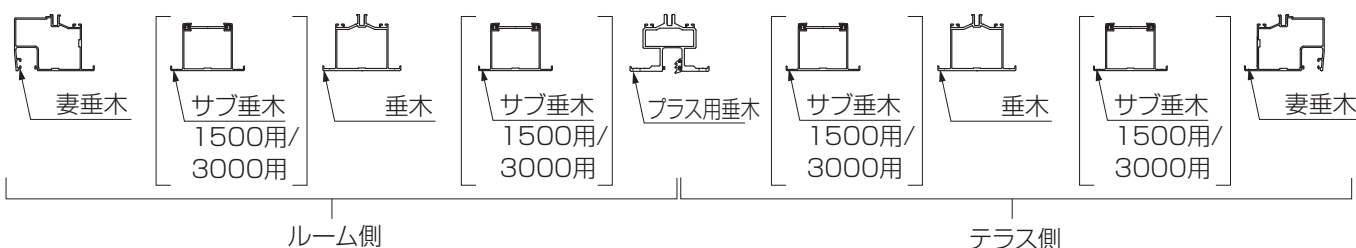


1500タイプ

・9尺



▼ ガーデンルームプラスの場合 ▼



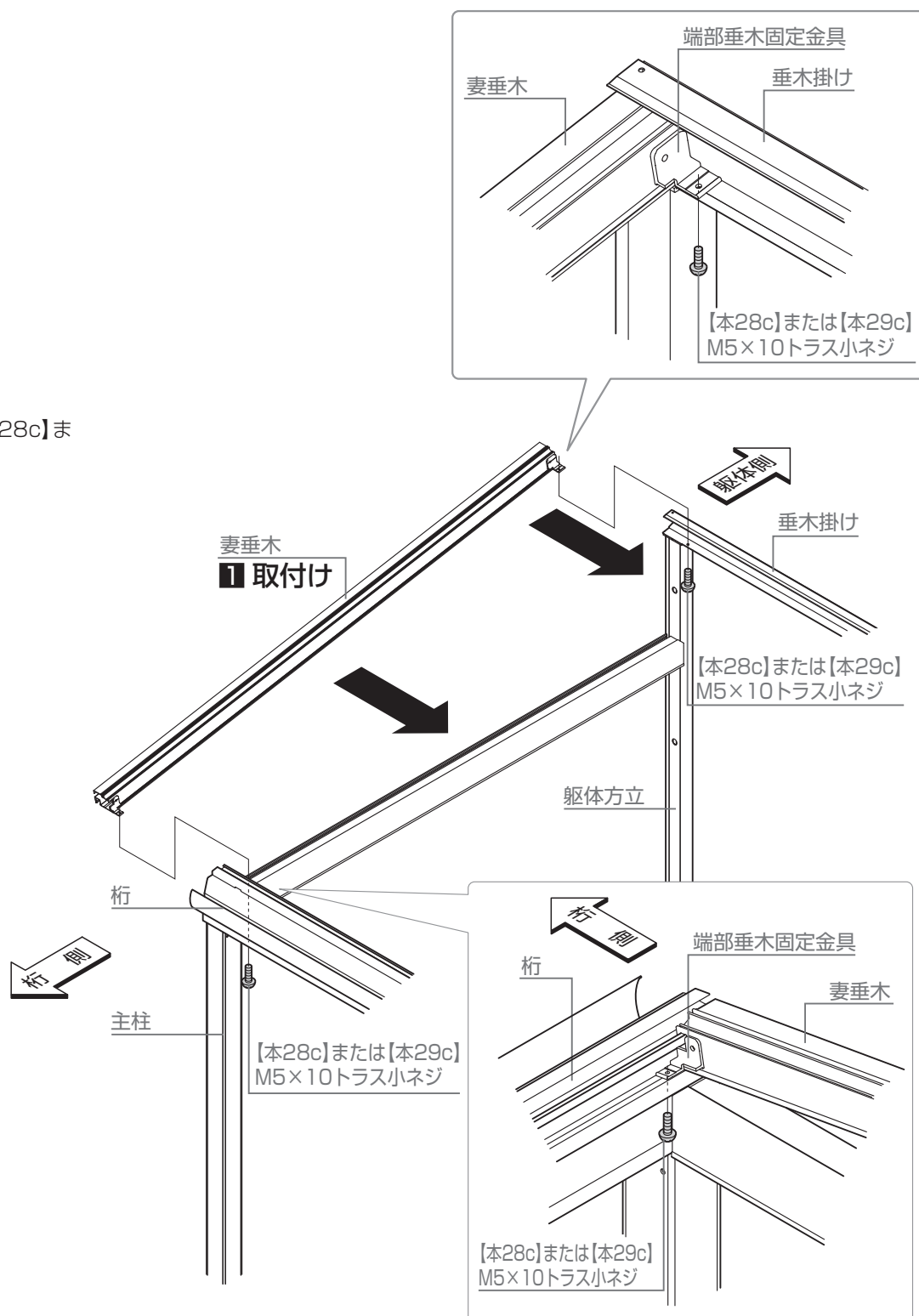
6 本体の施工

6-10 垂木の取付け

6-10-1 基本の取付け

1. 妻垂木

- 1: 妻垂木を垂木掛け・桁に【本28c】または【本29c】で取付け



基本

連棟

入隅

部分入隅

躯体側出幅違

6 本体の施工

6-10 垂木の取付け

6-10-1 基本の取付け

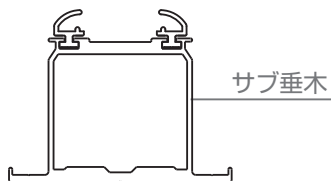
2. 垂木、サブ垂木

1: 垂木を垂木掛け・桁に【本28c】または【本29c】で取付け

お願い

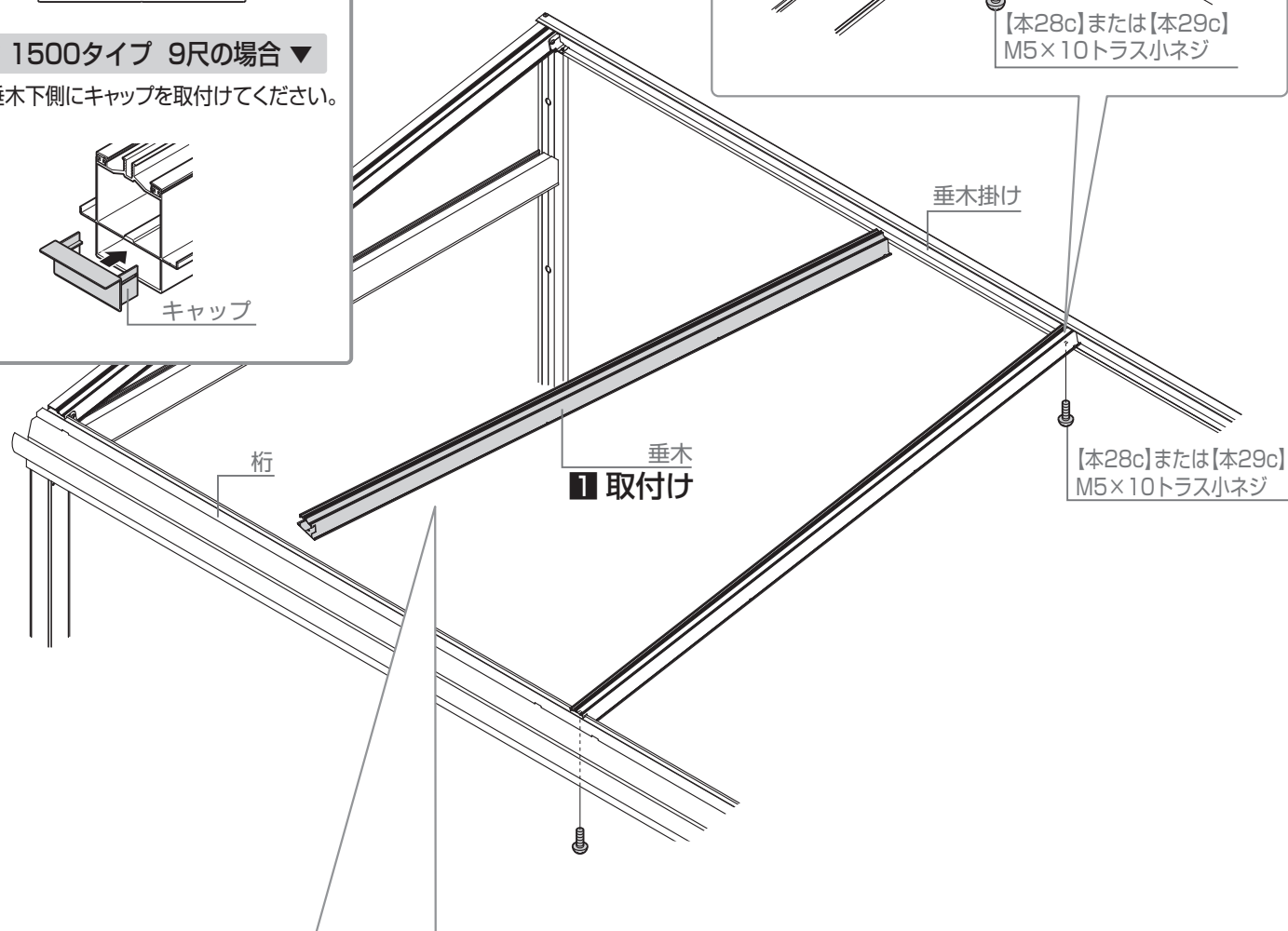
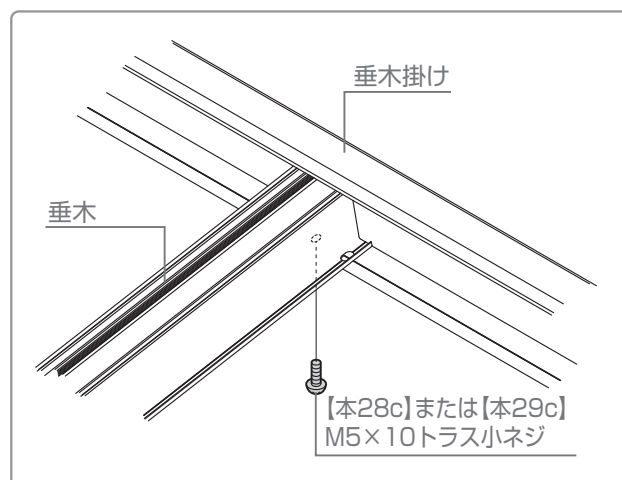
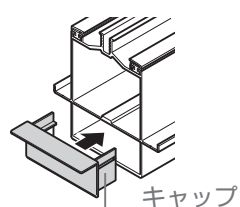
▼ 1500・3000タイプの場合 ▼

- サブ垂木は妻垂木および垂木の間に取付けてください。



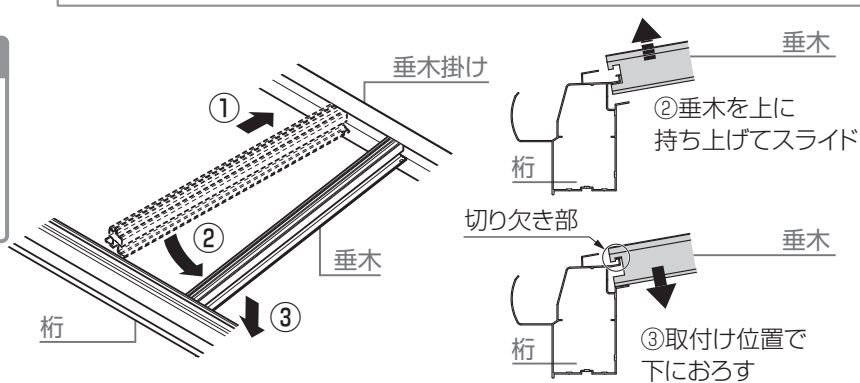
▼ 1500タイプ 9尺の場合 ▼

- 垂木下側にキャップを取付けてください。



お願い

- 垂木を横に動かす場合は、必ず垂木の桁側を持ち上げてください。
- 取付けの際には垂木の切り欠き部を桁に確実に掛けてください。



6 本体の施工

6-10 垂木の取付け

6-10-2 入隅の取付け

1. 妻垂木（入隅側）

💡 お願い

- 施工補助部材 入隅用水切りを取付ける場合、施工補助部材取付説明書(E477)の手順をあわせて確認して施工をおこなってください。

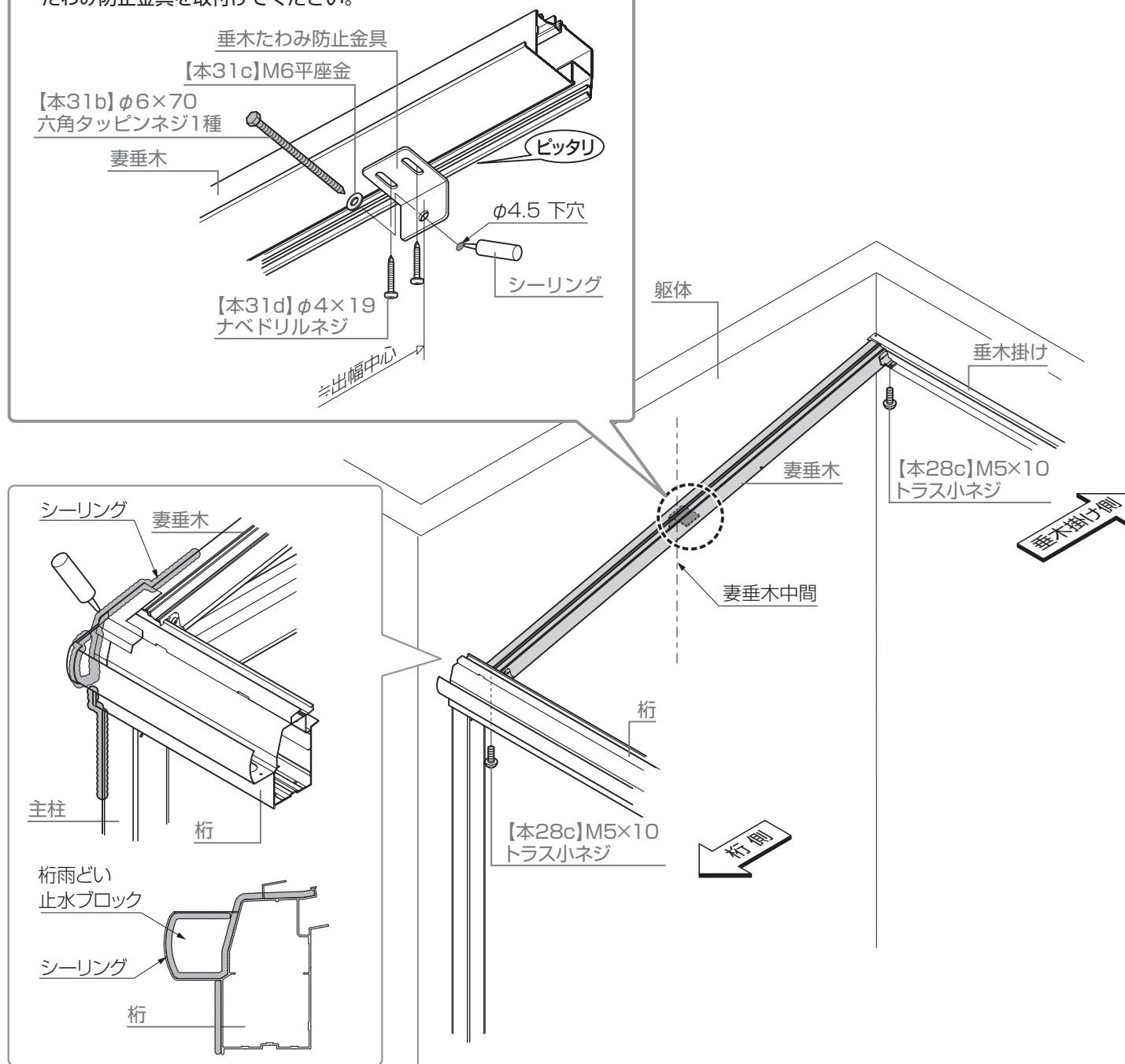
1: 垂木たわみ防止金具を妻垂木と躯体に【本31b】と【本31c】、【本31d】で取付け

💡 お願い

- 垂木たわみ防止金具は、施工補助部材入隅用水切りを使用する場合は取付け不要です。

💡 お願い

- 桁・垂木掛けに妻垂木を取付けた後、躯体構造体のある位置に垂木たわみ防止金具を取付けてください。



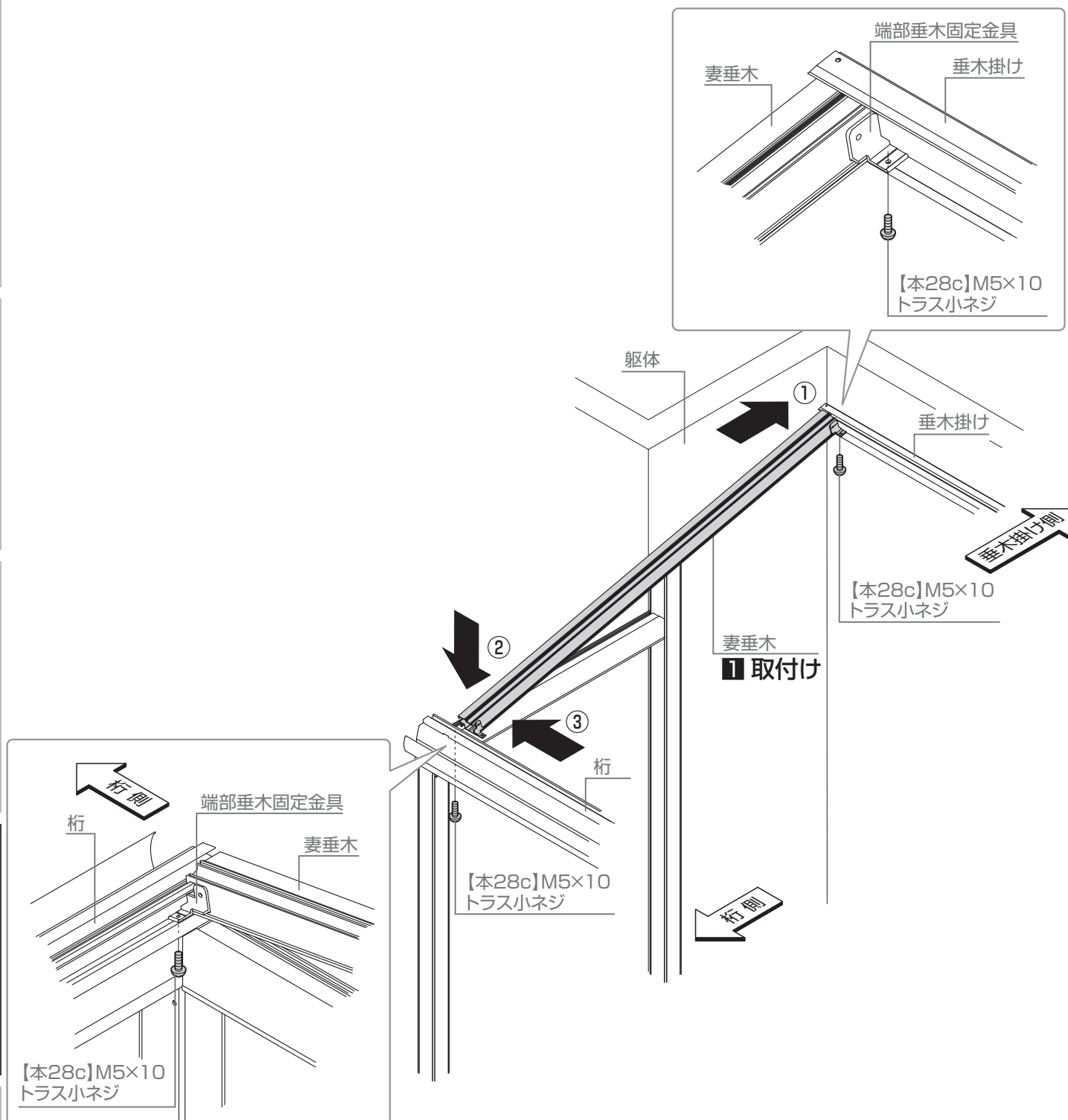
6 本体の施工

6-10 垂木の取付け

6-10-3 部分入隅の取付け

1. 妻垂木 (部分入隅側)

①: 妻垂木 (部分入隅側) を垂木掛け・桁に【本28c】で取付け



2. 妻垂木、垂木

💡 お願い

●妻垂木と垂木を基本の取付けと同じ手順で取付けてください。

6-10 垂木の取付け

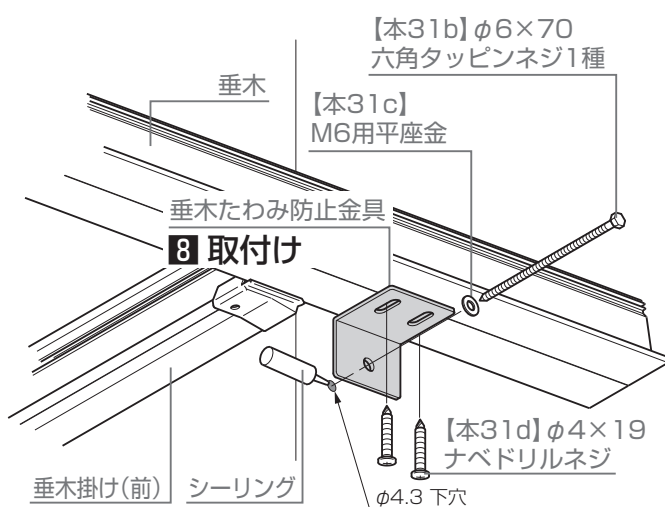
6-10-4 躯体側出幅違いの取付け

1. 垂木 (躯体出幅違い部)

- 1: 垂木(躯体側出幅違い部)側面の室内側にφ25の穴加工
- 2: 垂木(躯体側出幅違い部)側面の躯体側にφ7の穴加工
- 3: 躯体にφ4.5の穴加工
- 4: 垂木を躯体に【本31e】で取付け
- 5: φ25穴にプッシュボタンを取付け
- 6: 垂木掛け(前)の垂木側端部に垂木掛け小口隠しキャップを【31d】で取付け
- 7: 垂木を垂木掛け・桁に【28c】で取付け
- 8: 垂木たわみ防止金具を垂木に【本31b】と【本31c】、【本31d】で取付け

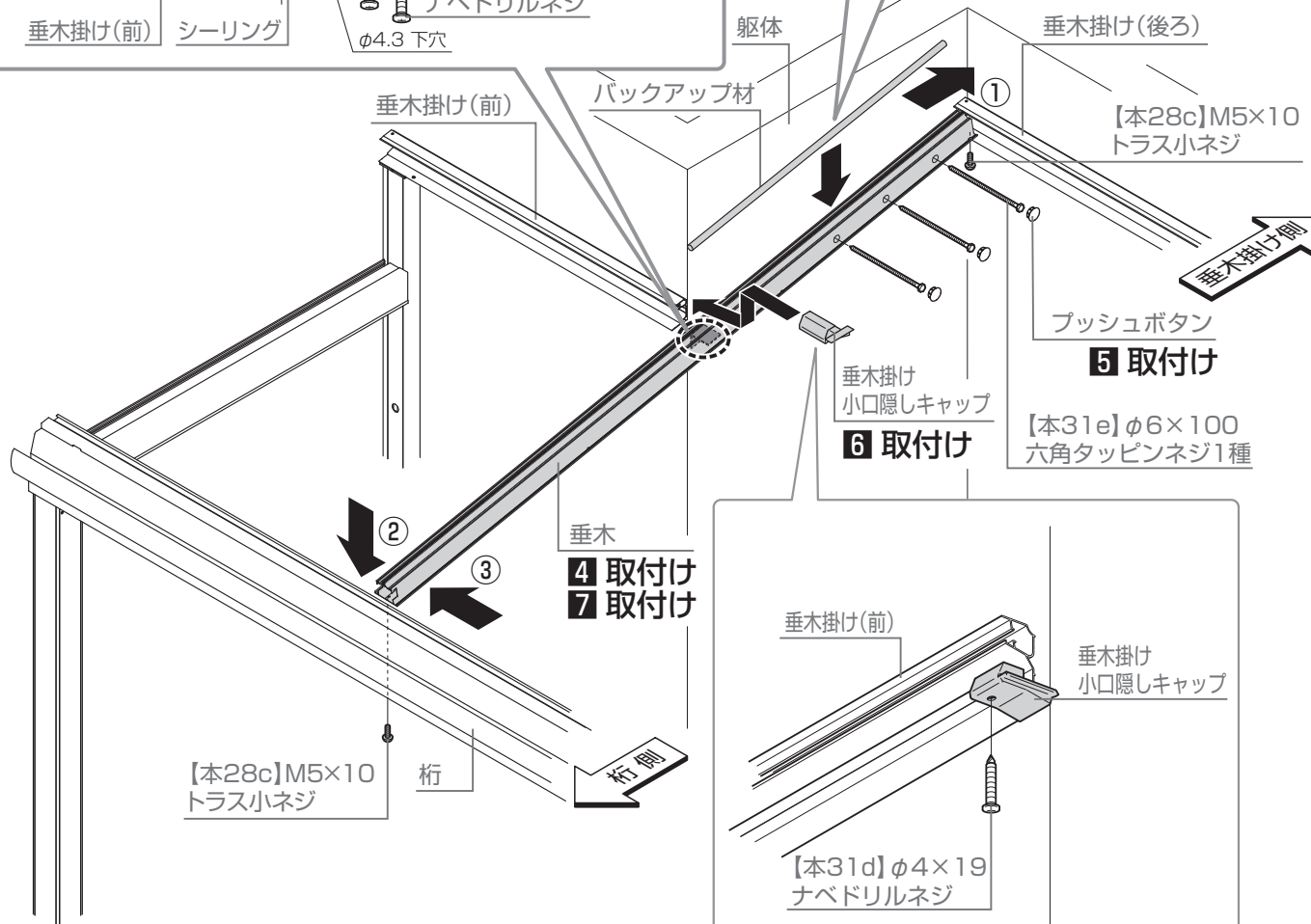
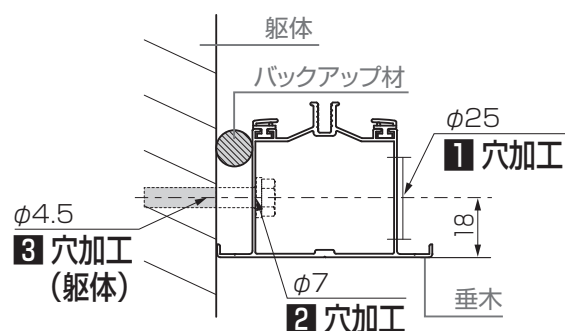
お願い

- 垂木たわみ防止金具は、躯体構造体に取り付けてください。



お願い

- 垂木(躯体側)と躯体接合部にはバックアップ材を挿入してください。



6 本体の施工

6-10 垂木の取付け

6-10-5 ガーデンルームプラスの取付け

1. 垂木 (ガーデンルームプラス用)

1: 5-5で取付けた【本30c】に垂木(ガーデンルームプラス用)をはめ込む

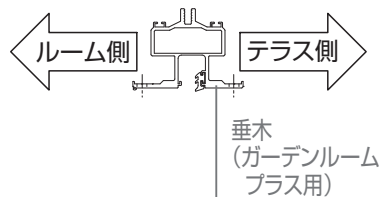
2: 垂木(ガーデンルームプラス用)を垂木掛けに【本30b】【本30d】で取付け

お願い

- Oaは、桁および垂木掛けのルーム側に追加工したφ4.5穴に取付けてください。

お願い

- 垂木(ガーデンルームプラス用)には向きがあります。必ず図の向きで取付けてください。



お願い 1

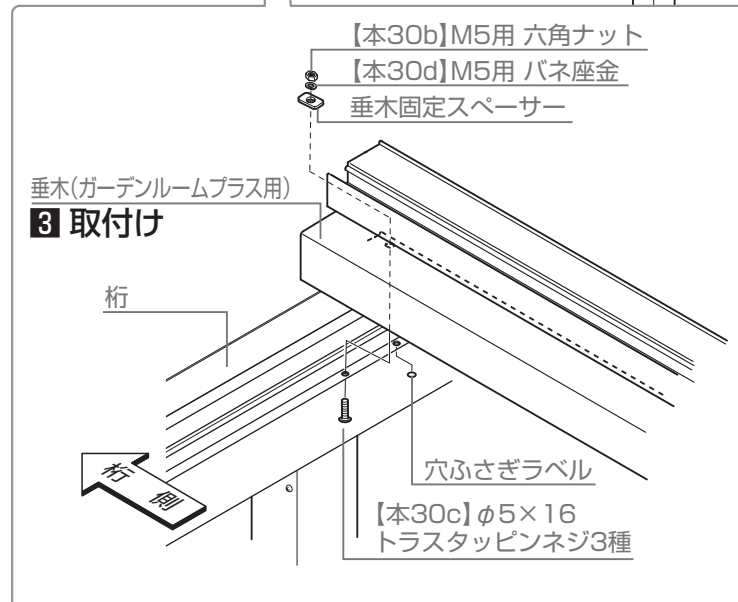
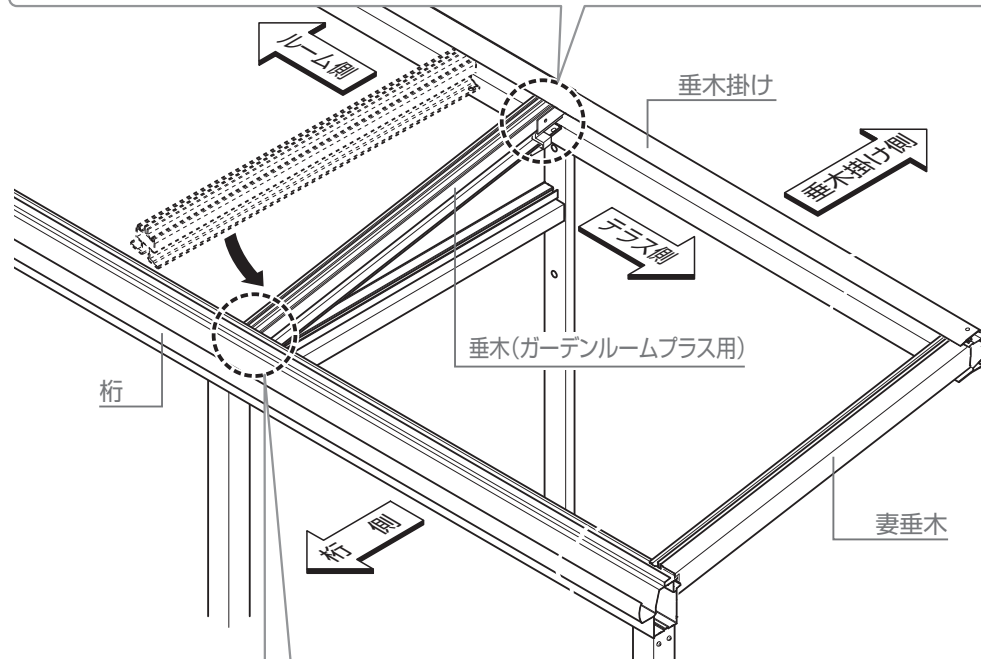
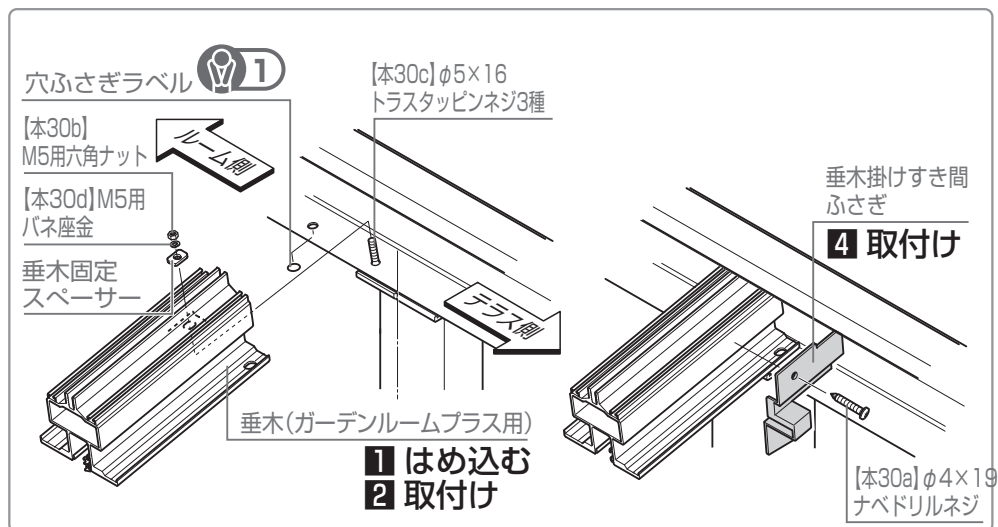
- 使用しない穴に穴ふさぎシールを貼ってください。

3: 垂木(ガーデンルームプラス用)を桁に【本30b】、【本30c】、【本30d】で取付け

4: 垂木掛けすき間ふさぎを垂木(ガーデンルームプラス用)に【本30a】で取付け

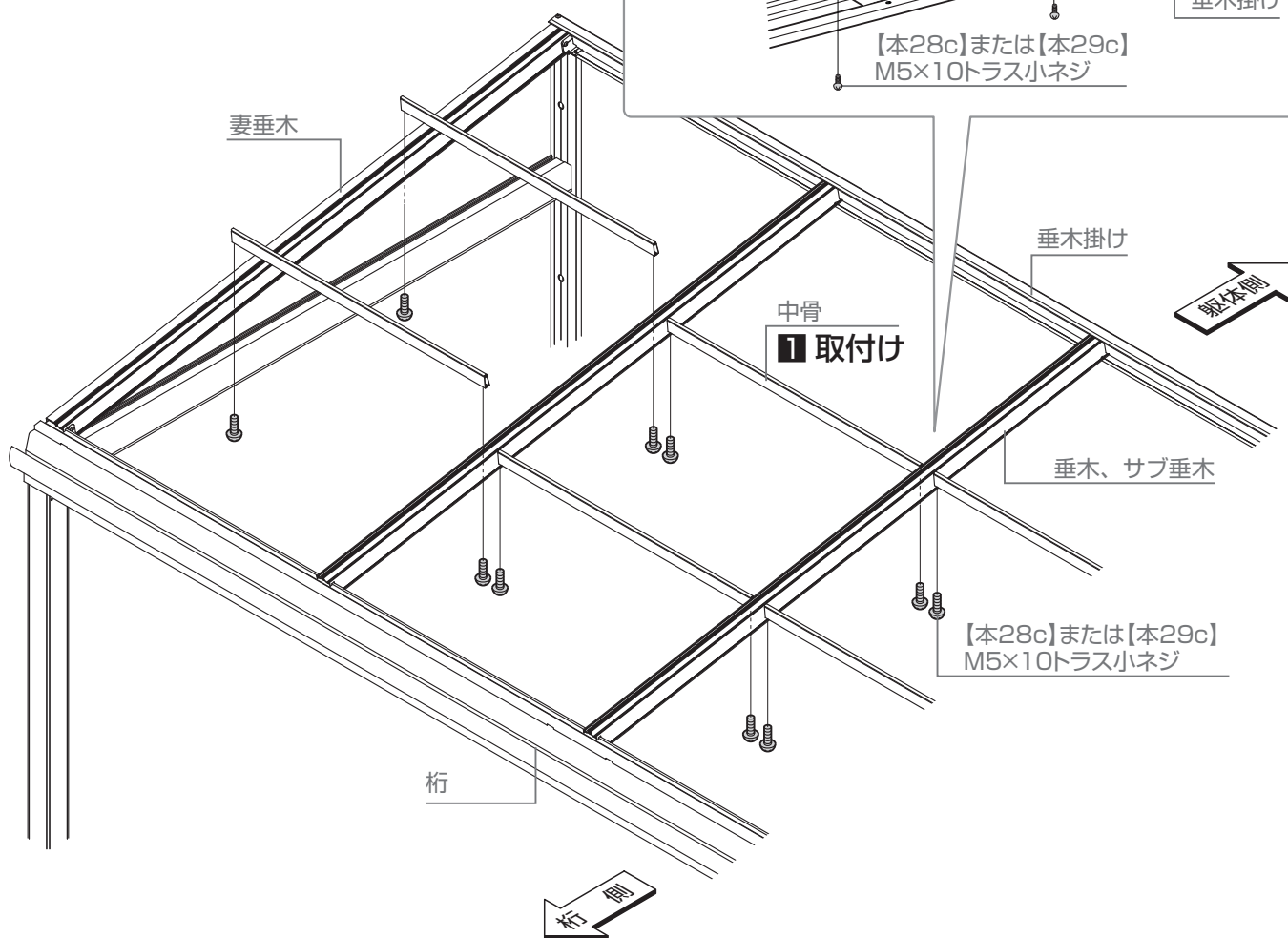
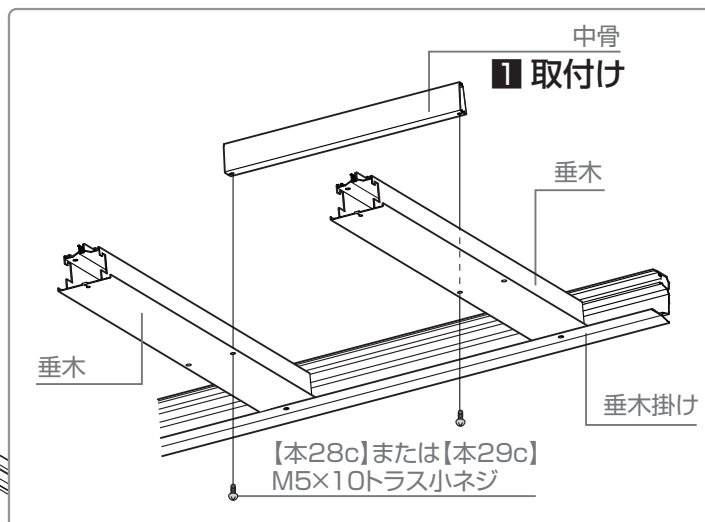
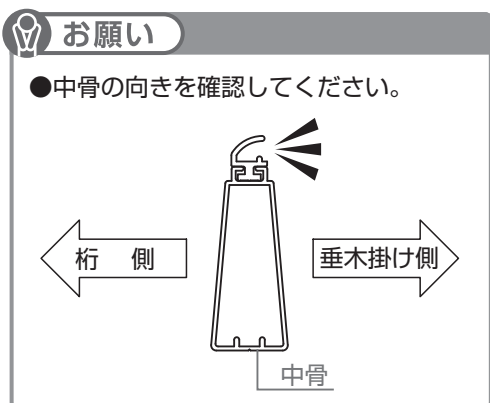
お願い

- 垂木掛け隙間ふさぎ材はテラス側に取付けてください。
- 使用しない穴に穴ふさぎシールを貼り付けてください。



6-11 中骨の取付け

1: 中骨を妻垂木・垂木に【本28c】または【本29c】で取付け



6 本体の施工

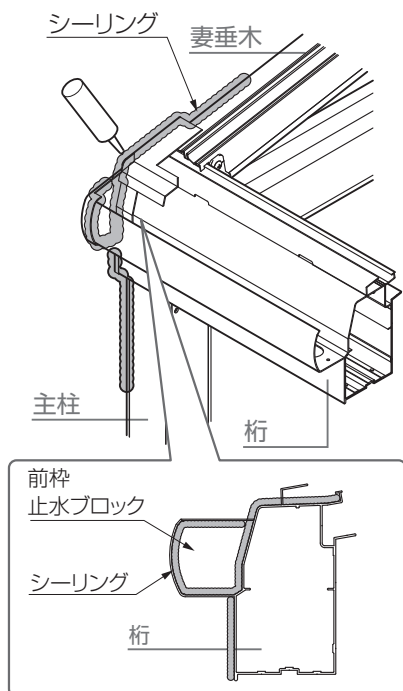
6-12 シーリング

お願い

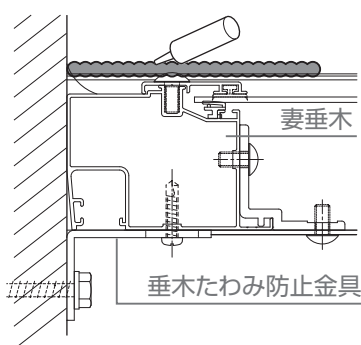
- 入隅、部分入隅、躯体側出幅違いは、屋根材取付け後にシーリングしにくい場合があります。
- 以下の場所へのシーリングを適切なタイミングで行なってください。

▼ 入隅の場合▼

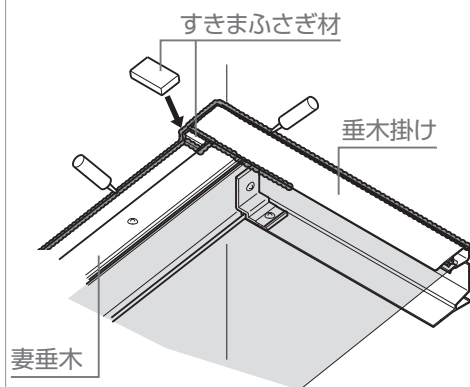
●桁端部



●妻垂木

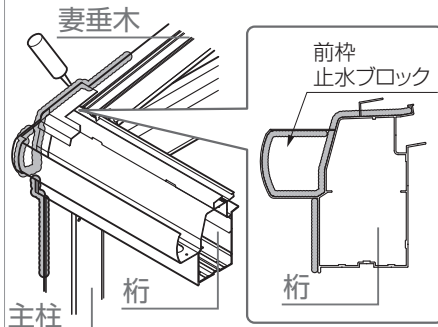


●垂木掛け

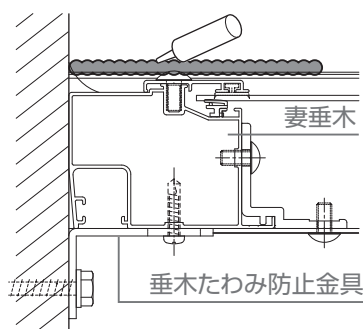


▼ 部分入隅の場合▼

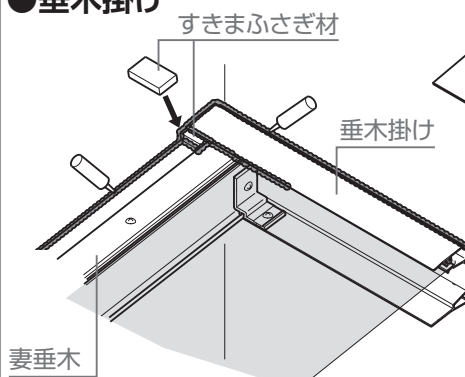
●桁端部



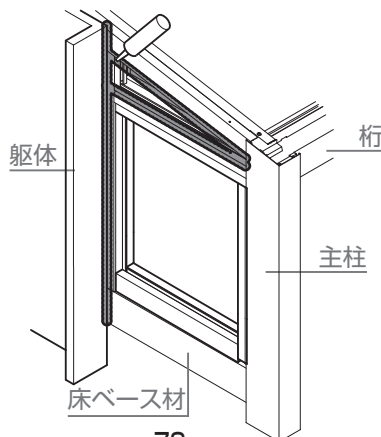
●妻垂木



●垂木掛け

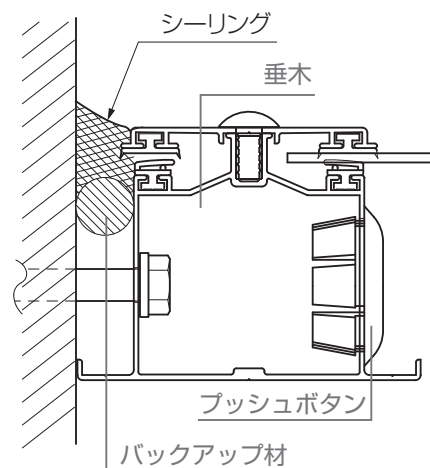


●柱・外壁接合部(部分入隅部)



▼ 躯体出幅違いの場合▼

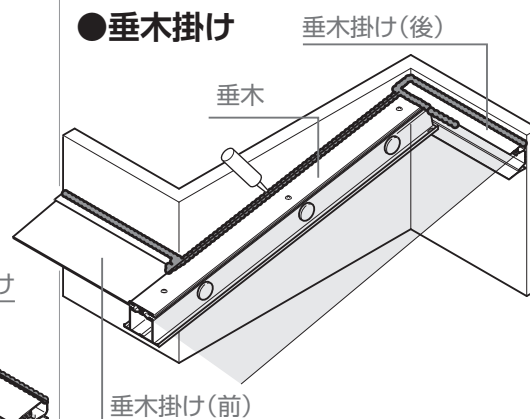
●垂木



お願い

- 垂木と外壁接合部にはバックアップ材を挿入し、その上にシーリングを行なってください。

●垂木掛け



お願い

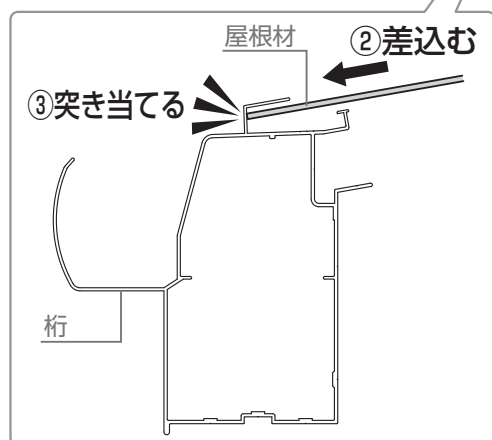
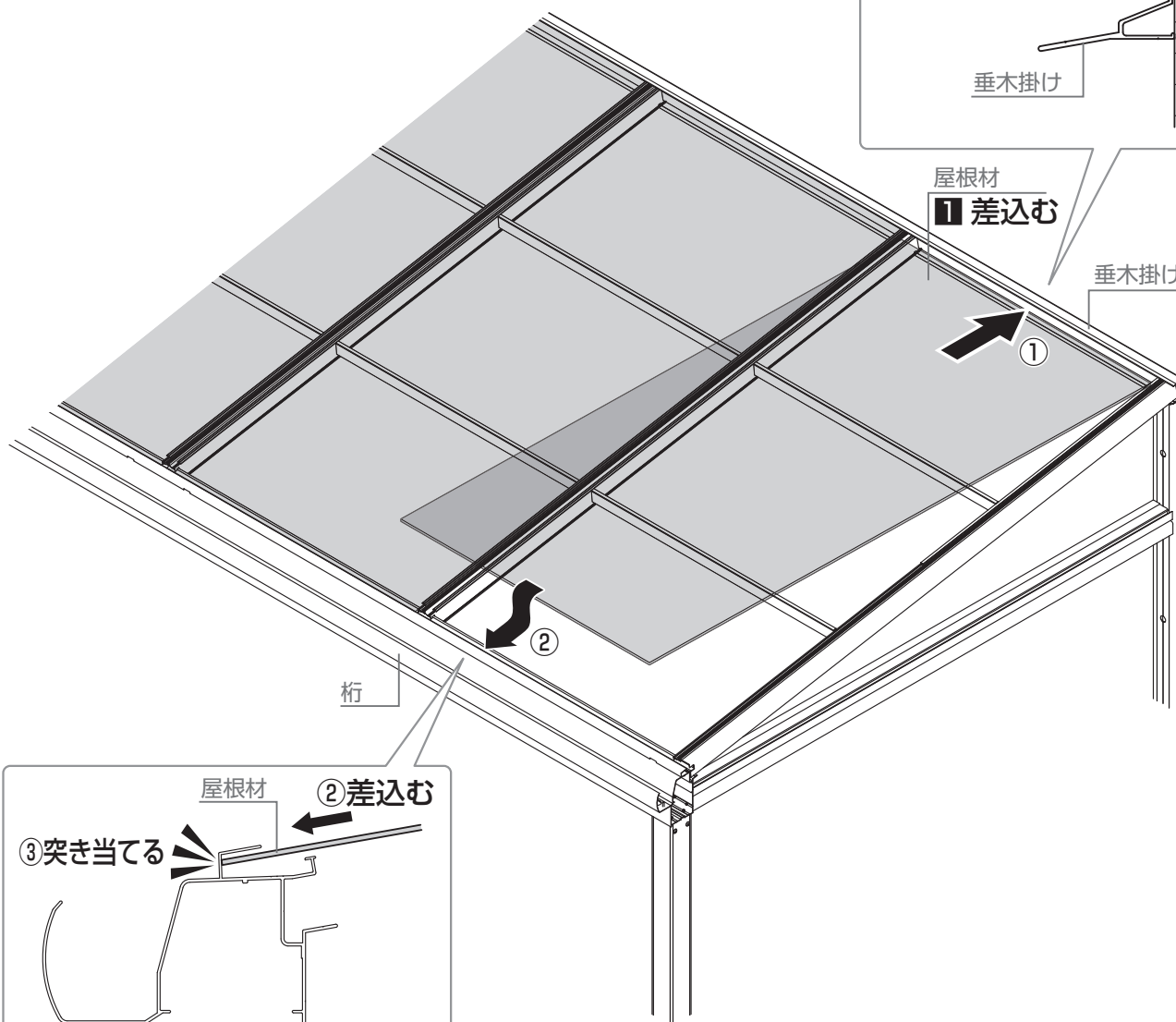
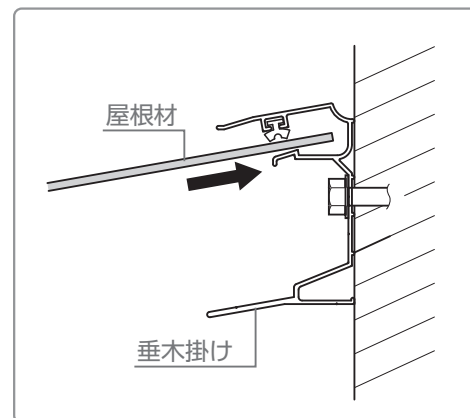
- シーリング仕上げ上面は、垂木カバー上面と合わせてください。

6-13 屋根材の取付け

1: 屋根材を垂木掛け・桁に差込む

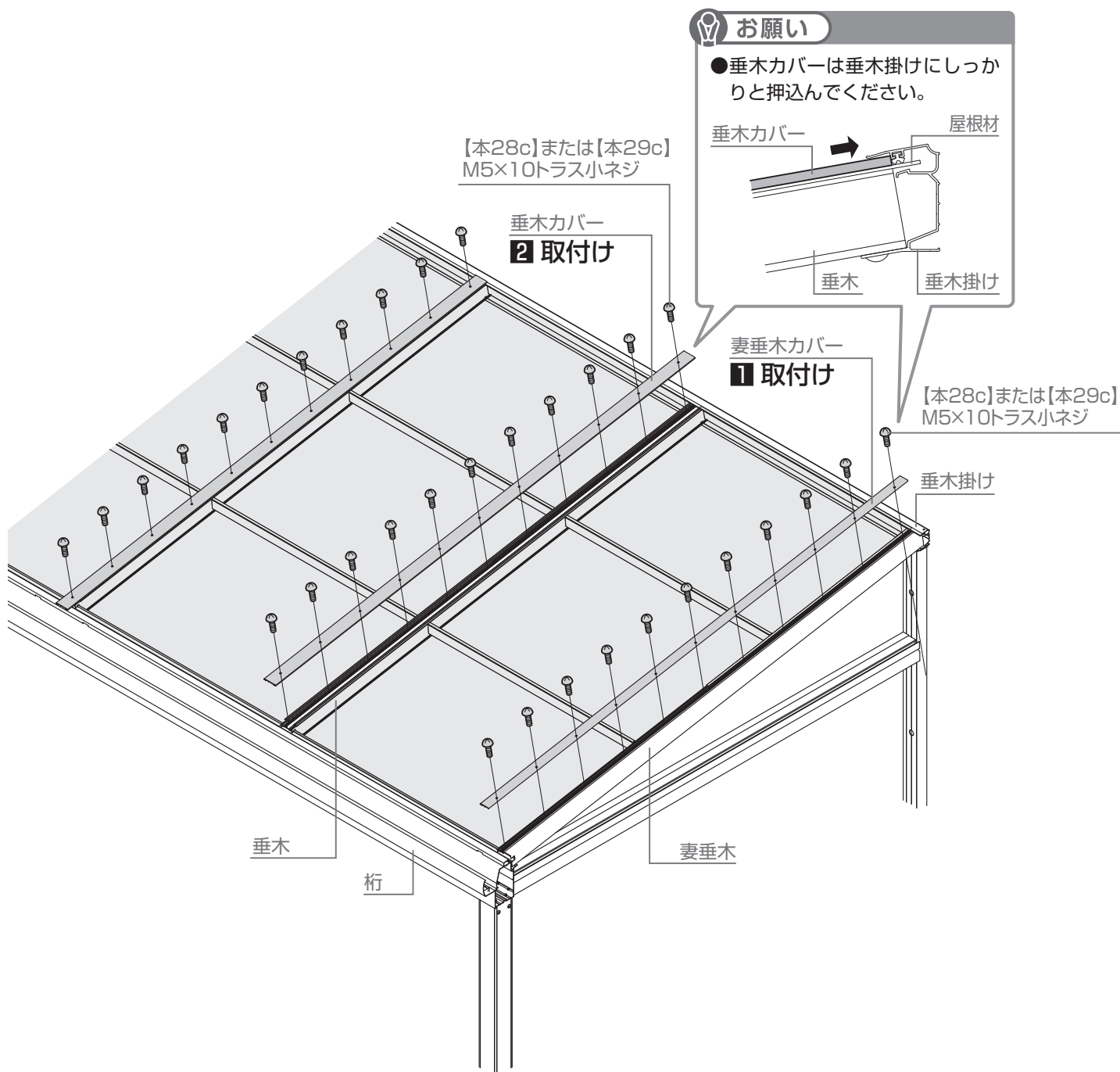
お願い

- 屋根材端面の養生シートをある程度はがしてください。
- 屋根材は表裏を確認して取付けてください。
- 屋根材は桁側に突き当ててください。
- 屋根材の左右ののみ込み(かかり代)を均等にしてください。
- 養生シートは施工終了後、必ずはがしてください。



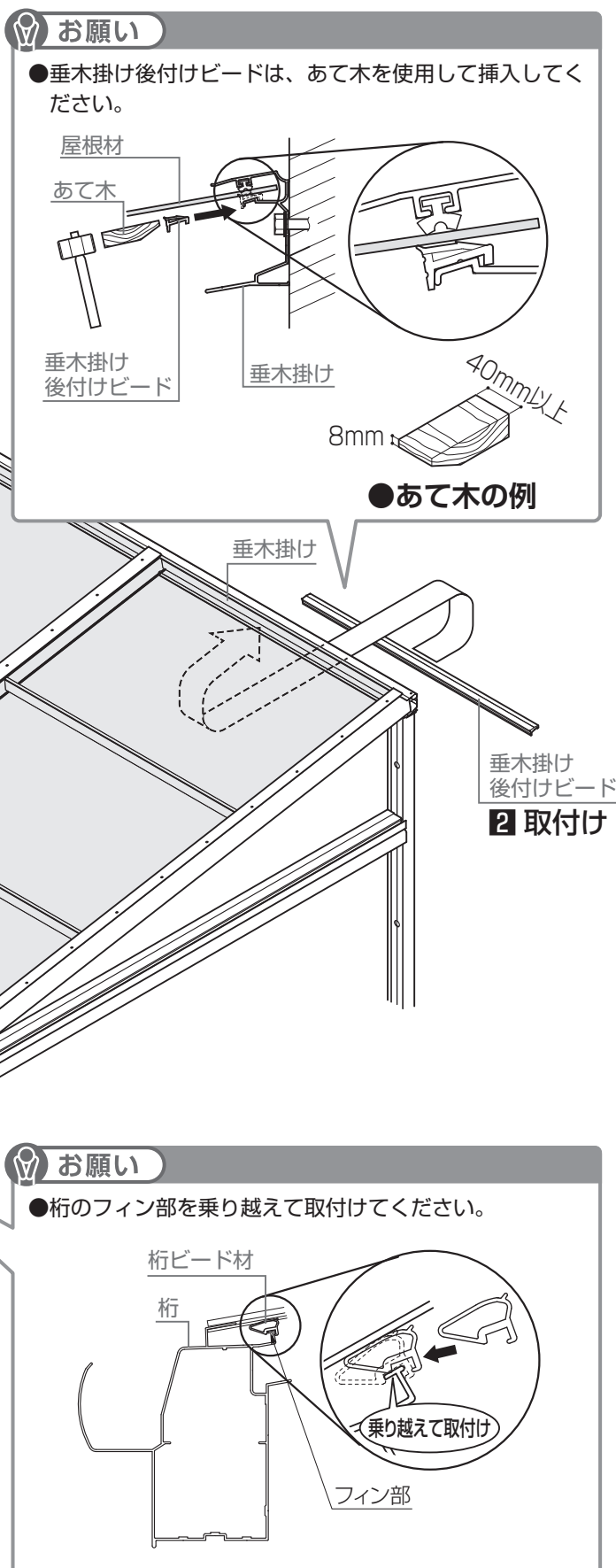
6-14 垂木カバーの取付け

- ①: 妻垂木カバーを妻垂木に【本28c】または【本29c】で取付け
 ②: 垂木カバーを垂木に【本28c】または【本29c】で取付け



6-15 ビード材の取付け

- 1: 桁ビード材を取付け
2: 垂木掛け後付けビードを取付け

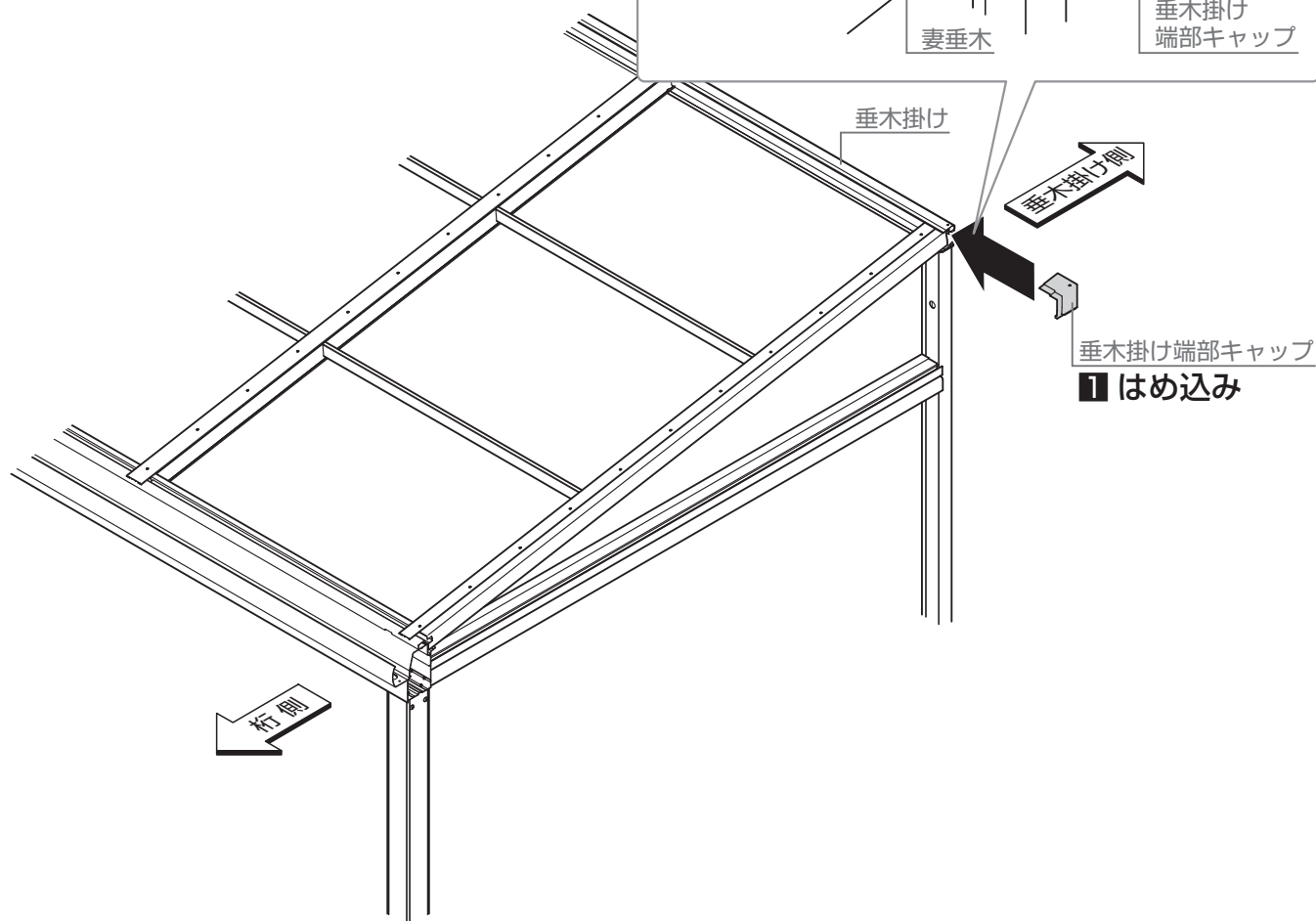
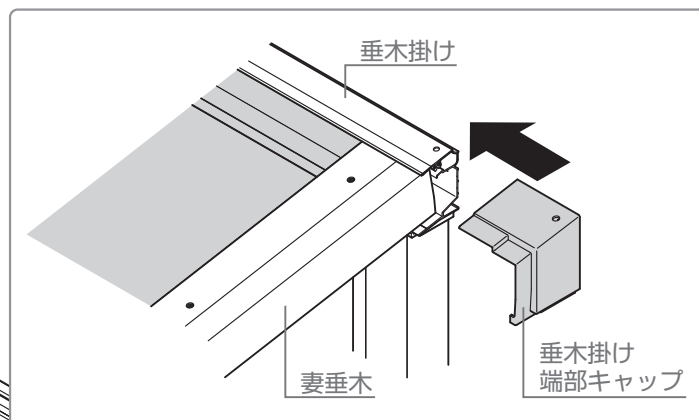


6-16 垂木掛け端部キャップの取付け

1: 垂木掛け端部キャップのツメを垂木掛けにはめ込み

 お願い

- ネジ止めは妻垂木化粧材取付け後に行います。ここでは行わないでください。



6 本体の施工

6-17 桁キャップ(ランマブロック付)の取付け

1: 桁にシーリングを塗布

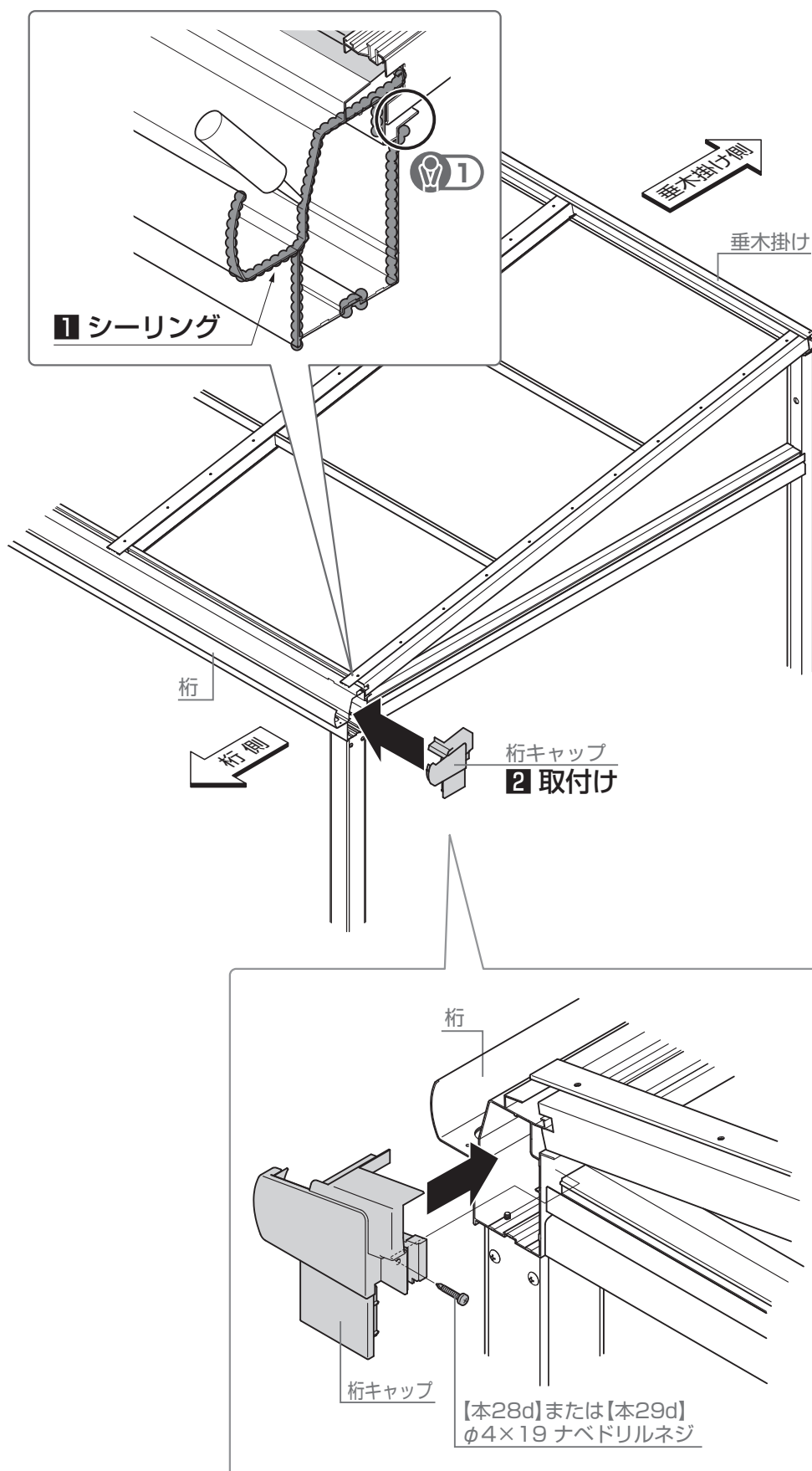
お願い 1

- シーリングを中まで入れないでください。

2: 桁キャップを桁に【本28d】または【本29d】で取付け

補足

- 桁キャップ取付後、必要に応じて桁との接合部にシーリングを追加塗布してください。



6 本体の施工

6-18 ランマの取付け

つづき

6-18-1 基本の取付け

つづき

2. ランマ方立の取付け(出幅6尺を超える出幅の場合)

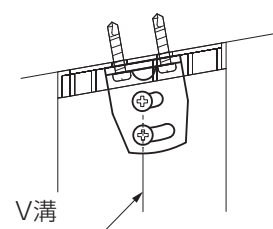
1: 方立固定金具を妻垂木に【本28d】または【本29d】で取付け

2: 方立固定金具を妻梁に【本28d】または【本29d】で取付け

3: ランマ方立を妻垂木と妻梁の方立固定金具に【本28d】または【本29d】で取付け

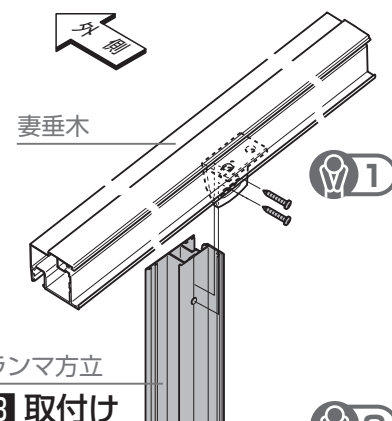
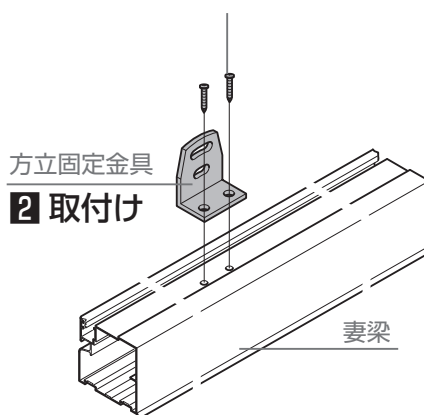
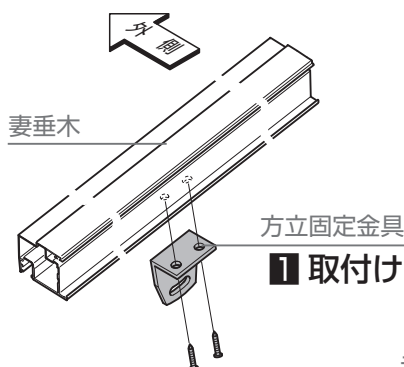
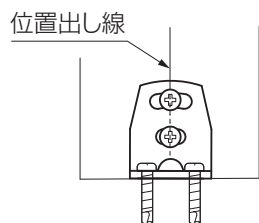
お願い 1

●V溝に合わせて取付けてください。



お願い 2

●位置出し線に合わせて取付けてください。

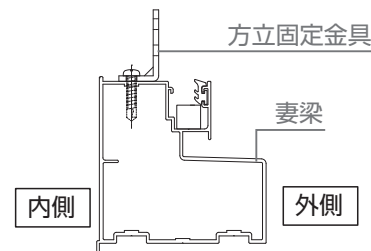
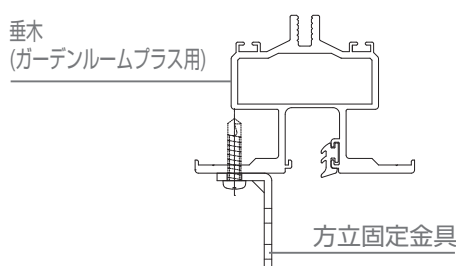


【本28d】または【本29d】
φ4×19ナベドリルネジ

お願い

▼ 9尺用の場合▼

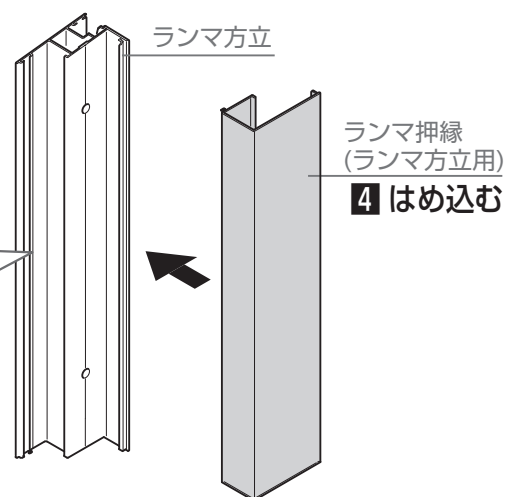
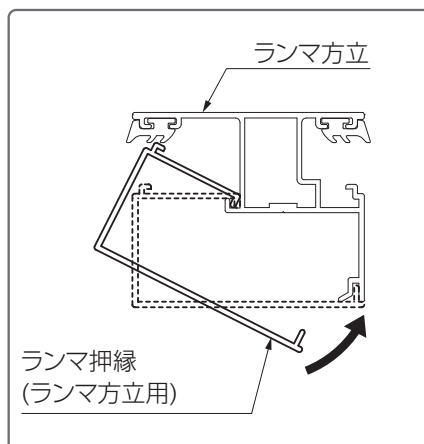
●垂木(ガーデンルームプラス用)と妻梁に、方立固定金具を取り付けてください。



4: ランマ押縁(ランマ方立用)をランマ方立にはめ込む

お願い

- ランマ押縁(ランマ方立用)は、取付けやすくするため、ランマ方立より短い設定になっています。
- ランマ押縁(ランマ方立用)は回転させながら上に押し当てるようにはめ込んでください。



6 本体の施工

6-18 ランマの取付け

つづき

6-18-1 基本の取付け

つづき

3. 妻梁上部FIXパネルの取付け

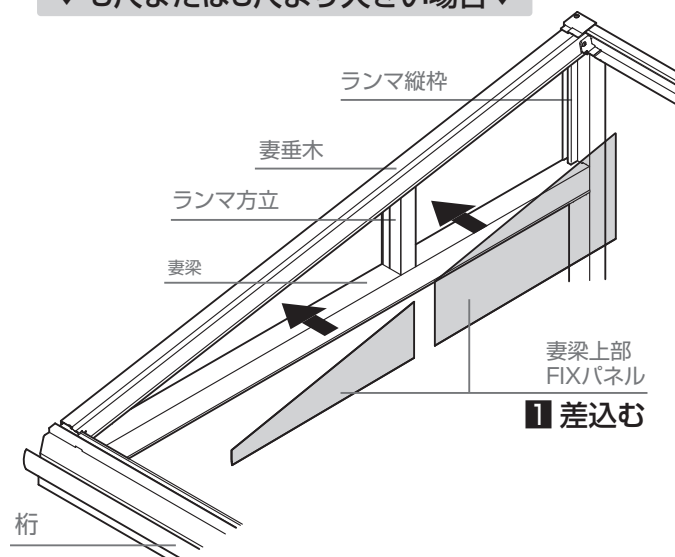
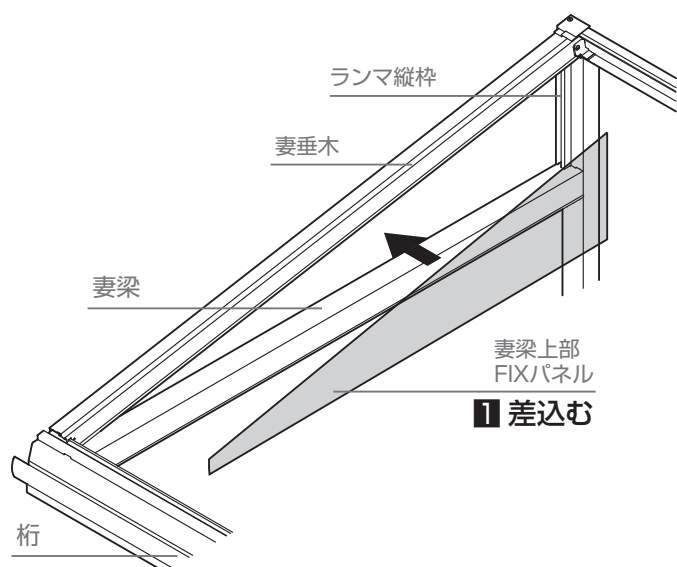


お願い

●妻梁上部FIXパネルには裏表があります。耐候面表示シールがある方を室外側にして取付けてください。

1: 妻梁上部FIXパネルを差込んで取付け

▼ 9尺または6尺より大きい場合▼



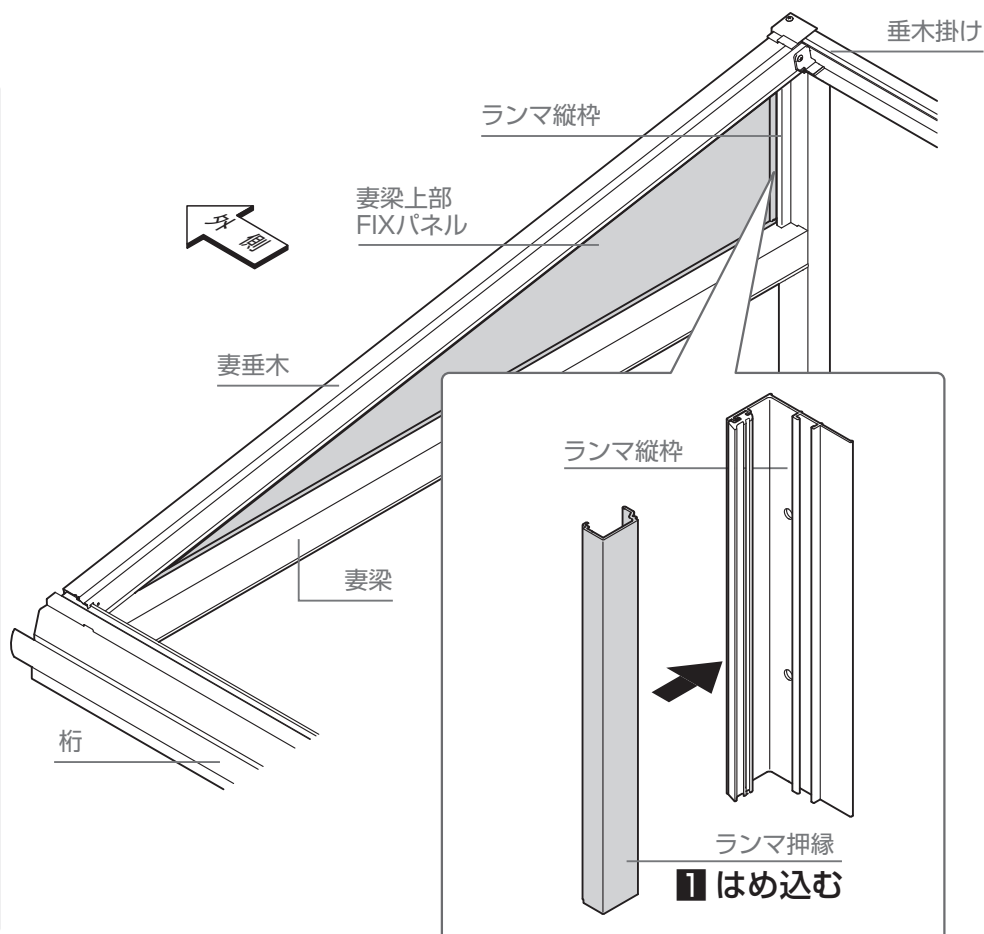
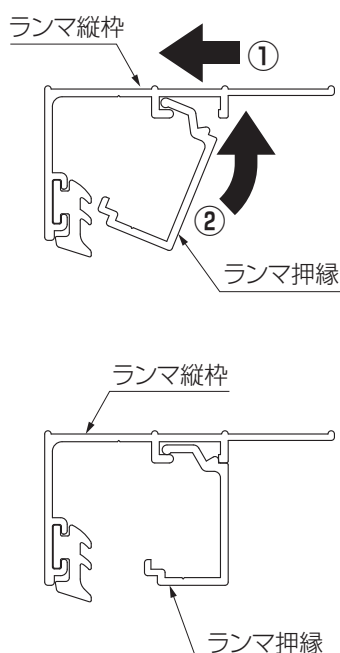
4. 妻梁上部FIX押縁の取付け

1: ランマ押縁をランマ縦枠にはめ込む



補足

●ランマ押縁は図のようにランマ縦枠へはめ込みます。



6-18 ランマの取付け

つづき

6-18-1 基本の取付け

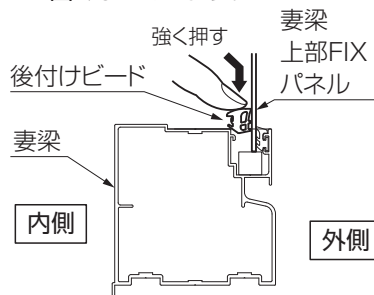
つづき

5. 後付けビードの取付け

①:後付けビードを押し込んで固定

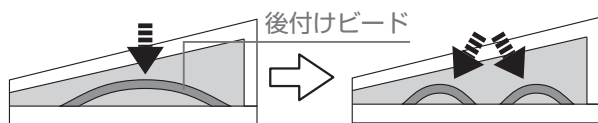
補足

- 妻梁上部FIXパネルの抜け、バタつき防止のため、後付けビードの挿入は固くなっています。



お願い

- 中心部分をたるませた状態で両端部分および中間の1~2箇所を先に押込み、たるみ部分の中心から広げるように押込んでください。

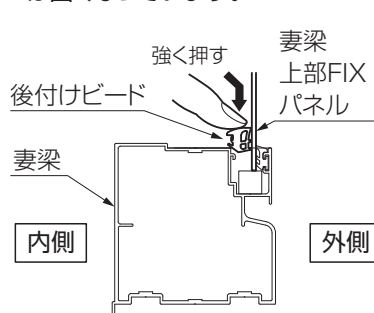


▼ 9尺または6尺より大きい場合▼

①:後付けビードを押し込んで固定

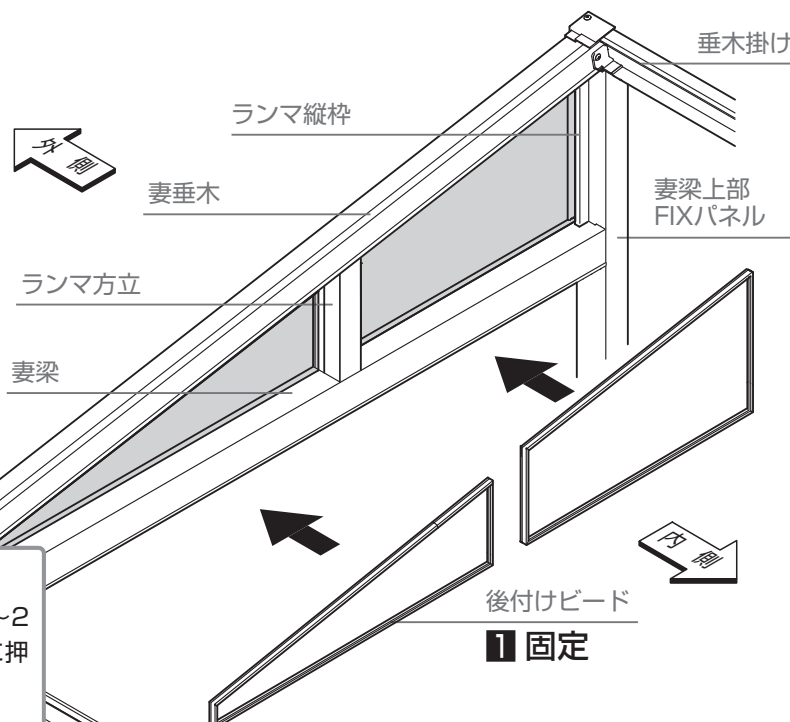
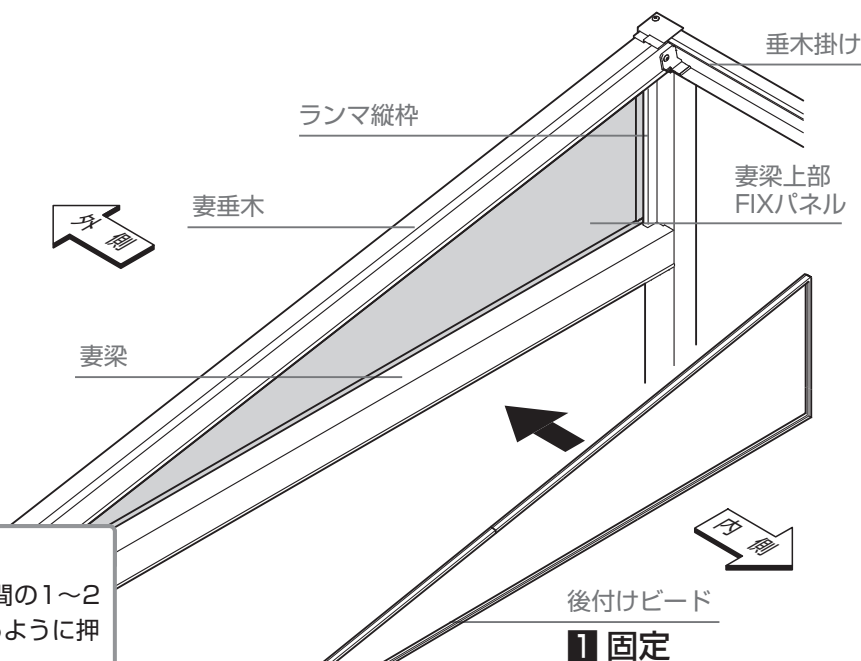
補足

- 妻梁上部FIXパネルの抜け、バタつき防止のため、後付けビードの挿入は固くなっています。



お願い

- 中心部分をたるませた状態で両端部分および中間の1~2箇所を先に押込み、たるみ部分の中心から広げるように押込んでください。



6 本体の施工

6-18 ランマの取付け

つづき

6-18-2 ガーデンルームプラスの取付け

お願い

- ルーム端部側の取付け方法は「基本」と共通です。

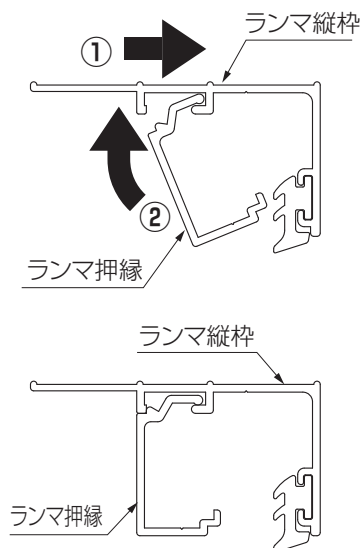
お願い

- 妻梁上部FIXパネルには裏表があります。耐候面表示シールがある方をテラス側にして取付けてください。

- 1: ランマブロックを桁に【本30a】で取付け
- 2: 妻梁上部FIXパネルを差込んで取付け

補足

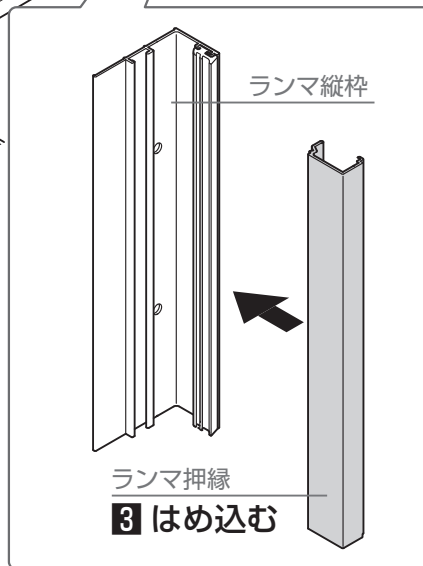
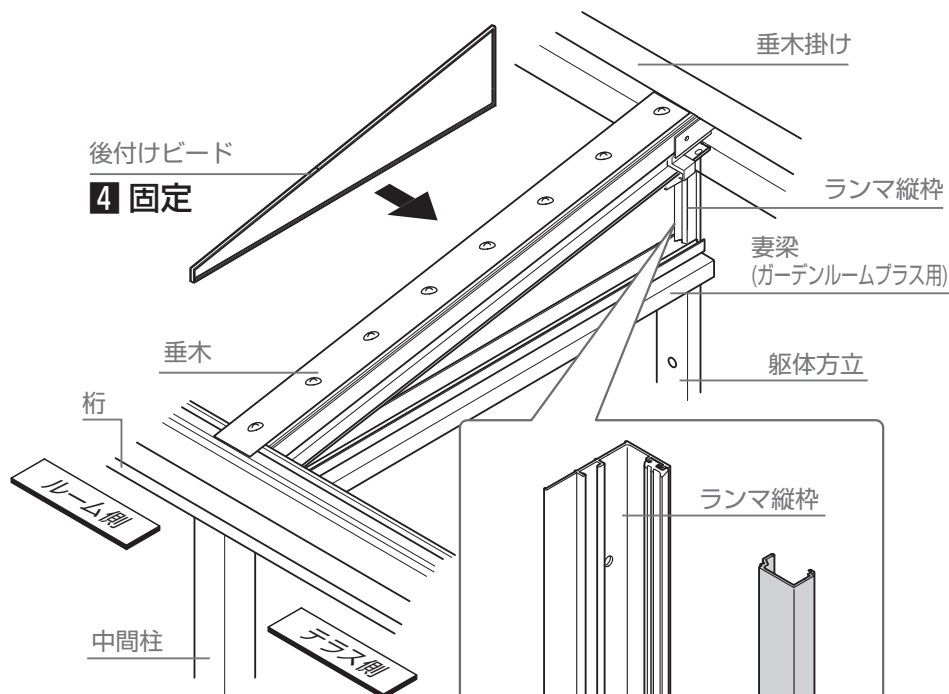
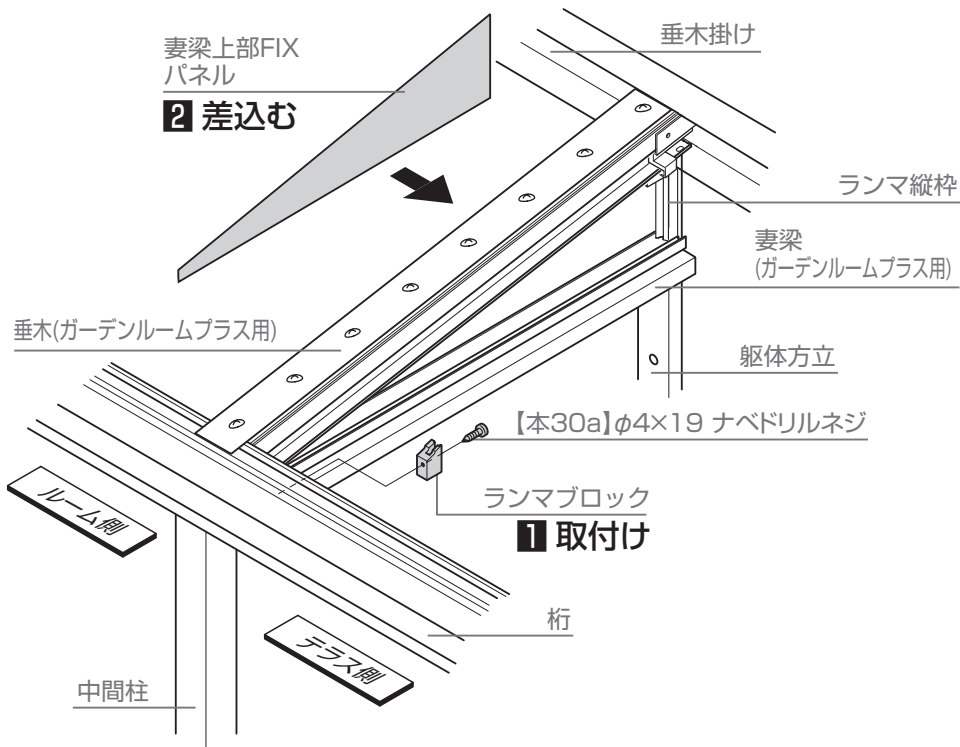
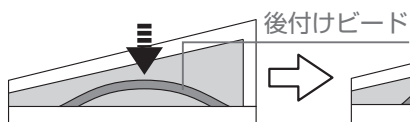
- ランマ押縁は図のようにランマ縦枠へはめ込みます。



- 4: 後付けビードを押し込んで固定

お願い

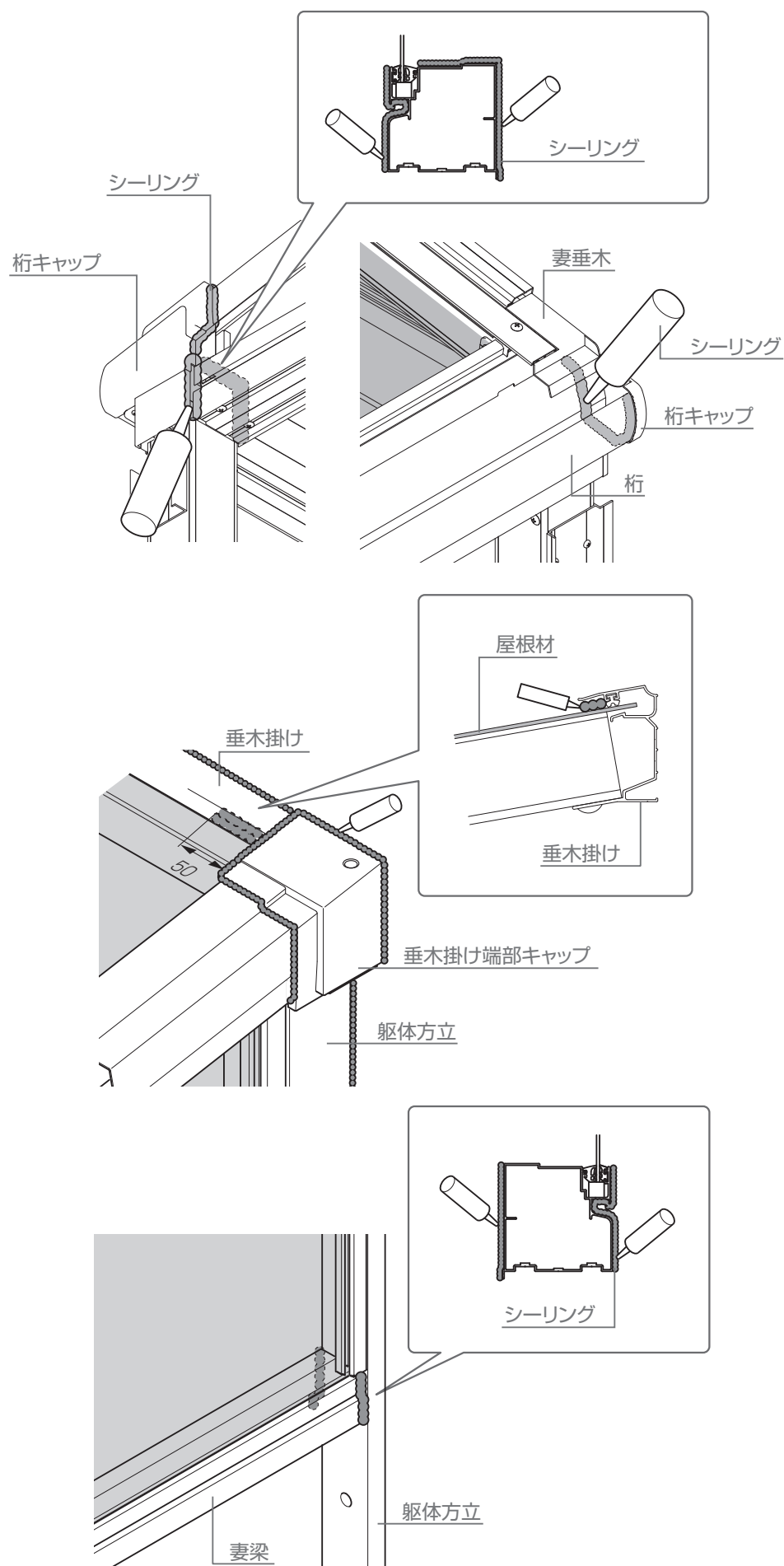
- 中心部分をたるませた状態で両端部分および中間の1～2箇所を先に押込み、たるみ部分の中心から広げるように押込んでください。



6-18 ランマの取付け

つづき

6-18-3 シーリング



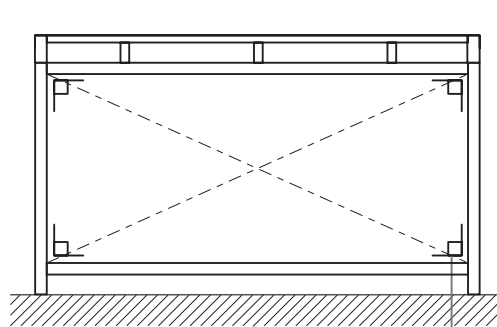
6 本体の施工

6-19 基礎の敷設

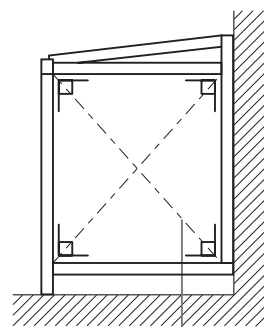
6-19-1 対角、垂直の確認

1: 主柱の垂直を確認

2: 開口部の対角を3mm以内に調整



1 垂直確認



2 対角確認

6-19-2 柱の水抜き穴加工

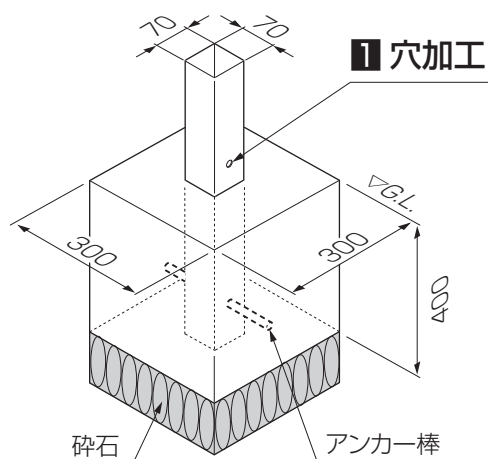
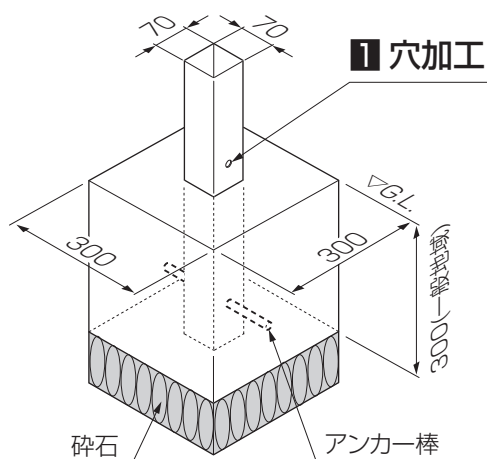
1: $\phi 6$ の水抜き穴を加工

▼ デッキ仕様の場合▼

▼ 土間仕様の場合▼

お願い

- 図の寸法で、柱埋込み穴をコンクリートで埋めてください。
- 柱には必ずアンカー棒を取付けてください。



重要

開口部を施工する場合は、開口部編〈E473〉の施工手順に移動してください。

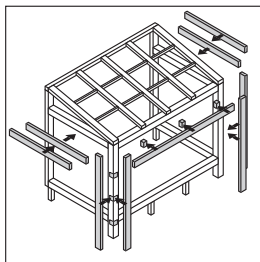
開口部の施工終了後、再度この本体編〈E472〉に戻り、「化粧材加工、取付け」という手順で施工してください。

テラス部はそのまま、この本体編〈E472〉の施工を続けてください。

6 本体の施工

6-20 化粧材の取付け

6-20-1 妻垂木化粧材の取付け



お願い

- 化粧材を取り付ける前に、必ずシーリングを行なってください。シーリングの位置はP.11を参照してください。
- 化粧材設置後は開口部の枠材の取付けはできません。
- 化粧材を取付ける前に開口部の枠材の取付けをおこなってください。

1 妻垂木化粧材取付材を妻垂木に【本37a】で取付け

お願い 1

- 妻垂木化粧材取付材は垂木掛け端部キャップに当て、妻垂木に押付けながら取付けてください。

2 止水パッキンを25mmに切断して、垂木掛けキャップに貼付け

3 止水パッキンを切断した端材を化粧取付材端面から貼付け

4 妻垂木化粧材を妻垂木化粧材取付材にはめ込み

お願い 2

- 妻垂木化粧材は躯体に突き当てて取付けてください。

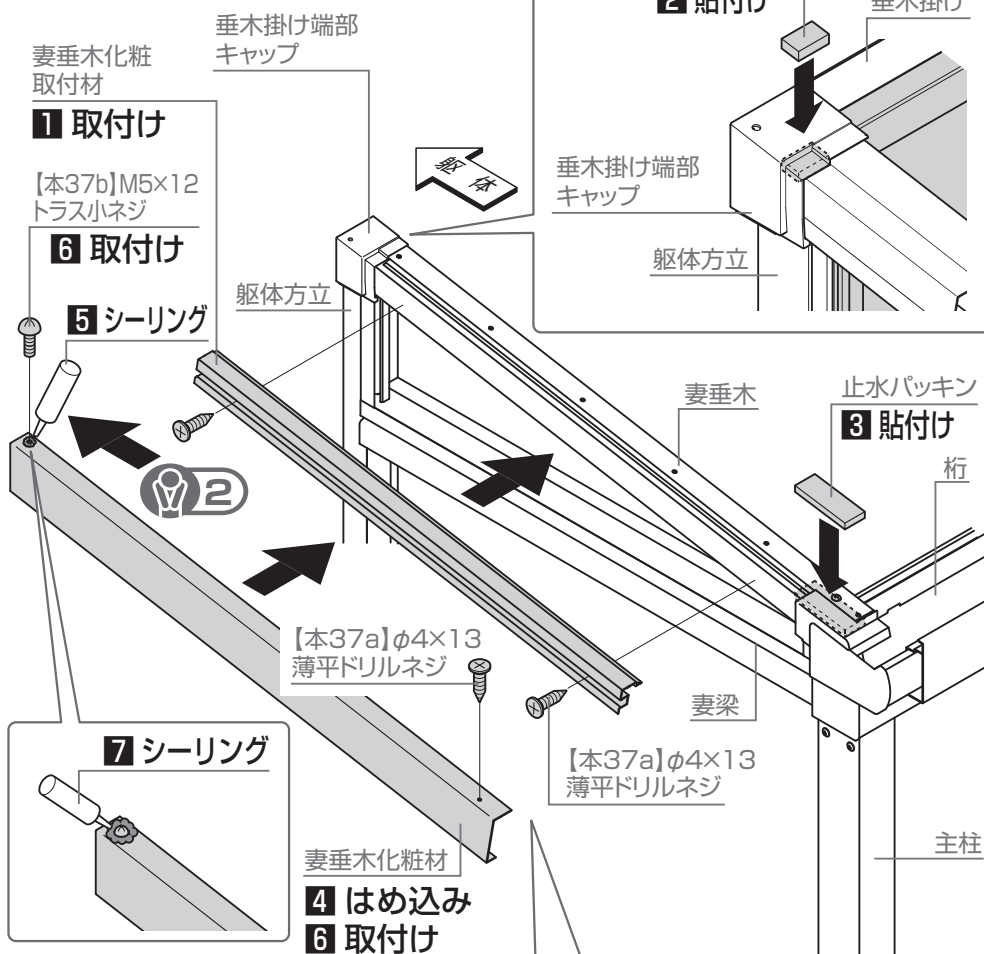
5 躯体側の取付け穴をシーリング

6 妻垂木化粧材を妻垂木化粧取付材に【本37a】および【本37b】で取付け

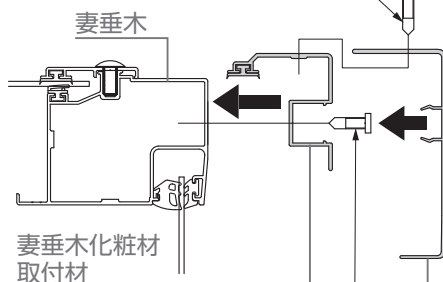
お願い

- 端部斜め切断側が躯体側です。
- 躯体側のネジは【本37b】を使用してください。

7 躯体側のネジ周りをシーリング

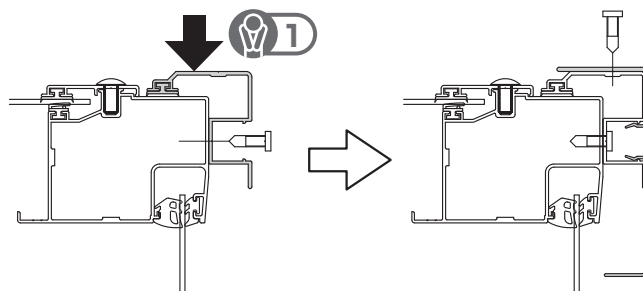


【本37a】φ4×13薄平ドリルネジ
躯体側のみ【本37b】M5×12トラス小ネジ



1 取付け

【本37a】φ4×13薄平ドリルネジ



4 はめ込み 5 取付け

6 本体の施工

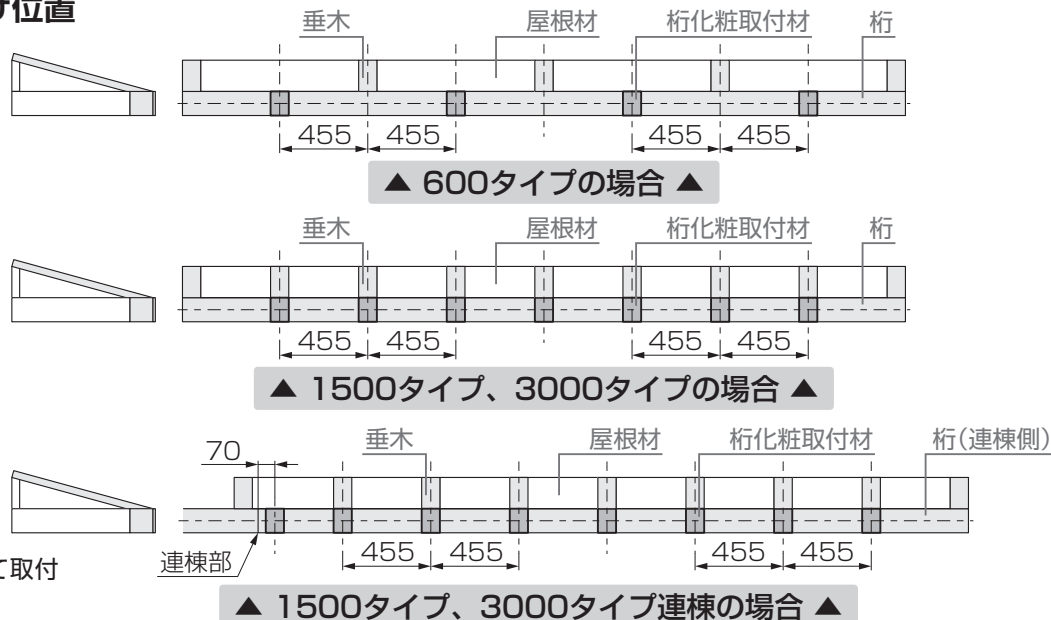
6-20 化粧材の取付け

6-20-2 桁化粧材の取付け

お願い

●化粧材を取り付ける前に、必ずシーリングを行なってください。シーリングの位置はP.11を参照してください。

●桁化粧材取付材の取付け位置



- 1: 桁化粧材取付材を桁に引掛けて取付け位置に仮置き
- 2: 桁に桁化粧材取付材の穴をガイドにφ3.5の穴加工

お願い

- 穴加工は桁化粧材取付材あたり2ヶ所おこなってください。
- 桁に補強スリーブがある場合、いったんφ3.5で補強材まで貫通し、その後、桁のみにφ4.5の穴加工をしてください。

- 3: 桁化粧取付材を桁に【本28e】または【本29e】で取付け

補足

- 加工・組立ての段階で取付けが完了している場合は、この手順は不要です。

- 4: 桁化粧材を桁化粧材取付材に引掛けて仮置き

お願い

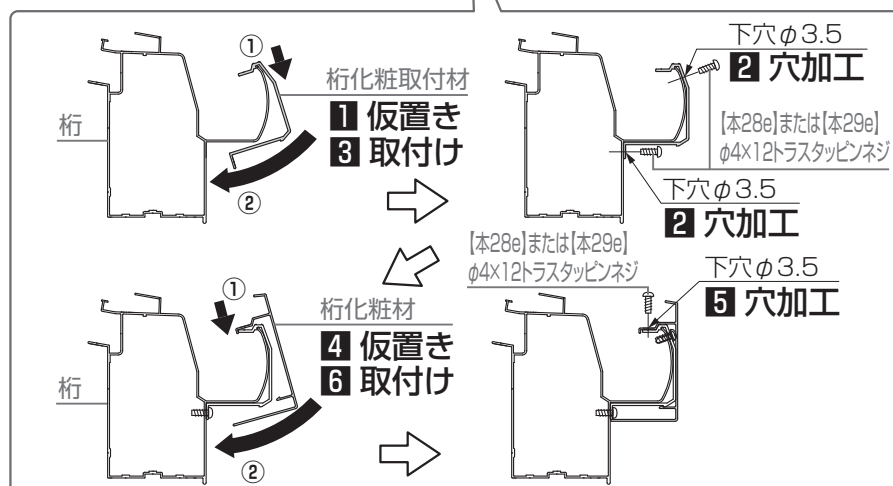
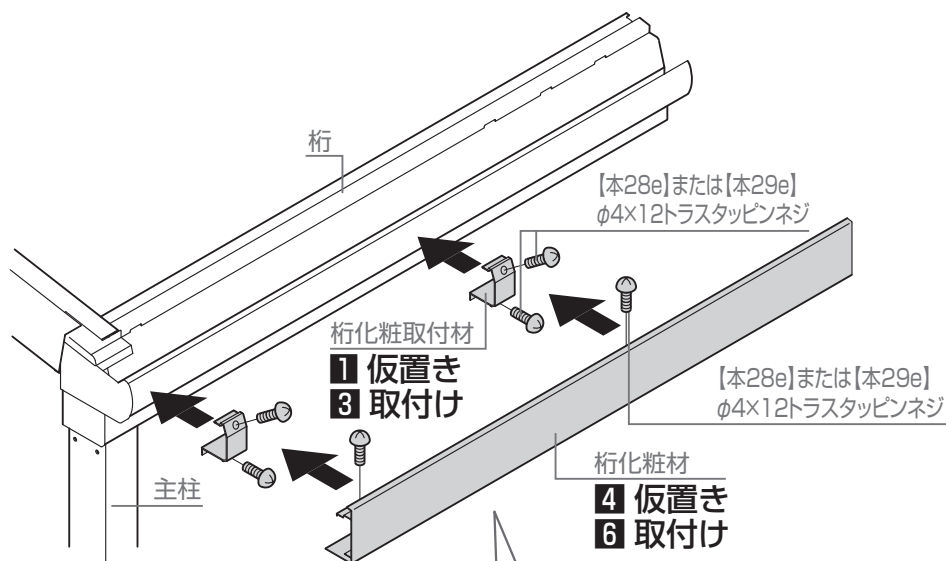
- 桁化粧材端部が桁キャップ外側から内側に74mmの位置で仮置きしてください。

- 5: 桁化粧材の加工穴をガイドに桁化粧材取付材にφ3.5の穴加工

- 6: 桁化粧材を桁に【本28e】または【本29e】で取付け

お願い

- 桁化粧材は桁に対して左右均等に取付けてください。



6 本体の施工

6-20 化粧材の取付け

※柱の化粧材は開口の枠材を取付けた後に行ってください。

つづき

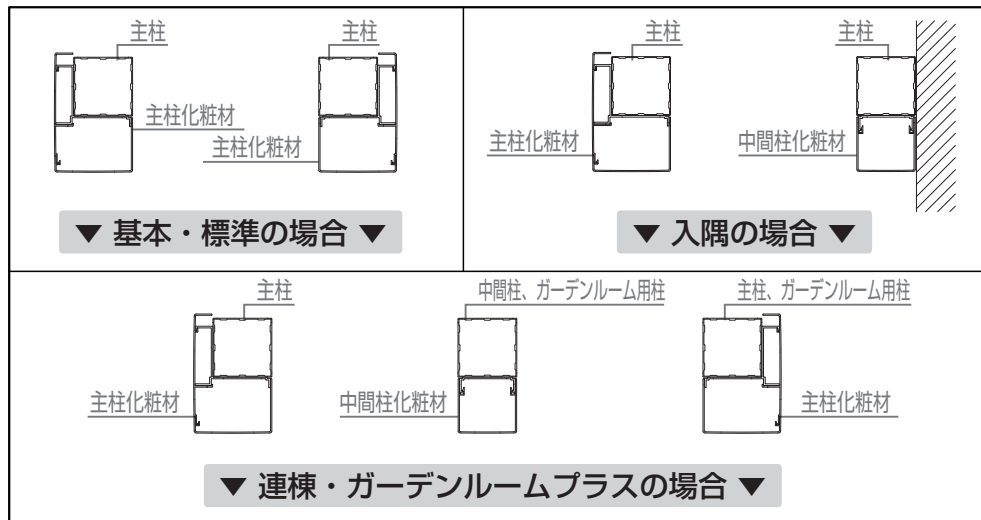
6-20-3 柱化粧材の取付け

●主柱化粧材、中間柱化粧材の納まりイメージ図

お願い

▼ インナーデッキ仕様の場合 ▼

- 床ベース材(側面)のフィンを柱側から5mm以上ニッパーなどで除去してください。



1. 柱化粧取付材の取付け

- 主柱化粧取付材を主柱化粧材AのA寸法位置に取付け

●A寸法

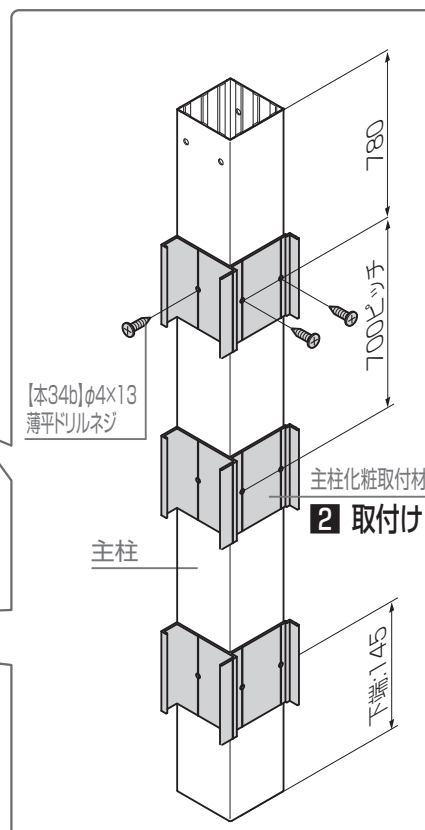
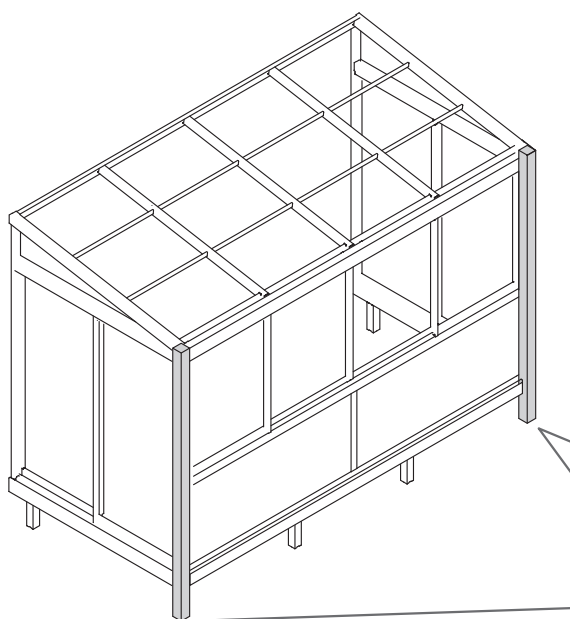
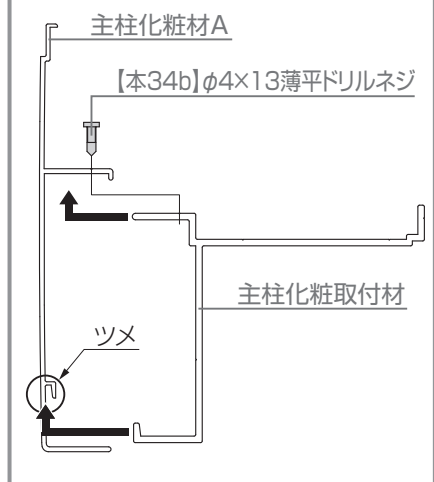
積雪タイプ	A寸法
600	137
1500 3000	157



1 取付け

お願い

- 主柱化粧取付材は、柱化粧材Aのツメにはめ込んで取付けてください。



2 取付け

- 主柱化粧取付材を寸法位置に合わせて主柱に【本34b】で取付け

6 本体の施工

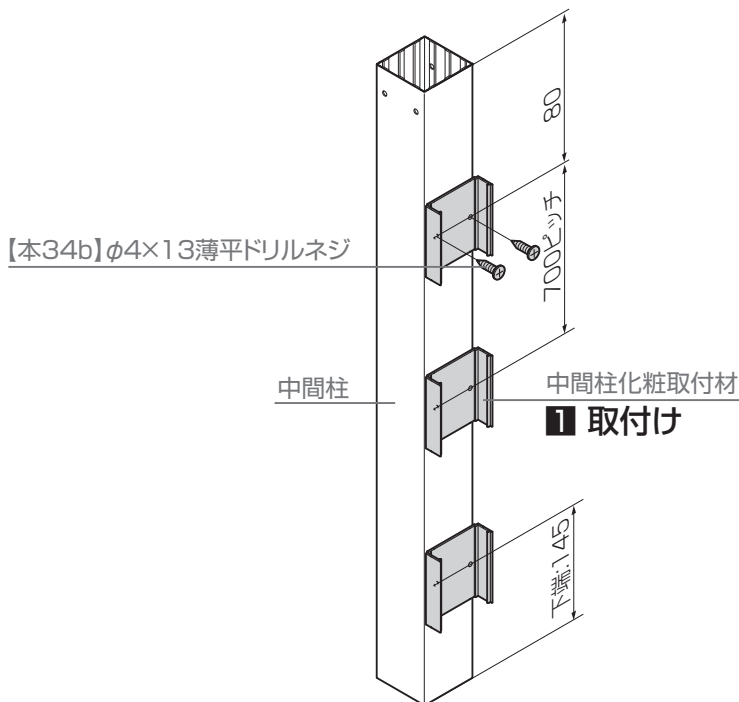
6-20 化粧材の取付け ※柱の化粧材は開口の枠材を取付けた後に行ってください。

6-20-3 柱化粧材の取付け

1. 柱化粧取付材の取付け

▼ 中間柱の場合 ▼

- 1: 中間化粧取付材を寸法位置に合わせて中間柱に【本34b】で取付け



2. 雨どいの取付け

(1) 基本の取付け

- 1: でんでんを主柱に【本28d】または【本29d】で取付け

- 2: 縦どいを切断し、でんでんに取付け

●縦どい長さ(参考)

呼称	土間・デッキ※	インナーデッキ
H20	1945	2495
H22	2145	2695
H24	2345	2895

補 足

- インナーデッキは、F.L.~G.L.=550の場合です。
- 1500タイプ、3000タイプは+20mmしてください。

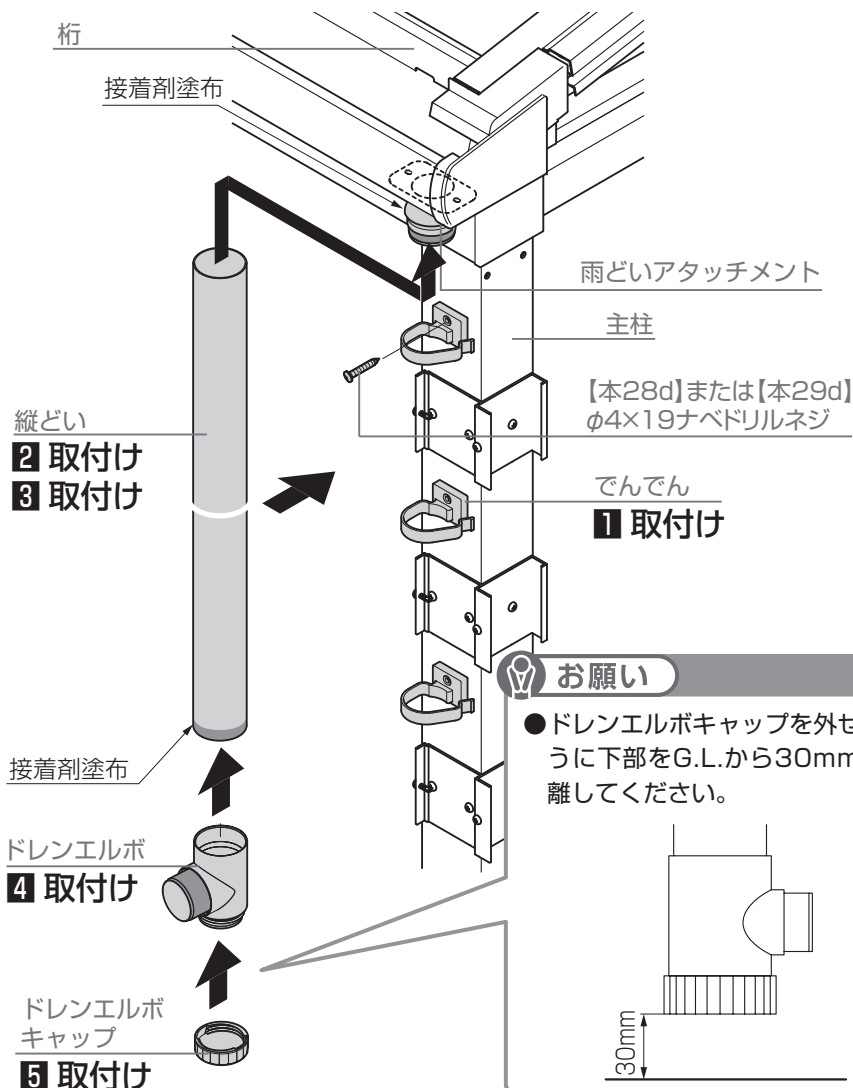
お願い

- 縦どいは現場の状況に合わせた長さに切断してください。

※デッキ上で排水の場合です。
デッキ下に排水する場合は、インナーデッキと同じにしてください。

- 3: 縦どいを雨どいアタッチメントに取付け

- 4: ドレンエルボを縦どいに取付け



お願い

- ドレンエルボキャップを外せるように下部をG.L.から30mm程度離してください。

6 本体の施工

6-20 化粧材の取付け

※柱の化粧材は開口の枠材を取付けた後に行ってください。

つづき

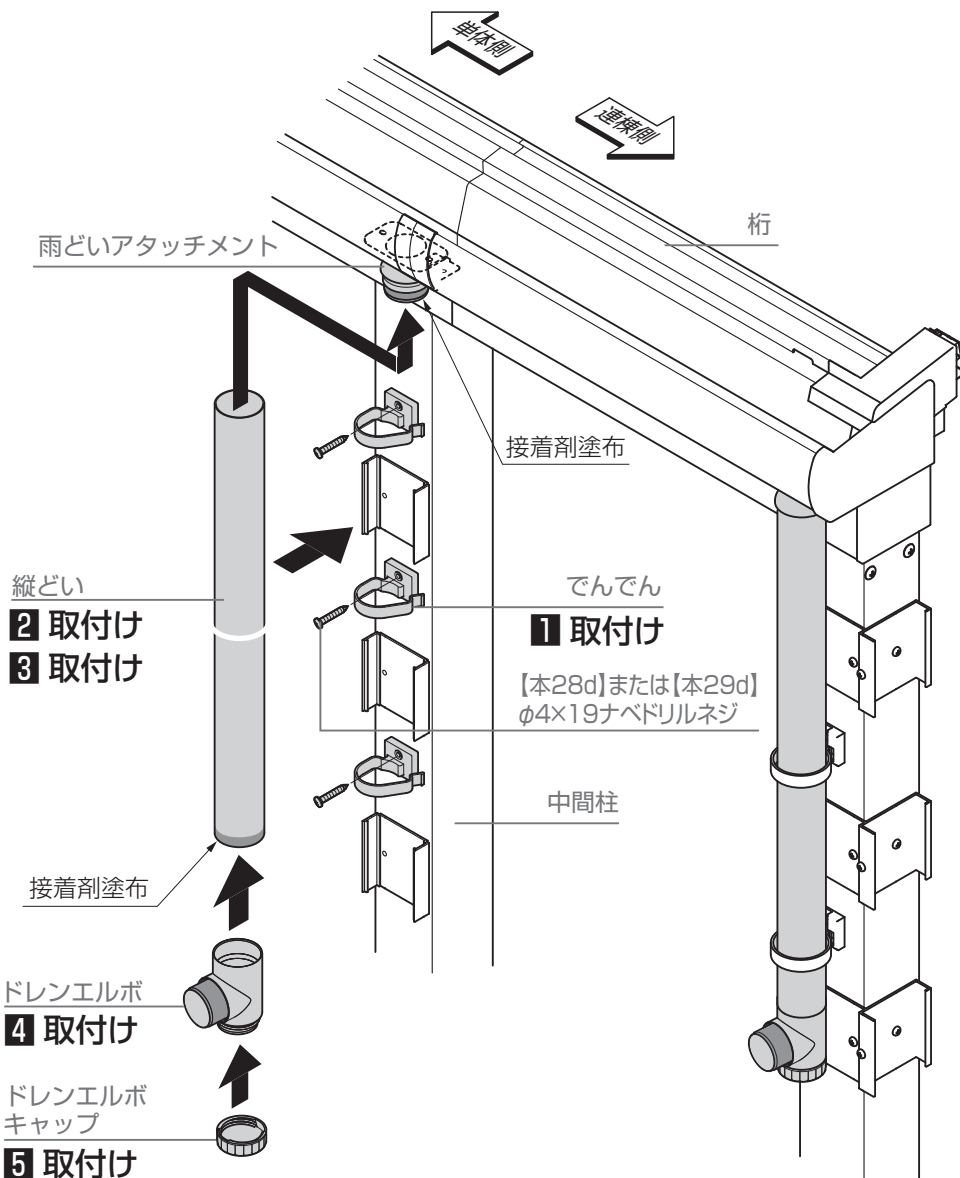
6-20-3 柱化粧材の取付け

つづき

2. 雨どいの取付け

(2) 連棟、ガーデンルームプラス、入隅の取付け ※図は中間柱への取付けを示します。

- 1: でんでんを中間柱に【本28d】または【本29d】で取付け
- 2: 縦どいをでんでんに取付け
- 3: 縦どいを雨どいアタッチメントに取付け
- 4: ドレンエルボを縦どいに取付け
- 5: ドレンエルボキャップをドレンエルボに取付け



基本

連棟

入隅

部分入隅

躯体側出幅違

躯体側出幅違

F472 202002A

6-20 化粧材の取付け

つづき

6-20-3 柱化粧材の取付け

つづき

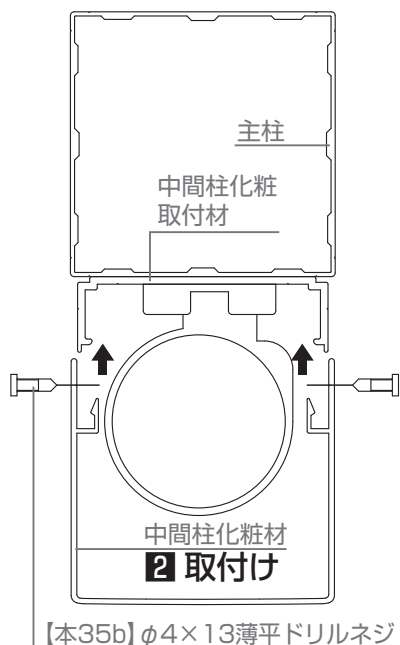
3. 柱化粧材の取付け

▼ 中間柱の場合 ▼

- 1: 中間柱化粧材を中間主柱化粧取付材に【本35b】で取付け

お願い

- 主柱化粧板取付材は、柱化粧材Aのツメにはめ込んで取付けてください。



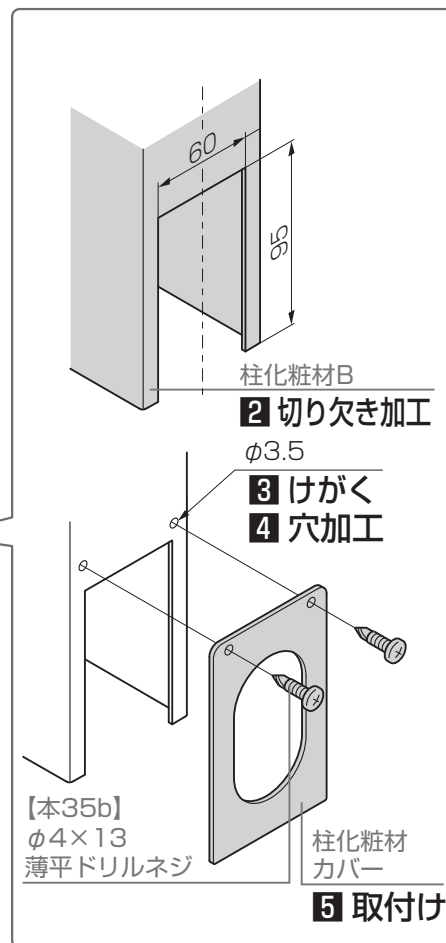
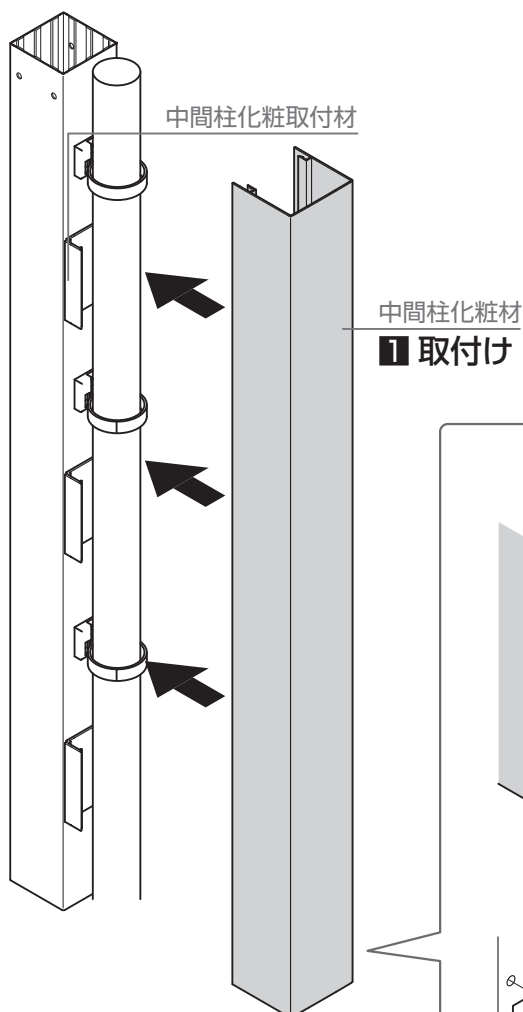
補足

- 入隅側のネジ固定は不要です。

- 2: 中間化粧材下部に切り欠き加工
 3: 中間化粧材に柱化粧材カバーを当て、穴位置をけがく
 4: 中間化粧材にφ3.5の穴加工
 5: 柱化粧材カバーを中間化粧材に【本35a】で取付け

お願い

- 中間柱化粧材小口面をカバーする位置で固定してください。



7 床幕板の施工

7-1 床ベース材にのみ取付ける場合

7-1-1 部材の加工

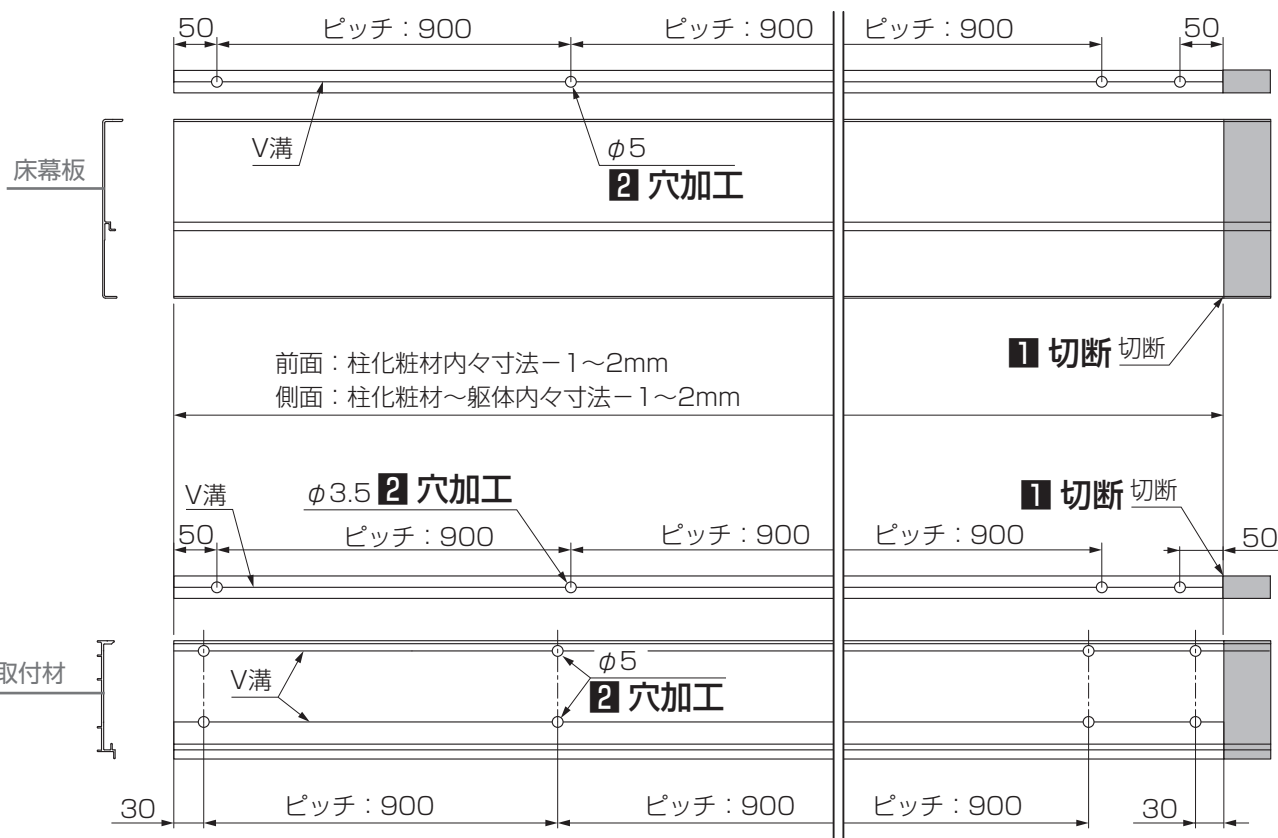
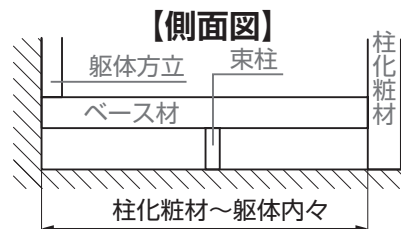
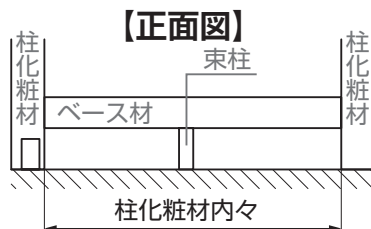
- 1: 床幕板取付材、床幕板を実測寸法で切断
- 2: 床幕板取付材、床幕板に $\phi 3.5$ 、 $\phi 5$ の穴加工

お願い

- 床幕板取付材、床幕板は下記の実測寸法にて切断してください。
 - ・ 前面：柱化粧材内々寸法－1～2mm
 - ・ 側面：柱化粧材～躯体内々寸法－1～2mm

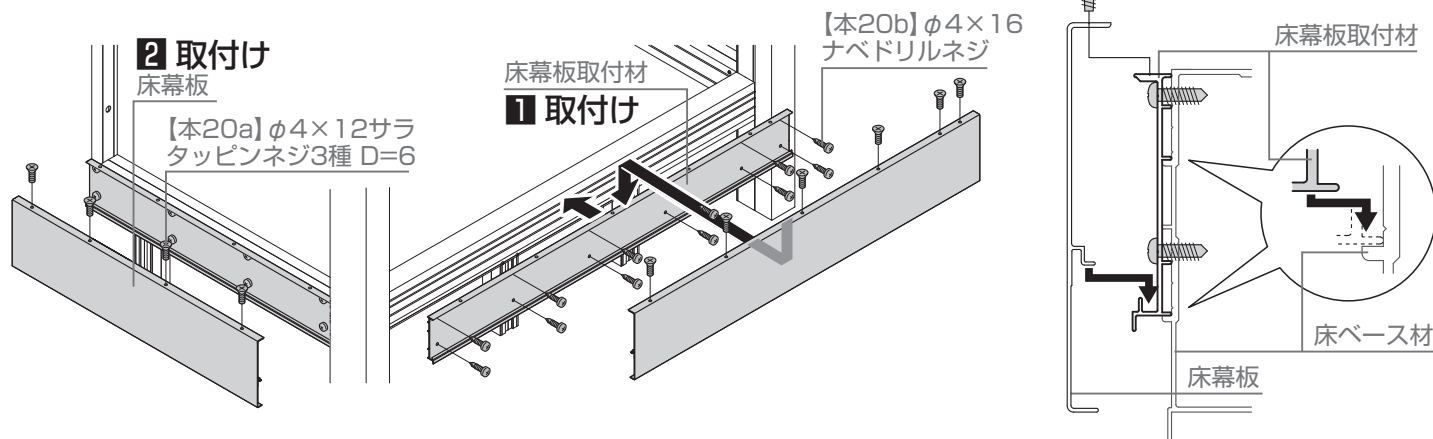
▼ 入隅の場合 ▼

- 前面の実測寸法は「柱化粧材～入隅側躯体内々寸法」としてください。



7-1-2 部材の取付け

- 1: 床幕板取付材を床ベース材に【本20b】で取付け
- 2: 床幕板を床幕板取付材に【本20a】で取付け



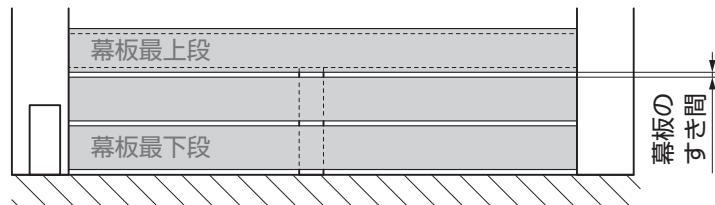
7 床幕板の施工

7-2 床板を多段に取付ける場合

7-2-1 部材の加工

お願い

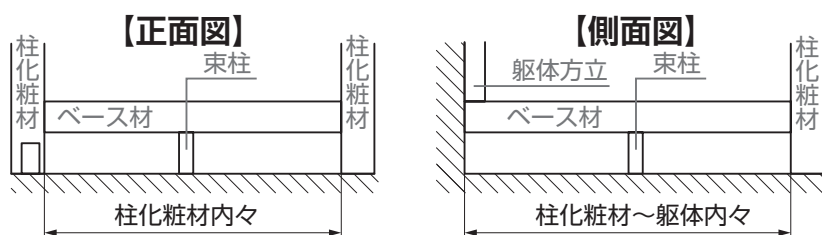
- 床幕板は最下段から順番に組み立ててください。
- 数値は幕板のすき間の最小の5mmの場合を示します。
間隔を5mm以上で施工する場合はプラス分の数値を加算してください。



- 1: 床幕板取付材、床幕板を実測寸法で切断
- 2: 床幕板取付材、床幕板に $\phi 3.5$ 、 $\phi 5$ の穴加工

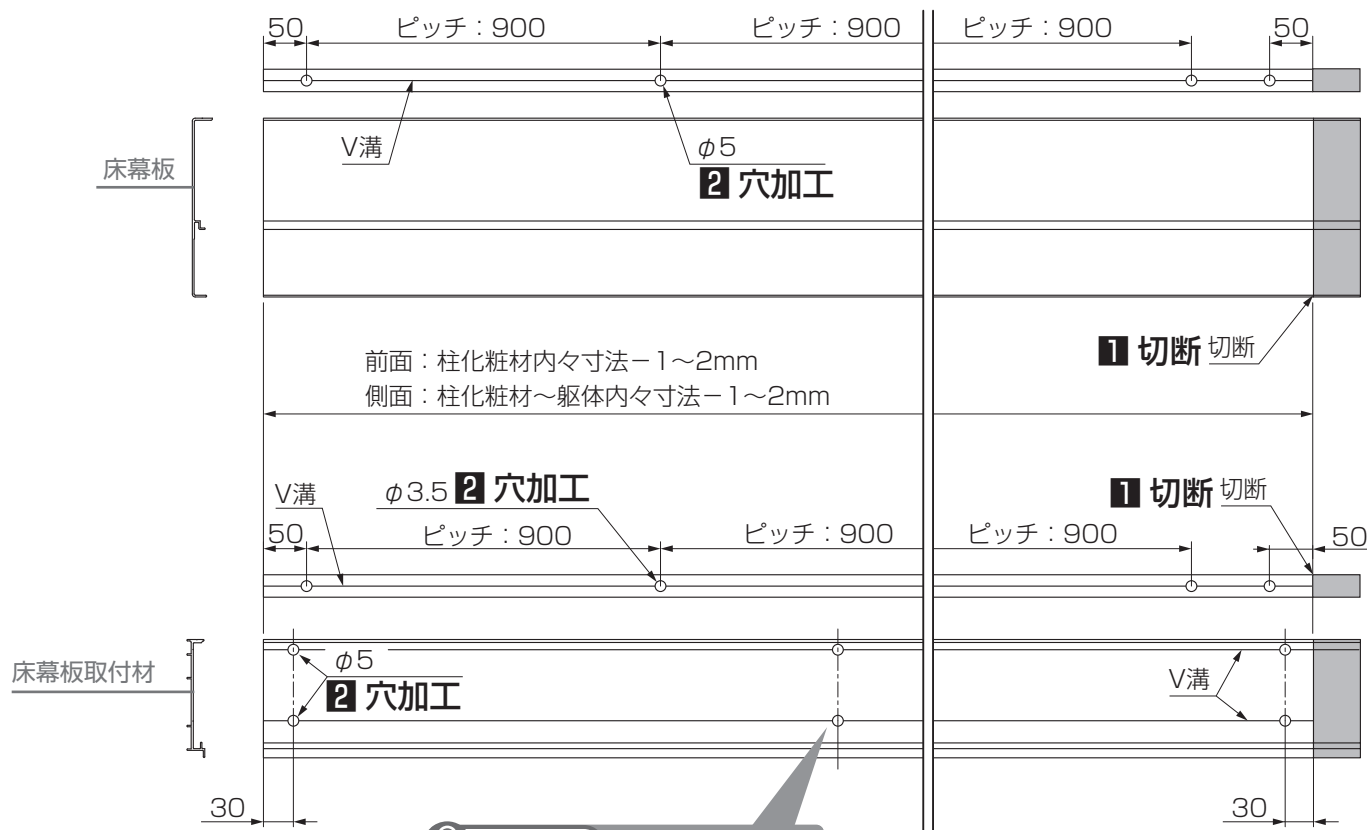
お願い

- 床幕板取付材、床幕板は下記の実測寸法にて切断してください。
- ・前面：柱化粧材内々寸法－1～2mm
- ・側面：柱化粧材～躯体内々寸法－1～2mm



▼ 入隅の場合 ▼

- 前面の実測寸法は「柱化粧材～入隅側躯体内々寸法」としてください。



お願い

- 真ん中の $\phi 5$ 穴加工は、束柱のセンターに加工してください。

7 床本体の施工

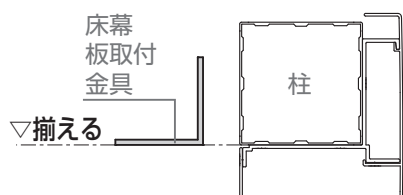
7-2 床板を多段に取付ける場合

7-2-2 部材の取付け

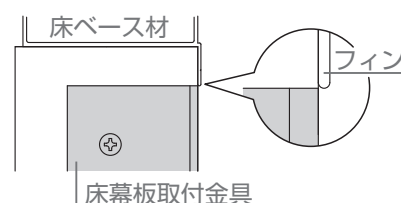
1: 床幕板取付金具を主柱に【本20b】で取付け

お願い

- 床幕板取付金具は2段目から取付けてください。
- 床幕板取付金具と主柱の外面が揃うように取付けてください。



- 2段目の床幕板取付金具は床ベース材外側フィン下端に接する位置に取付けてください。



▼ 3段目以降を取付ける場合 ▼

お願い 1

- 3段目以降の床幕板取付金具は2段目以降の金具に揃えて取付けてください。

2: 床幕板取付金具にφ5の穴加工

お願い 2

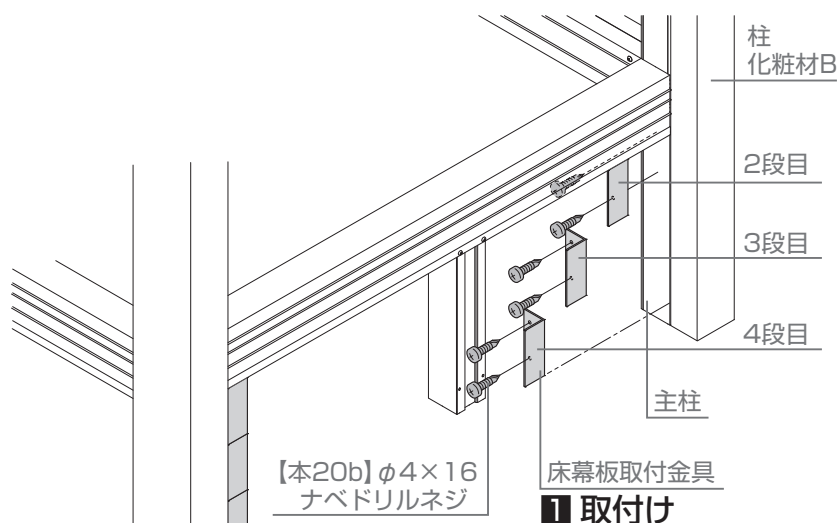
- ※の数値は金具上端からの寸法値です。

3: 床幕板取付材を床幕板取付金具、束柱に【本20b】で取付け

4: 床幕板を床幕板取付材に【本20a】で取付け

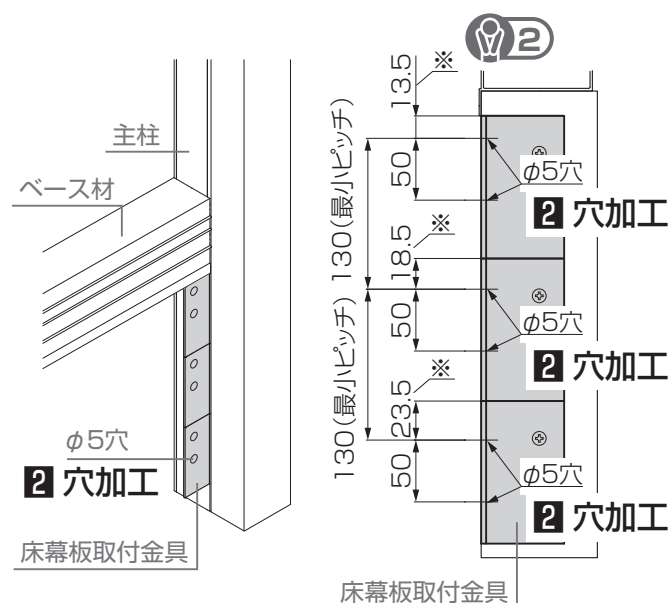
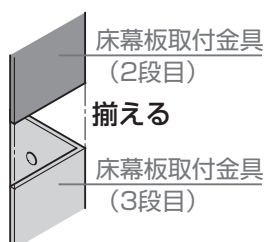
お願い

- 3、4は必ず最下段からおこなってください。



1 取付け

1



2 穴加工

2

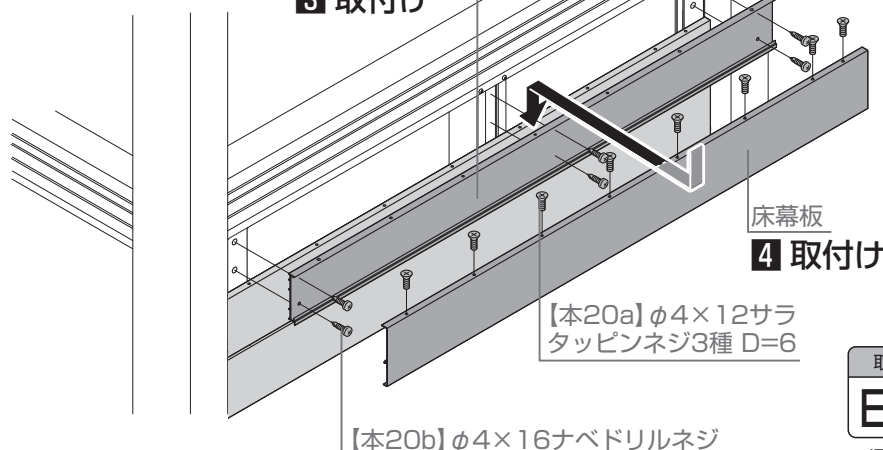
2 穴加工

2 穴加工

2 穴加工

床幕板取付材

3 取付け



床幕板

4 取付け

【本20a】φ4×12 サラ
タッピンネジ3種 D=6

【本20b】φ4×16 ナベドリルネジ

取説コード

E472

JZZ636574
202002A_1049